国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語基本語辞典-基本1001位～1500位-(試行版)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所日本語教育・情報センター 公開日: 2024-10-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島村, 直己, 佐藤, 亮一, 正保, 勇, 飛田, 良文 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000338

日本語基本語辞典

―基本１００１位～１５００位―

（試行版）

島村直己　佐藤亮一　正保　勇　飛田良文

平成 25 年 1 月

国立国語研究所
日本語教育研究・情報センター

419

刊行にあたって

次の会話は，教師と日本語学習者の会話です。「春休みはどこかへ行きますか？」「まだ，*知りません」（*下線部分：不自然な表現・誤用を示す），「ご主人は何時ごろおかえりになりますか？」「すみません，*知りません」。これらは，「わかりません」というべきところを「知りません」を使用して不自然な日本語となっています。また，学習者は「駅に行ったら，*もうすぐ電車が来ました」「先生，*すぐ春休みです」など，「すぐ」と「もうすぐ」の区別が難しく，誤用を産出します。このように日本語学習者にとって言葉を一つひとつ学んでもその意味や使い方を十分に理解しなければ，実際に正しく使えるようにはなりません。その意味で，辞書は外国語を学ぶ学習者にとって重要であり不可欠な存在です。

日本語教育学会が2010年，世界の日本語教師427人に行ったWebアンケートでは，ほしい情報は，「教材」「教え方」「フリーの画像イラスト」に次ぎ，「Web辞書などの言語リソース」でした。また，情報を収集する際に利用するWebサイトでは，「ニュース」の一位に次いで『みんなの教材サイト』（国際交流基金）と「辞書サイト」が使われていることがわかりました。このように辞書の役割は大きく，特に海外で教えている日本語教師にとって，辞書は日本語指導の羅針盤にも匹敵します。

この度，平成21年度9月に刊行した『日本語基本語彙辞典―初級500語―』，平成23年度10月に刊行した『日本語基本語辞典―基本501位～1000位―』に続き，『日本語基本語辞典―基本1001位～1500位―』を作成することができました。この辞典は，外国人にもわかりやすい表現を心がけて作成するという目的で，佐藤亮一（国立国語研究所名誉所員），正保勇（東京外国語大学名誉教授），飛田良文（国立国語研究所名誉所員）の三氏のご協力のもと，島村直己上級研究員が中心となって作成したものです。

本書の特徴は，日本語を学ぶ外国人の立場に立って，平易な説明表現が用いられ，豊富な用例に加え，ところどころに「語法」「表記」「語源」「文化」「参考」のコラムがあることが挙げられる。いずれも，日本語を学ぶ学習者にとって有用な情報であり，言葉だけでなく，言葉を通して文化を理解することにも役立ちます。

世界では依然として日本語学習者数は増加傾向にあります。また，国内でも2008年，政府が発表した「留学生30万人計画」によって国内の外国人の数も増加が見込まれます。このような現状を迎え，本書が学習者の人々，また日本語教師にとって，それぞれの「学び羅針盤」の役割を果たすことができれば，幸いです。

最後に，ご協力くださった三氏をはじめ，この辞典の完成にかかわってくださった多くの皆さまに深く感謝し，御礼を申し上げます。

平成25年1月

国立国語研究所 日本語教育研究・情報センター
センタープロジェクト・リーダー　迫田久美子

凡　例

本報告書は，すでに刊行した『日本語基本語辞典－初級500語－』『日本語基本語辞典－基本501位～1000位－』の続編である。国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』(1984年)で「より基本的な語」とされた2030語の中からすでに執筆を終えた語と重複しない語を対象に，筆者らの判定によって500語を選定して意味記述を行った。その目的と方法については，『日本語基本語辞典－初級500語－』に書いてあるとおりなので，繰り返さない。また，要約を執筆要領にあげているので，興味のある方はそちらを参照されたい。

本報告書の執筆分担は，次のとおりである。

あいて（相手）	～きんにく（筋肉）	佐藤亮一
く（区）	～せんしゅう（先週）	島村直己
ぜんたい（全体）	～はで（派手）	正保　勇
はね（羽）	～わりあい（割合）	飛田良文

「日本語基本語辞典」執筆要領

この『日本語基本語辞典』は，日本語を学ぶ外国人のための基本語辞典である。その基本語とは，外国人が日常生活を送る上で困らない2000語のことである。

1. それぞれの見出し語について，仮名表記，標準表記，品詞，語釈を示す。また，随所に，［語法］［表記］［語源］［文化］［参考］のコラムを設ける。

2. 見出し語の配列は五十音順による。具体的には，パソコンソフトのsortfの五十音順ソートの配列に従う。

3. 見出し語の表記欄には，標準的と思われる表記を示す。和語・漢語で適切な漢字表記がないものは平仮名書きを標準表記とする。外来語の場合には，ズボン（jubon　フランス語），スカート（skirt）のように原綴りを示す（英語出自の場合には「英」は省略する）。

4. 品詞欄には，「名」（名詞），「代」（代名詞），「形」（形容詞），「形動」形容動詞），「副」（副詞），「接尾」（接尾辞），「接頭」（接頭辞），「連体」（連体詞），「感」（感動詞）のように省略して品詞を示す。動詞の場合，活用の種類と自動詞，他動詞の別を「五自」「下一他」「上一自」「名・ス他」「名・形動・副」「サ変自他」のように品詞名を省略して示す。実際に現れたものを一覧すると，次のようになる。「名」「代」「五自」「五自他」「五他」「四他」「カ変自」「サ変自」「サ変自他」「サ変他」「ス自」「ス自他」「ス他」「トス自」「上一自」「上一自他」「上一他」「下一自」「下一自他」「下一他」「形」「形動」「副」「トタル」「連体」「接」「感」「接頭」「接尾」

5. 語釈は，下位区分ごとに①②③…の数字で区別する。また，語釈と用例は改行で区別する。

6. 名詞の副詞的用法は，［語法］欄で説明することにして，品詞は名詞表示のままとする。用例には名詞の用法と副詞的用法の両方を必ず入れる。

   例：きょう（今日）［名］

   「今日はいい天気だ」「今日映画に行きませんか？」

7. 名詞と接辞の両方の用法がある語は，見出しをまとめるが，語釈で【Ⅰ】【Ⅱ】のように分ける。

   例：ばん（番）［名・接尾］

   Ⅰ［名］

   ①　割り当てられた位置。

   「今度は君の番だ」「僕の番までなかなか回ってこない」

   ②　見張りをすること。

   「店の番をする」「僕が番をしているから君は休んでいていいよ」

Ⅱ［接尾］

順番を数える語。

「一番バッターが出塁する」「二番バッターは俊足だ」

8. 接辞の用法しかないものは独立して立項する。

9. 複数の表記があるものは，見出しを分ける。1見出し1表記を原則とする。

10. 複数の品詞を含む語は見出しを一つにまとめるが，語釈の部分では，Ⅰ，Ⅱのように分ける。
例：げんき（元気）【名・形動】

【Ⅰ】【名】

からだの調子がよく，気力のあること。

「もっと元気を出そう」

【Ⅱ】【形動】

からだの調子がよく，気力のあるようす。

「あの人はいつも元気だ」「元気な人がうらやましい」

11. 本辞典の性格上，現代語として一般に使用されている意味・用法のみを記述し，現代では使用されることがほとんどないと考えられる古い意味・用法や特殊な（専門的な）意味・用法は記述しない。

12. 用例は一般の国語辞典よりは多めにあげる。ただし多過ぎないように配慮する。用例は使用場面が分かるように長めに作る。ただし長過ぎないように（冗長にならないように）配慮する。また，一般的に使用される用例を作るように心がける（極端に文学的な表現や，実在の人物名を含む用例，専門的な用例などは避ける）。

13. 語釈には専門的・学術的な表現は避け，簡潔な表現をこころがける。

14. 語釈にはなるべく平易な単語・漢字を用いる。語釈には，平均的な中学生が理解する語彙を使うことを原則とする。

意味記述編

―あいて(相手)～わりあい(割合)―

あいて（相手）［名］
① 一緒に何かをする人や集団。
「彼は私の囲碁の良き相手だ」「明日のサッカーの相手は韓国のチームだ」「花子は太郎の結婚の相手としてふさわしい女性だ」
② 自分と向かい合って何かをする人。
「親友を相手にぐちをこぼす」「妻を相手にビールを飲む」
③ 対立する人，または，集団。
「けんかの相手をなぐり倒す」「相手の立場を尊重する」「テロ集団を相手に戦う」「今度の交通事故は相手が悪いと思う」
④ （「相手にしない・相手にされない」の形で）無視する（無視される）。
「暴力団は相手にしない方がいい」「そんなことをしていると誰からも相手にされなくなるよ」

あきらめる（諦める）［下一他］
自分の望みが実現できないことを自覚して，実現に向かって努力することをやめる。
「彼女との結婚をあきらめる」「大学を受験することをあきらめる」「最後まであきらめてはいけない」「あきらめるのはまだ早いよ」「どうしてもあきらめきれない」

あきる（飽きる）［上一自］
同じことを長く続けて，それ以上したくなくなる。
「勉強に飽きる」「結婚生活に飽きる」「いつまで聴いていても飽きない」「飽きるほど同じ話を聞かされた」

アクセント（accent）［名］
① 言語または方言ごとに，一定のアクセント単位（単語・文節・音節など）について，社会的慣習として決まっている高低または強弱の相対的関係。
「アナウンサーは標準語のアクセントを発音しなければならない」「彼は九州出身なので，アクセントが東京生まれの人と違っている」「アクセントを手掛かりとして，犯人の出身地を推定する」
② 「服装・料理・音楽」などで目立たせる部分。
「襟にブローチでアクセントをつける」「地味な柄（がら）だから何かアクセントをつけた方がいいよ」「手料理にアクセントをつける」「ミの音にアクセント記号がついている」
［語法］
日本語や中国語などは高低アクセントであり，英語やドイツ語などは強弱アクセントである。また，フランス語や日本語の方言には，型が一つしかない一型アクセントや，一定の型をもたない無アクセント（無型アクセント）がある。

あご（顎・頤）［名］
口の上下の堅い部分。上あご（うわあご）と下あごに分かれる。下あごのみを指すこともある。
「あごががくがくする」「あごが痛い」「あごがはずれる」
［慣用句］
あごで使う

自分は何もしないで他人をはたらかせる。
「あごで人を使うときらわれるよ」
あごが出る
ひどく疲れる。
「今日はあごが出るほどはたらいた」

あずかる（預かる）［五他］
①　他人から頼まれて一時的に保管する。
「すみませんが，この荷物をしばらく預かっていただけませんか」「パーティーの会費はたしかにお預かりしました」
②　責任をもって世話をする。
「保育所は幼い子どもを預かる施設です」「医者は人の命を預かる尊い職業です」
③　管理をまかされる。
「昔は主婦が家計を預かっていた」「そんなことは私の預かり知らぬことです」

あずける（預ける）［下一他］
①　一時的に保管を依頼する。
「コートをホテルのフロントに預ける」「銀行にお金を預ける」
②　世話を依頼する。
「子どもを親に預けて旅行する」「年老いた親を施設に預ける」
③　信頼する相手に従う。
「私の将来は社長にお預けします」

あたえる（与える）［下一他］
①　相手の利益になる物ごとを受けさせる。
「孫に小遣い（こづかい）を与える」「犬に餌を与える」「サッカーのなでしこチームに国民栄誉賞を与えた」「社員に休暇を与える」
②　相手のためになることを指示する。
「火事にならないよう注意を与える」「夏休みの課題を与える」
③　心にひびく行為を受けさせる。
「社長に良い印象を与えた」「彼の演説は人々に深い感動を与えた」
「医者のその言葉は患者に安心感を与えた」「授業での原子爆弾の話は生徒たちに大きなショックを与えた」「オリンピックでの活躍は国民に深い感動を与えた」「大津波は人々に深い悲しみを与えた」
④　事件や行為が相手に不利益を生じさせる。
「爆撃は敵の軍艦に大きな損害を与えた」「株の大暴落は日本の経済に大きな打撃を与えた」
［語法］
「与える」は書きことば的。①の場合，話しことばでは「あげる」または「やる」と言うことが多い。

あたたか（温か）［形動］
①　水温が冷たくも熱くもなく，気持ちがいい。
「温かな風呂に入りたい」
②　態度が親切で相手の気持ちをほのぼのとさせる。
「先生から温かなことばをかけられた」
［語法］
「温か」よりも形容詞の「温かい」を使うことが多い。話しことばでは「あったか」とも言う。
［表記］
②は「暖か」とも書く。

あたたか（暖か）［形動］
①　気温が寒くも暑くもなく，気持ちがいい。
「今日は暖かだね」「3月の九州はたぶん暖かだろう」
②　態度が親切で相手の気持ちをほのぼのとさせる。
「彼は誰に対しても暖かな態度で接する」
［語法］
「暖か」よりも形容詞の「暖かい」を使うことが多い。話しことばでは「あったか」とも言う。
［表記］
②は「温か」とも書く。

あたためる（暖める・温める）［下一他］
①　温度を上げて気持ちの良い状態にする。
「風呂にはいって体を温める（暖める）」「さめたお茶を温める」
②　手もとに置いて，さらに良い状態にする。
「書き終えた原稿をあたためておく」
③　（「旧交をあたためる」の形で）久しぶりに会って楽しく過ごす。
「小学校時代の友人と20年ぶりに会って旧交をあたためた」
［語法］
話しことばでは「あっためる」とも言う。

あたりまえ（当たり前）［形動］
常識と思われていること。当然。
「学生が勉強するのは当たり前だ」「当たり前のことを言うな」

あたる（当たる）［五自］
①　なにかにぶつかる。
「自動車を駐車場に入れようとしたら，バックミラーが壁に当たってこわれた」「自転車が通行人に当たった」
②　風や熱の影響を受ける。
「木の葉（このは）が風に当たってゆれている」「たき火にあたって体を温める」「この部屋はよ

く日が当たるので，冬も寒くない」
③　なにかに接触して違和感をおぼえる。
「足の指先が靴に当たって歩きにくい」「満員電車の中で背中が人のカバンに当たって痛い」
④　予想したとおりになる。予想が的中する。
「試験の山が当たって（出るのではないかと思って勉強しておいた問題が出て）合格した」「いつかは原発事故が起きるのではないかという心配が当たってしまった」「地震の予知はなかなか当たらない」
⑤　運よくうれしい状態になる。
「宝くじに当たる」「いい上司にあたったので仕事がしやすい」
⑥　運わるくまずい状態になる。
「くじびきで手ごわい対戦相手に当たってしまった」
⑦　役割をはたす。
「町の警戒に当たる」「誠意をもって与えられた任務に当たる」
⑧　知識を得るために調べる。
「分からないことばがあったら辞書に当たってみよう」「多くの文献に当たって論文を書き上げる」
⑨　温度や食べ物・飲み物が原因でからだがおかしくなる。
「長湯したために湯に当たってのぼせてしまった」「ふぐの毒に当たって入院した」
⑩　対応する。相当する。
「中国の１元はほぼ13円に当たる」「青森方言のアズマシイは共通語の「気持ちがいい」にほぼ当たる意味ですが，ニュアンスがやや違います」「このりんごは一山100円ですが，一個約20円に当たります」
⑪　（正当な理由がないのに）相手に攻撃的な言い方をする。
「仕事がうまくいかず，家に帰ってつい家族に当たってしまった」
⑫　（「失礼に当たる」の形で）失礼である。
「男性が女性に握手を求めるのは失礼に当たる行為である」「そんなことを言っては失礼に当たりますよ」

あと（跡）［名］
①　そこに残された形。
「泥棒の足跡が残っている」「ひき逃げしたくるまのタイヤの跡が証拠になり，犯人がつかまった」「交通事故の傷の跡が残っている」
②　過去になにかが存在した（または行われた）場所。
「ここは昔，小学校があった跡です」「関ヶ原は天下分け目のたたかいがあった跡です」
③　過去にしたこと。
「努力の跡が認められる」「跡を振り返るとなつかしい」
④　ほかの人がしていた仕事や地位。
「父の跡を継いで大工になった」「社長の跡を継ぐ」
［表記］
①で「傷の跡」は「痕」とも書く。④は「後」とも書く。

あな（穴）［名］
①　まわりよりへこんでいる空間。
「穴を掘ってごみを埋める」「鼻の穴をほじくる」「（比喩的に）穴のあくほど相手の顔を見つめる」「（比喩的に）穴があったらはいりたい（失敗をして非常に恥ずかしい状態）」
②　物を通すことのできる空間。
「針の穴」「壁に穴をあけて管（くだ）をとおす」「塀の穴から他人の家の庭をのぞく」
③　損害。損失。
「投資に失敗して会社の資産に穴をあけてしまった（損害を与えてしまった）」「君の失敗なんだから，なんとか穴を埋めてほしい（穴埋めをしてほしい）（損失を取り戻してほしい）」「病気で休んだ俳優の穴を埋めなければ今日の公演ができない」
④　予想以上の利益。
「競馬で大穴を当てた」
⑤　（比喩的に）悲しい気持ち。
「息子に先立たれて心に穴があいたような心境です」
［表記］
②は「孔」とも書く。

アパート（apartment house の略）［名］
人に貸すために建てた内部に何戸もある建物。レンタルのマンションよりも小規模のものを指すことが多い。
「結婚直後はアパートずまいをしていました」「アパートを引き払って一戸建ての家に移りました」

あまり（余り）［名・副］
Ⅰ［名］
①　必要なものをのぞいた残り。
「会費の余りは次の会のためにとっておこう」「余りのお金は寄付しよう」
②　予想以上のふるまい。
「あまりの暴言に返すことばを失った」「あまりのすばらしい演技に感嘆した」
③　程度のきわめて大きい感情・感覚・評価。
「交通事故で息子を失った彼の心情は察するに余りある（十分に察することができない）」「あまりの寒さにこごえてしまった」「今回のマラソンの記録は，昨年の不出来を補って余りあるすばらしいものだった」
Ⅱ［副］
それほど。そんなに。
「あまり心配しないほうがいいよ」「あまりがんばりすぎると，からだに悪いよ」「今年の成績は去年とあまり違わなかった」
［語法］
Ⅱは話しことばでは「あんまり」とも言う。
［表記］
Ⅱは仮名書きにすべきである。

あらわれる（現れる）［下一自］
①　隠れていたものが見えるようになる。
「死んだ父が夢に現れる」「建物の間から警官が現れて誘拐犯人を逮捕した」「山の陰から月が現れた」
②　それまでになかったものがおもてに出る。
「英雄が現れて国を救った」「薬の効き目が現れた」
［語法］
対応する他動詞は「あらわす（現す）」

あらわれる（表れる）［下一自］
感情・光景・状況がはっきりと伝わってくる。
「喜びの気持ちが顔に表れている」「彼を嫌う気持ちが態度に表れた」「この文章（写真）には冬のものさびしい情景がよく表れている」「この統計資料には最近の学生の学力低下が表れている」
［語法］
対応する他動詞は「あらわす（表す）」

ありがたい（有難い）［形］
①　困っているときに好意・恩恵を受けて助かり，幸せな気持ちになる。
「借金の返済を待ってもらって有難い」「良い医者を紹介してもらって有難い」「寄付金をありがたく頂戴いたします」「それはありがたいご提案です」
②　尊い。
「有難い神の教え」「お坊様から有難いおことばをいただいた」
③　（「ありがとう（ございます）」の形で）感謝の気持ちを表す挨拶表現。
「この度は，お忙しい中をお越しいただき，ありがとうございます」「（贈り物をもらって）どうもありがとう」
④　（「ありがた迷惑」の形で）好ましくない行為を押し付けられて不愉快だ。
「そんなことをしてもらっても，ありがた迷惑だ」
［表記］
仮名書きにすることも多い。
［語誌］
「有難い」の本来の意味は「めったにない」。

ある（或る）［連体］
限定できない物事を指すときに用いることば。
「むかし，あるところに，おじいさんとおばあさんが住んでいました」「ある日の出来事でした」「それは，ある人が言ったことばです」「そのようなことはある程度分かっていた」
［表記］
仮名書きが一般的。

あれ［感］
急にあることに気づいたときに思わず出てくることば。「あれっ」とも言う。
「あれ！　財布を忘れてきちゃった」「あれ！　向こうに変な人がいるよ」

あわてる（慌てる）［下一自］
①　自分に不利な状態に気づき，気持ちが動揺する。
「試験の日が近づいたのに勉強が進まず慌てる」「財布を忘れたことに気づき慌てる」
②　突然不利な状態に気づき，急ぎの行動をとる。
「学校に遅れそうになり，慌てて出かける」「そんなに慌てるとけがをするよ」
［表記］
「周章てる」とも書く。

あんぜん（安全）［名・形動］
Ⅰ［名］
危険のない状態。
「鉄道の安全を守る」「旅の安全を祈る」「原発の安全には疑問がある」「絶対安全という保障はできない」「安全第一」「安全対策」
Ⅱ［形動］
危険のない状態だ。
「安全な場所に避難する」「ここは高台なので，津波が来ても安全だ」「この薬は副作用がなく安全です」

あんない（案内）［名・ス他］
Ⅰ［名］
①「会の開催や，組織や行事の内容を知らせること。または組織や行事の内容。
「ご結婚式のご案内をいただき，ありがとうございます」「入学の案内を送る」「会社案内を請求する」「案内状」
②　行くべき道筋や知らない土地のようすを教えてもらうこと。
「受付で社長室への案内を頼む」「観光地の案内を書いてある本を買う」
［語法］
「不案内（ふあんない）」の形で使うと，ある土地や分野に知識が不十分な意味になる。
「私は東京に（クラッシク音楽に）不案内です」
Ⅱ［ス他］
依頼人と一緒に歩き，行くべき場所への道筋や，知らない土地の見どころを教える。
「客を社長室へ案内する」「ニューヨークの街を案内する」

い（胃）［名］
食べ物を消化する器官。胃袋（いぶくろ）。
「胃が痛む」「胃の手術をする」「私は胃が丈夫（じょうぶ）だ」

いき（行き）［名］
目的地に向かうこと。
「行きは飛行機で，帰りは新幹線を利用しました」「行きの切符を買う」
［語法］
「青森行き」などと言うときは「ゆき」と言うのが普通。反対語は「帰り」。

いきる（生きる・△活きる）［上一自］
① 生物が生命を保つ。生存する。
「津波に遭いましたが奇跡的に助かり，生きる喜びをかみしめています」「どうか100歳まで元気で生きてください」「いただいた鉢植えはまだ生きており，きれいな花を咲かせています」
② 生活する。
「ペン一本で生きる小説家」「土に生きる農民」「海に生きる漁師」
③ 機能を発揮する。良い状態になる。
「この絵の赤を強調すると，もっと生きると思います」「塩加減ひとつで味が生きる」
④ （囲碁で）対戦相手に石を取られない状態である。
「この石は生きている」
［表記］
③④は「活きる」とも書く。
［語法］
①③④の反対語は「死ぬ」。

いけ（池）［名］
川の水や，湧水を利用して水をため，養殖や鑑賞のために魚を育てておく場所。家の庭に造る比較的小さいものと，ボート遊びなどができる広いものとがある。ただし，湖のように広いものは「池」とは言わない。また，自然にできたもので，養殖・鑑賞・遊びなどに利用しないものは「沼」と言うのが普通。
「池で鯉が泳いでいる」「井の頭公園の池でボートに乗る」

いけない［形］
よくない状態である。
「いけない子だね（悪い子だね）」「かなり病状が進んでいる。もういけないんじゃないか（だめなのではないか）」「いけないことに（悪いことに）肺炎をおこしてしまっている」
［語法］
「ここで遊んではいけない」「早くしなければいけない」などの「いけない」は形容詞ではない。「いけない子」などの用法を含めて「連語」とする見方もある。

いし（意志）［名］
しっかりした目的をもった心がまえ。
「強い意志の力で今日（こんにち）の地位を築いた」「国民の意志を尊重する」「首相の意志がはっきりしない」「会長を辞めたいという意志が固いらしい」

いた（板）［名］
木・石・金属などを薄く切って，一定の面積にそろえたもの。建築や各種の器具の材料として使用する。一般には木で作ったものを指すことが多い。
「板を組み合わせて本箱を作る」「ブリキの板を切って作ったおもちゃ」
［慣用句］
板に付く
経験を積んだため慣れている。自然である。
「彼の演説は板に付いている」

いち（位置）［名・ス自］
Ⅰ［名］
①　空間の中で，あるものが存在している場所。
「レーダーで飛行機の飛んでいる位置を調べる」「北海道の位置は本州の北にある」
「カメラの位置を上げて撮影する」「車を決められた位置に止める」「小数点の位置を確認する」
②　組織の中における立場。地位。
「会社の中で重要な位置を占める」「選挙の結果，第一党の位置を獲得した」
③　数字・数量の上での一定の位置。
「日本はGDP2位の位置を中国に奪われた」
Ⅱ［ス自］
①　空間の中で一定の場所に存在する。
「惑星は太陽の周囲に位置する」「沖縄は九州の南に位置する」
②　組織の中で一定の立場にある。
「課長は部長と係長の中間に位置する役職である」
③　数字・数量の上で一定の順位にある。
「福島県の面積は，岩手県と新潟県の中間に位置する」

いちぶ（一部）［名］
「一部分」の略。全体の中のある部分。
「暴動を起こしたのはデモ隊の中のごく一部です」「一部を除けば国民の生活は安定しています」
［語法］
反対語は「全部」。

いっしょうけんめい（一生懸命）［形動・副］
Ⅰ［形動］
力のかぎりがんばるようす。
「一生懸命に仕事をする」「彼は会社の再建に一生懸命だ」「一生懸命な姿を見るのは好ましい」
Ⅱ［副］
力を尽くして。
「一生懸命働く」「目的の大学を目指して，一生懸命勉強した」
［語誌］

「一生懸命」は「一所懸命（いっしょけんめい）」の変化。「懸命」と意味は同じ。「一所懸命」とは，封建時代に武士が与えられた一か所の領地を懸命に（必死に）守ったこと。

いなか≪田舎≫［名］

① 都会的な雰囲気のないさびれた地域。

「ここは田舎なので，大きな店がない」「田舎は空気がきれいだ」

② 都会から離れた地方の町。

「ここは田舎ですが，大きなデパートもあり，生活に不便はありません」

③ 故郷。ふるさと。生まれ育ったところ。

「私の田舎は山形市です」「定年になったら田舎に帰ろう」「田舎に年老いた両親がいます」

［語法］

「私は田舎者だ」などと言えば謙遜の表現になり，「あいつは田舎者だ」などと言えば軽蔑・侮蔑（ぶべつ）の表現になる。

いはん（違反）［名・ス自］

Ⅰ［名］

規則を守らない行動。

「違反をたびたび繰り返す」「違反を摘発する」「交通違反に問われる」

Ⅱ［ス自］

規則を守らず行動する。

「現在の議員定数は憲法に違反している」「守秘義務に違反して新聞社に情報をもらした」

いらっしゃる［五自］

① 「いる」の尊敬語。

「先生は明日お宅にいらっしゃいますか」「社長はたぶん会議室にいらっしゃると思います」

② 「行く」の尊敬語。

「先生はアメリカにいらっしゃったことがおありですか」「イタリアにいらっしゃるときは，スリに気をつけてください」

③ 「来る」の尊敬語。

「明日，部長が我が家にいらっしゃるそうだ」「お客様がいらっしゃったら，拍手でお迎えください」

［語法］

①には「先生が本を読んでいらっしゃる」のような補助動詞としての用法もある。また，「いらっしゃった」のかわりに「いらした」と言うこともある。

［語誌］

「いらっしゃる」は「いらせられる」の変化。

いわう（祝う）［五他］

めでたいことがあったときに，よろこびの気持ちをこめて特別のおこないをする。

「新年を祝っておせち料理を食べる」「孫の卒業を祝って家族で食事をする」「赤飯を炊いて孫の

誕生を祝う」「友人に結婚を祝う手紙を書いた」

いんさつ（印刷）［名・ス他］

Ⅰ［名］

文字・絵・写真などが書かれた文書を，器械を使って同じものを大量に作ること。ただし，コピー機を使って複製することは「印刷」とは言わない。

「早く印刷をしてくれる所に名刺の作成を頼みたい」「公共の福祉に反する文書の印刷は禁止します」「印刷が終わりましたので，製本にとりかかります」

Ⅱ［ス他］

文字・絵・写真などが書かれた文書を，器械を使って大量に作る。

「初校を印刷したゲラを執筆者に送る」「もっと鮮明に印刷していただけませんか」

「紙幣を印刷するには特殊な技術が必要です」

うえる（植える）［下一他］

植物や植物の種を土に埋め込んで育てる。

「畑に野菜を植える」「庭にゴーヤを植える」「植木鉢に花を植える」「柿の種を植える」

うかぶ（浮かぶ）［五自］

①　水の上に物体がのった（またはのったように見える）状態にある。

「湖に舟が浮かんでいる」「海に浮かぶ島々」

②　空中に物体がただよう。

「青空に白い雲が浮かんでいる」「風船が屋根の上に浮かんでいる」

③　ある考えや映像が心に生じる。

「名案が浮かんだ」「風呂に入るとすばらしいアイディアが浮かびやすい」

「父の面影がまぶたに浮かぶ」「昔登った雪山が目に浮かぶ」

④　あるものが表面に表れる。

「目に涙が浮かぶ」「捜査の結果，容疑者が浮かんできた」

［語法］

対応する他動詞は「浮かべる」。①の反対語は「沈む」。

うく（浮く）［五自］

①　水の上に物体が自然な感じで（水の動きにまかせるような状態で）のっている。

「海に流木が浮いている」「金魚鉢に藻が浮いている」

②　物体の表面ににじみ出た状態にある。

「脂汗（あぶらあせ）が額（ひたい）に浮いている」「橋の欄干（らんかん）にさびが浮いている」

③　結びついた状態から離れそうになっている。

「風を引いたせいか，歯が浮いている」「仲間から浮いた状態（仲間になじめない状態）」

「（比喩的に）歯の浮くようなお世辞（みえすいたお世辞）」

④　予定していなかった余裕が生じる。

「予算が浮いたから次の会費にまわそう」「浮いた時間を有効に使おう」

［語法］
①の反対語は「沈む」
［慣用句］
浮かぬ顔
心配事があるような表情
「浮かぬ顔をしている」
浮いた噂
異性と親密につきあっているらしいという噂
「浮いた噂の絶えない男」

うける（受ける）［下一他］
①　向かってくるものを支えておさめる。
「雨漏りの水をバケツで受ける」「球をグローブで受ける」「サーブを受ける」
②　他から寄せられた自分の利益になる行為を手にする。
「国から援助を受ける」「人々の歓迎を受ける」「教育を受ける」「介護を受ける」
③　自然から届いたものが自己のからだにおよぶ。
「風を受けて走る」「朝日を受けて散歩する」
④　他からの作用・行為がみずからにおよぶ。
「地震で大きな損害を受けた」「日本はアメリカ文化の影響を受けた」「彼の著書を読んで大きな刺激を受けた」「暗示を受ける」「苦痛を受ける」「訪問を受ける」
⑤「何々をしてほしい」という頼みが寄せられる。
「援助の要請を受ける」「工事の依頼を受ける」「催促を受ける」

うたがう（疑う）［五他］
①　事実ではないのではないかと思う。
「振り込め詐欺ではないかと疑う」「彼の学歴を疑う」「疑わしきは罰せず」
②　もしかするとそうではないかと思う。
「二人の仲を疑う（二人の男女が親密な異性関係にあるのではないかと想像する）」「彼の常識を疑う（常識がないのではないかと思う）」「癌を疑う・癌が疑われる（癌なのではないかと思う）」

うつ（撃つ）［五他］
銃を使って敵を攻撃する。
「敵を鉄砲で撃つ」「撃てという号令の下に一斉射撃がおこなわれた」

うっかり［副・ス自］
Ⅰ［副］
注意が足りずに失敗するようす。
「うっかり口がすべって，相手に失礼なことを言ってしまった」「うっかり朝寝坊をして遅刻した」
Ⅱ［ス自］
注意が足りず失敗する。

「うっかりして赤信号を見落とした」「うっかりするとひどい目に遭うよ」

うつす（移す）［五他］

① 物の位置・場所を別の位置・場所に変える。

「机の上の本を本箱に移す」「自宅を少し離れた場所に移す」

② 部署や組織などの場所を変える。

「勤務先を他の課に移す」「本社を大阪から東京に移す」「都（みやこ）を江戸に移す」

③ 病気を他の人に感染させる。

「インフルエンザをうつされないように注意しましょう」「妻に風邪をうつしたらしい」

［表記］

③は仮名書きが一般的。

うつす（映す）［五他］

鏡・水面・スクリーンなどに顔・風景・映像がうつるようにする。

「化粧した顔を鏡に映してじっと見る」「旅行で写したビデオをテレビに映して鑑賞する」「パワーポイントで映しながら研究発表を行う」

［語誌］

「映す」は「移す」と語源が同じ。同じものを別の場所に「移す」という意味。

うつす（写す）［五他］

① 絵画や文書の元の絵や文字や文章をそのまま変えずに他の用紙に書いたり描いたりする。模写する。絵柄や字形を正確に描く場合と，絵や文の内容が変わらない程度に書き取る場合がある。

「古文書の文章を写す」「壁画の仏像を写す」「経文（きょうもん）を写す」「友達からノートを借りて写す」

「楽譜を写す」

② 写真をとる。撮影する。

「記念写真を写す」「これはむかし写した写真です」「すみみませんが，このカメラで私たちを写していただけませんか」

［語法］

②に対応する自動詞は「写る」。

［語誌］

「写す」は「移す」や「映す」と語源が同じ。同じものを別の場所に「移す」という意味。

うむ（生む）［五他］

① 人間や動物が腹の中の子を外に出す。

「子どもは三人くらい生みたいね」「うちの犬がおすの子犬を生んだ」

② なかったものをあらたに作り出す。

「ベートーベンは多くの名曲を生んだ」「ナポレオンは時代が生んだ英雄と言えよう」

③ 何かが原因で，ある事態を生じさせる。

「彼の行動は誤解を生みやすい」「その発明が思わぬ利益を生んだ」

［表記］
①は「産む」とも書く。

うらやましい（羨ましい）［形］
他人のめぐまれた状況を見て自分もそうなりたいが，なれないので残念だ。
「お孫さんが五人もいらっしゃるなんて羨ましいなあ。私は一人もいないんですよ」「羨ましいご身分ですね」「優秀なお子様ばかりで羨ましく思います」

うわさ（噂）［名］
しっかりした根拠がない物事を話題にしてする話。人や物事の欠点を話題にすることが多い。
「彼は女にだらしないという噂がある」「原発が危険だという噂は本当だったんだね」「そんな噂は気にしない方がいいよ」

えいきょう（影響）［名・ス自］
Ⅰ［名］
人や物事の強い力が他の人の行動を左右したり，他の物事に変化を与えたりすること。
「私の作品はストラビンスキーの影響を受けている」「塩分の取り過ぎは健康に悪い影響を与える」
Ⅱ［ス自］
人や物事の強い力によって他の人の行動が左右されたり，他の物事が変化したりする。
「恩師の研究に影響され，私は方言研究の道に進んだ」「中国経済の成長が影響し，日本のGDPは世界第3位に転落した」

えいよう（栄養）［名］
生物が生きていくのに必要な食料や飼料。または食料や飼料に含まれる有効な成分。
「病後はしっかり栄養をとらなければだめだよ」「今日の夕食は栄養満点だね」「少し栄養が足りないんじゃないか」
［語法］
「滋養（じよう）」は「栄養」のやや古い表現。

えんりょ（遠慮）［名・ス自他］
Ⅰ［名］
出過ぎることのないように行動や態度に気をくばること。
「スピーチを頼まれたけれど，先輩への遠慮があって断った」「遠慮なく言わせてもらうよ」「遠慮がちに声をかける」
Ⅱ［ス自他］
①　迷惑をかけたり，出過ぎたりすることのないように行動や態度に気をくばる。
「君は若いんだから，上座（かみざ）に座ることは遠慮すべきだよ」「夜になったら楽器の演奏は遠慮した方がいい」「そんなに遠慮する必要はないよ」
②「ことわる」「辞退する」の婉曲表現。
「せっかくのおすすめですが，入会は遠慮します」「恐縮ですがお見舞いは遠慮させていただきま

す」

おうふく（往復）［名・ス自］
Ⅰ［名］
短期間・短時間に同じコースを行って帰ること。
「切符は往復でお願いします」「往復の料金はいくらですか」
Ⅱ［ス自］
短期間・短時間に同じコースを行って帰る。
「その日のうちに東京と大阪を往復した」「自宅と駅を２往復すると１時間くらいかかります」

おかえり（お帰り）［名・感］
Ⅰ［名］
家に帰る時間や日にち。「帰り」の丁寧表現。
「お帰りは何時ころですか」「お帰りは何日になりそうですか」「お帰りが遅いと心配です」
Ⅱ［感］
帰宅した人に対する挨拶表現。「お帰りなさい（ませ）」のくだけた言い方。
「お帰り。早かったね」

おかげ（御陰・御蔭）［名］
人または神仏の助け。
「先輩のおかげで就職できた」「おかげ（さま）で元気にくらしております」
［表記］
仮名書きにすることが多い。

おく（億）［名］
１万の１万倍をあらわす単位。
「日本の人口が１億人を超えたのはかなり前のことである」「宝くじで１億円を当てた」

おくりもの（贈り物）［名］
感謝や祝いの気持ちをこめて他人に贈る品物。プレゼント。
「贈り物は高価な品が良いとはかぎらない」「心のこもった贈り物を頂戴し，恐縮に存じます」

おくる（贈る）［五他］
感謝や祝いの気持ちをこめて他人に品物を与える。
「就職祝いに祖母からスーツを贈られた」「その人の好みがあるからネクタイは贈らない方が良い」

おこなう（行う）［五他］
①　一定のルールに従って会や儀式を実行する。開催する。
「卒業式を行う」「葬儀は厳粛に行われた」「次のオリンピックはロンドンで行われる」
②　ある目的のもとに何かをする。

「2日間の断食を行った」「選挙運動を行う」「言うは易く，行うは難し（何かを提案したり表明したりするのは簡単だが，それを実行するのはむずかしい）」
［表記］
「行なう」とも書く。

おさえる（押さえる）［下一］
① 動いては困る物を道具や手足などを使って動かないようにする。
「紙が風で飛びそうなので手で押さえた」「地震が来ても物が落ちないように戸棚を留め金で押さえておく」「目頭（めがしら）を押さえる（流れ落ちそうになった涙を手で止める）」
② 重要な部分を認識する。
「試験問題の要点を押さえる」「敵の弱点を押さえて戦う」
③ 自由にさせないように手を打つ。
「容疑者の身柄を押さえる（逮捕する）」「4人分の席を押さえておく（予約しておく）」
④ 痛むところに手を当てる」
「胸を押さえてうずくまった」「痛む脚を押さえながら歩いた」

おさえる（抑える）［下一］
価格・数量・速度・音量・感情などを低めに（弱めに）保つ。抑制する。
「スピードを抑えて運転する」「価格を抑えて売り上げを伸ばす」「声を抑えて泣く」「ステレオの音量を抑える」「怒り（いかり）を抑える」

おじぎ（お辞儀）［名］
近所の人や目上の人に会ったときや別れるとき，また，詫びるときなどに挨拶のことばを述べながら頭を下げること。立ってする場合は腰も折る。
「お詫びのことばを述べるときはお辞儀の時間が長い」「道で先生に会ったらきちんとお辞儀をしなさいよ」「申し訳ありませんと言いながら深々とお辞儀をした」「畳に手をついてお辞儀をした」
［語法］
軽く頭を下げることは「会釈（えしゃく）」と言う。

おっしゃる［五自］
「言う」の尊敬語。
「すみませんが，もう一度おっしゃっていただけませんか」「むかし先生がおっしゃったことが思い出されます」「確かにそうおっしゃいました」
［語法］
命令形の「おっしゃい」（「正直におっしゃい」など）は目上には使わない。「嘘おっしゃい」は「うそつけ」の丁寧表現で「うそをつくな」という意味。
［語誌］
「おっしゃる」は「仰せある」の変化。
［表記］
「仰る」とも書く。

おどる（踊る）［五自］
① 音楽に合わせて体を優雅に動かす。
「彼女とワルツを踊った」「踊りながら歌う」「楽しそうに踊っているね」
② 強い印象を与える。
「はげしいスローガンが選挙のポスターに踊っていた」「ことばだけが踊っている（表現は派手だが内容は乏しい）」
③ （「胸が踊る」「心が踊る」の形で）うきうきする。興奮する。
「日本チームの優勝に胸が踊った」
［表記］
②と③は「躍る」とも書く。

おば≪叔母≫［名］
① 父または母の妹。
「叔母の家を訪問する」「叔母さん（叔母様）はお元気ですか」
② 叔父の妻。
「叔父と叔母は同い年です」

おば≪伯母≫［名］
① 父または母の姉。
「幼いころ伯母の家に預けられた」「伯母さん（伯母様）こんにちは」
② 伯父（おじ）の妻。
「伯父と伯母は恋愛結婚だそうです」

おばあさん（お△婆さん）［名］
① 両親の母親。
「おばあさんはもう起きたかな」「おばあさんにお小遣いをもらった」「おばあさん，長生きしてね」
② 歳をとった女性。
「近所のおばあさんが歩いている」「むかしあるところに，おじいさんとおばあさんが住んでいました」
［語法］
①の場合，身内以外には「おばあさん」ではなく「祖母」と言うべきである。

おばさん<小母>さん［名］
中年の女性を呼ぶことば。
「近所のおばさんに声をかけられた」「おばさんはどこのご出身ですか」

おも（主）［形動］
いろいろある中で中心的である。
「日本の主な全国紙を三つあげなさい」「父は主に建築の仕事をしています」「現代日本の産業は工業が主だ」

おもて（表）［名］
二つの面のうち，より重要な機能のある面。
①「文書の表を下にしてファックスを送ってください」「写真を印刷するときには光沢のある表を上にしてください」「1万円札の表には福沢諭吉の顔が印刷されている」
② 他人が見えるところ。
「アメリカとの密約が表に出てしまった」「表も裏もない（自分の良い面だけを見せたりしない）正直な人」
③ 家の外。
「表で遊ぶ」「表を掃除する」
④ 野球で各回の最初の局面。
「8回の表で大量の得点を与えたが，9回の裏で逆転した」
［語法］
反対語は「裏」

おんせん（温泉）［名］
地中から湧き出る湯。また，その湯を使う施設。
「日本には有名な温泉がたくさんある」「今度の連休には温泉に入りに行こう」「私は自宅に温泉を引いています」

かいがん（海岸）［名］
陸と海が接している部分。
「海岸を散歩する」「海岸で泳ぐ」「海岸を列車が走っている」「海岸は津波が来ると危険です」「岩手県の海岸は絶壁が多い」「日本は海岸線が長い」

かいじょう（会場）［名］
会をおこなう場所。
「会場は国際会館の2階です」「会場の手配をお願いします」「同窓会の会場を探す」

かいわ（会話）［名・ス自］
Ⅰ［名］
複数の人がたがいに話をすること。
「結婚生活が長くなると会話が少なくなる」「会話を楽しむ」「若い女性との会話が苦手だ」「英会話の教室にかよう」
Ⅱ［ス自］
たがいに話をする。
「英語で会話する」「自由に会話してください」

かがく（科学）［名］
さまざまな方法を用いてものごとの真実を追求する学問。自然科学，社会科学，人文科学などに分かれる。

「方言研究も科学の一部門です」「科学の進歩が人類に幸せをもたらすとは限らない」「宗教を科学的に研究するのが宗教学です」

かかり（掛り）［名］
① 費用。
「掛りがかさんで予算が足りなくなった」「掛りを気にする」
② 「掛る」の名詞形。機能がはたらくこと。
「冬はクルマのエンジンの掛りが悪い」「ブレーキの掛り具合を調整する」
［表記］
「掛かり」とも書く。

かかり（係）［名］
ある仕事の中で特定の役目を受け持つ人，またはその役目。
「この仕事の係はだれですか」「受付係をお願いします」「係長を呼んできてください」

かく（掻く）［五他］
① 手や道具をからだのある部分に当てて動かす。
「孫の手で背中を掻く」「かゆいので頭を掻いた」「失敗したので思わず頭を掻いてしまった」
② 道具を使って邪魔なものを隅に寄せる。
「雪を掻く」「落ち葉を掻く」
③ 人の生理や行動が望ましくない状態になる。
「いびきをかく」「汗をかく」「恥をかく」
④ （「裏をかく」の形で）相手の予想に反する行動をとる。
「義経は敵の裏をかいて暴風雨の海を渡り平家を攻めた」
［表記］
③④は仮名書きにすることが多い。

かぐ（嗅ぐ）［五他］
においを鼻で感じる行動をとる
「腐っていないかどうか匂いを嗅いで確かめる」「潮風を嗅ぎながら海岸を散歩する」
「犬は匂いを嗅ぎ分ける能力が高い」「くんくんと鼻を鳴らして嗅ぐ」

かくじつ（確実）［形動］
まちがいのない状態。確かな状態。
「あす雨が降るのは確実だ」「確実な情報がほしい」「この商品は確実に売れると思う」

かくす（隠す）［五他］
人に見られたり知られたりしないようにする。
「隠していた麻薬が見つかり逮捕された」「前科があることを隠して就職した」「陰部を最初に隠したのはアダムとイブだそうです」

かくれる（隠れる）［下一自］

① 見ることができない状態になる。

「路肩（ろかた）が雪に隠れて見えない」「この集合写真は君の顔が隠れているね」

② 人に知られない状態に身をおく。

「犯人が隠れている場所を突き止める」「ここは平家の落人（おちゅうど）が隠れ住んだ村です」「親に隠れて酒を飲む」

③ 貴人が亡くなる。

「天皇がお隠れになる」

かげつ（箇月・個月）［接尾］

（月日の）月を数えることば。

「今年もあと一箇月で終わりだ」「今，妊娠六箇月です」

［表記］

「一か月」「一カ月」「一ヵ月」「一ケ月」「一ヶ月」のように仮名書きにすることが多い。

かける（掛ける・架ける）［下一他］

① 何かで支えて落ちないように，または開かないようにする。

「スーツをハンガーに掛ける」「看板を掛ける」「眼鏡を掛ける」「ボタンをかける」

② 火で熱する。

「やかんを（鍋を）火にかける」（昔は鉄瓶や鍋をいろりの自在鉤に掛けて熱したことから）

③ 縄やひもでしばる。

「荷物にひもを掛ける」「贈り物にリボンを掛ける」「泥棒に縄を掛ける（縄でしばる）」

④ 上からおおう。

「布団を掛ける」「エプロンを掛ける」「クルマにカバーを掛ける」

⑤ ある点を支えとして何かを作ったり置いたりする。

「橋を架ける」「蜘蛛が巣を掛ける」「はしごを屋根に掛ける」

⑥ 他人のからだの一部分に手や足を置く。

「母の肩に（腰に）手を掛ける」「足を相手の肩に掛けてアクロバット体操をする」

⑦ ある目的でからだの一部を物に付ける。

「自転車のハンドルに手を掛ける」「ピストルの引き金に指を掛ける」「椅子（いす）に腰を掛ける（すわる）」「踏み台に足を掛ける」

⑧ 道具を使って動かないようにする。

「鍵をかける」「手錠をかける」

⑨ あるものが機能するようにする。

「クルマのエンジンをかける」「ブレーキをかける」「アイロンをかける」「目覚まし時計をかける」

⑩ 音や声を出す。

「ラジオをかける」「レコードをかける」「号令をかける」「うしろから声をかけて呼びとめる」「映画を見に行かないかと声をかける（誘う）」「電話をかける」

⑪ あるものに注意をはらう。

「宿題を気にかける（気にする）」「将来伸びそうなので，とくに目をかけて指導した」「お目にか

けましょう（お見せしましょう）」
⑫　他人に好ましくないことをする。
「ひとに迷惑をかける」「苦労をかける」「捜査に圧力をかける」
⑬　液体や粉をあびせる。
「花に水をかける」「体にお湯をかける」「コロッケにソースをかける」「赤飯にごま塩をかける」
⑭　思いが届くようなことをする。
「神様に願（がん）をかける」「子どもの将来に期待をかける」「情けをかける」
⑮　労力や費用を使う。
「この原稿は三か月かけて執筆した」「いくら金をかけたが知らないが，ずいぶん立派な家を建てたものだ」
⑯　議論や判断を求める。
「会議にかける」「裁判にかける」
⑰　支払いを求める。
「税金をかける（課税する）」
⑱　契約する。
「保険を掛ける」

かこむ（囲む）［五他］
①　中にあるものをとりまく。
「花壇を石で囲む」「家族で食卓を囲む（食事をする）」「日本は海に囲まれている」
②　ある人を中心におく。
「恩師を囲んで同窓会を開く」「首相を囲んで討論する」

かざる（飾る）［五他］
①　美しく見えるように物をおく。
「食卓を花で飾る」「ブローチで胸元を飾る」「お雛様を飾る」
②　目立つところに置く。
「亡き父の写真を机の上に飾る」「社長室に歴代の社長の写真が飾ってある」
③　立派に見えるように配置する。
「首相の論文が雑誌の巻頭を飾った」「なでしこの優勝が紙面を飾っている」
④　偉く見せる。いばる。
「飾らない人柄」
⑤　最後に立派なことをする。
「横綱の優勝が引退の花道を飾った」「有終の美を飾る」

ガス（gas　オランダ語）［名］
①　気体状の物質。
「炭酸ガスは空気中に含まれる気体の一つです」「原発で水素ガスが爆発した」「毒ガスの使用は国際条約で禁じられている」
②　石炭ガス・プロパンガスなど燃料として使う気体。

「ガスの栓を閉める」「ガスで床暖房をする」「ガス漏れに注意してください」
③　ガソリン。
「ガス欠で立ち往生しているクルマ」
［表記］
「瓦斯」とも書く。

かず（数）［名］
①　多い少ないの程度を表す基準になる概念。
「羊の数をかぞえる」「数が足りないので今日は麻雀ができない」「津波の犠牲者はかなりの数にのぼった」「言葉数の少ない人（おしゃべりでない人）」
②　数が多いこと。
「数で押し切って法案を通した」「ベートーベンの数ある作品の中で，第九交響曲が最も有名だ」
③　価値があると認められる範囲。
「彼の作品はものの数に入らない（価値があるとは認められない）」

かたむく（傾く）［五自］
①　ななめになる。
「地震で家が傾いた」「傾いた壁の額をなおす」「座礁した船が大きく傾いている」
②　（「日が傾く」の形で）沈みかける。
「日が西に傾くころに帰宅した」
③　衰退する。
「家が傾いたので，大学に行くことをあきらめざるをえなかった」「家の商売が傾いたのでサラリーマンになった」
④　考えが変わる。
「大事故があってから，日本人の多くは原発反対の方向に傾いた」
⑤　好きになる。
「彼女に気持ちが傾いているようだ」

がっかり［副・ス自］
Ⅰ［副］
期待がはずれて気持ちが落ち込んだ状態。
「当てがはずれてがっかりだよ」
Ⅱ［ス自］
期待がはずれて気持ちが落ち込む。
「彼のやる気のなさにはがっかりした」「表には見せないが，内心はがっかりしているんじゃないかな」「がっかりしないでもう一度がんばれ」

かな（仮名）［名］
漢字をもとに作られた日本語の音節を表す表音文字。片仮名と平仮名がある。奈良時代には漢字で日本語の音節を表す万葉仮名も使われた。

「平安時代の女性の手による文学作品は大部分が平仮名で書かれている」「外来語をカタカナ語と称することがある」
［語誌］
仮名は真名（まな＝漢字）に対する語。カリナ→カンナ→カナと変化したもの。

かなしむ（悲しむ・哀しむ）［五他］
不幸なことやつらい目に遭ったときに泣きたくなるような気持ちになる。
「母の死を悲しむ」「事業の失敗を悲しむ」「いつまでも悲しむのはよそう」
［語法］
反対語は「喜ぶ」

かならず（必ず）［副］
① それ以外は考えられないことを表す。まちがいなく。きっと。
「彼は必ず成功するだろう」「必ず合格してみせます」
② 強く希望する気持ちを表す。ぜひ。
「明日必ず電話してください」「私の結婚式には必ず出席してください」

かなり［副］
程度が普通以上であるようす。
「発表会ではかなり上手に演奏できた」「このスーツはかなり高いね」「かなりのスピードで衝突したらしい」

かぶる（被る）［五他］
① 頭や顔に付ける。
「帽子をかぶる」「ヘルメットをかぶる」「お面をかぶって踊る」「キャッチャーがマスクをかぶっている」
② 頭や顔をおおう。
「布団を頭にかぶって寝る」「傘を持っていなかったので，コートをかぶって雨の中を歩いた」
② 頂上にのせる。
「雪をかぶった山々」
③ 液体や粉末状のものを受ける。
「頭から水をかぶる」「ほこりをかぶる」「火の粉をかぶる」「ボートが波をかぶって転覆した」
④ 損害を他に及ぼさず，自分一人で引き受ける。
「彼女を助けるために，彼が罪をかぶった」「会社の損失を一人でかぶる」「君が泥をかぶる（責任をとる）必要はない」

かむ（噛む・咬む）［五他］
① 上下の歯を動かして口に入れたものを切ったり，くだいたり，柔らかくしたりする。
「よくかんで食べなさいよ」「イカやタコは，なかなかかみきれない」「かんだガムを吐き出す」
② 歯を立てる。

「犬にかまれて血が出た」「唇をかむ（くやしいときにする行為）」
③　かみあわせの部分に物をはさむ。
「チャックが袋の端をかんで動かなくなる」
［慣用句］
一枚かむ
関係する。
「その仕事には彼も一枚かんでいる」

かゆい（痒い）［形］
皮膚を掻きたくなる状態だ。
「蚊に刺されてかゆい」「かゆいところを掻いたら，もっとかゆくなった」「かゆいところに手が届く（こまかいところにも気をくばる）」

ガラス（glas オランダ語）［名］
石英（せきえい）・ソーダ・石灰などを混ぜて高温で溶かし，冷やして作る透明な物体。
「窓のガラスが割れた」「窓のガラスを磨く」「窓ガラスが曇る」「ガラスで作った花瓶」
［表記］
「硝子」とも書く。

かれ（彼）［代］
男性を意味する３人称の代名詞。
「彼はスポーツマンだ」「彼と話していると楽しい」「私はそんな彼が好きだ」
［語法］
「彼氏はいるの？」のように「付き合っている男性」という意味で「彼氏」と言うことがある。反対語は「彼女」。

かわり（代わり・替り）［名］
当てにしていた人や物事が期待できなくなったときに，それを補う人や物事。
「佐藤君が病気で出演できなくなった。至急代わりの人を探してほしい」「日本酒は糖尿病に良くないので，代わりに焼酎を飲むことにした」「政情が不安なので，エジプト旅行は中止して代わりにイタリアに行こう」「今日は雨なので，散歩の代わりに器械を使って運動しよう」

かんがえ（考え）［名］
①　頭を使ってよい手段をみつけるよう努力すること。または努力した成果。
「良い考えが思いつかない」「それはすばらし考えだ」「考えを積み重ねてようやく結論を得た」
②　その人がしようと思っている行為。
「そのような浅い考えでは将来が危ぶまれる」「ピアニストになりたい考えをあきらめざるを得なかった」

かんけい（関係）［名・ス自］

Ⅰ［名］

①　人や事物の間に存在する結びつき。

「アメリカとの関係をさらに強固にする必要がある」「私と彼女との関係は仕事上の事に限られています」「肺がんは喫煙と密接な関係がある」

②　ある事態が生じる原因。都合。

「天候の関係で今日のフライトは中止になります」「健康の関係で引退することになりました」

③　異性との特別な付き合い。とくに性的な結びつき。

「彼女との関係は3年間続いた」「あいつは彼女と深い関係にあるらしい」

Ⅱ［ス自］

①　複数の人や事物が結びつく。

「あの会社と深く関係するのは避けた方が良い」「癌の発生は生活習慣と関係するところが大きい」「この犯罪には多数の人物が関係しているらしい」

②　異性と性的に結びつく。

「上司が部下の女性と関係するのはご法度（ごはっと）です」

かんしゃ（感謝）［名・ス他］

Ⅰ［名］

ありがたいと思うこと。または，ありがたい気持ちを伝えること。

「寄付をしてくれた人々に感謝の気持ちを伝える」「感謝のことばもありません」「育ててくれた両親への感謝を忘れないでください」

Ⅱ［ス他］

ありがたいと思う。

「日本チームの優勝が日本人に元気を与えてくれたことを感謝します」「神のご加護に感謝する」

かんじょう（勘定）［名・ス他］

Ⅰ［名］

①　金額や数をかぞえること。計算。

「勘定が合わない。かぞえなおしなさい」「勘定を何度もやりなおす」

②　支払うべき金額。

「そばやの勘定を支払う」「今日の飲み会の勘定は割り勘にしよう」「勘定をごまかして支払った」「お勘定をお願いします（代金を支払いますから計算してください）」

③　（「勘定に入れる」などの形で）あらかじめ考慮しておくこと。

「雨が降ることは勘定に入れていなかった」「この会への女性の参加は勘定に入れる必要はないよ」

Ⅱ［ス他］

金額や数をかぞえる。

「今日の売り上げを勘定する」「財布の中身を勘定する」「箱に入っているりんごの数を勘定する」

［慣用句］

勘定高い（かんじょうだかい）

損得ばかりを考えて行動すること。

「あいつは勘定高いやつだ」
勘定ずく
損得ばかりを考えること。
「なんでも勘定ずくで決めるのはやめた方がいい」

かんそう（感想）［名］
ある事柄についての自分の主観的な評価や感情。
「演奏会の感想を述べる」「読後の感想を記す」「今日の試合の感想を一言（ひとこと）お願いします」「優勝した感想はいかがですか」

かんづめ（缶詰）［名］
① 保存用に処理した食品を缶に詰めたもの。
「鮭の缶詰」「災害に備えて缶詰を備蓄する」「昔は缶詰は貴重品だった」「今日の夕食のおかずは缶詰で我慢しよう」
② なんらかの事情で外に出られない状態になること。
「停電でエレベータの中に2時間も缶詰にされた」「議事が終わるまで会議室に缶詰にされた」

きかい（機械）［名］
ある目的のためにエンジンやモーターなどを使って動かす道具。
「重機などの機械を使ってがれきを処理する」「ビールや酒を詰める機械や，卵を割る機械もある」「こわれた機械を修理する」「機械的な仕事（機械のように単調な仕事）」
［語法］
「器械」は動力のないものを言う。

きかん（期間）［名］
時間的な長さ。
「原稿締切りまでの期間はどのくらいですか」「大震災の寄付の期間を半年延長します」「原発事故で避難させられた期間が予想以上に長かった」

きこう（気候）［名］
ある地域の長期間における気温や天候の状態。
「日本は四季折々に気候が変化する」「気候が温暖な土地に住みたい」

きず（傷・×疵・×瑕）［名］
① からだや物の表面や内部を，切ったり，突いたり，こすったりしたために出来た異常な部分。
「転んで足に傷が出来た」「内視鏡は内臓に傷をつけない材質でできている」「ワイヤーの傷が原因でエレバータが落下した」「傷が痛む」「傷口が膿む」「事故で深い傷を負った」「傷は浅いからすぐなおるよ」「（比喩的に）心の傷」
② よからぬ行為をして受けた社会的制裁。
「議員の立場を利用して賄賂を手にし，経歴に傷がついた」「すねに傷を持つ身（過去に悪いこと

をした人)」

きそく（規則）［名］
① 個人や団体の行動を制限する社会的なきまり。ルール。
「規則は守らなければいけない」「規則に反すると罰せられる」「規則がきびしすぎる」「規則にしばられるのも困る」「交通規則を守ろう」
② 繰り返される一定の動き。
「エンジンは規則的に回転している」「天体の規則的な動き」「気候の変動には規則性がある」

きちんと［副］
① 乱れやいいかげんなことのないようす。
「先生にお会いしたら，きちんと挨拶するんですよ」「きちんとした服装」「正確にきちんと演奏しなさい」
② あいまいなことのないようす。
「できないことはきちんと断りなさい」「きちんとした会計処理」

きのどく（気の毒）［形動］
他人の不幸を見聞きして同情するようす。
「交通事故で息子さんを亡くされたそうで気の毒なことです」「彼の心境を思うと気の毒でならない」「津波の被害に遭われた方々を気の毒に思う」
［語誌］
本来は「自分の気の毒になる（自分の心が痛む）」という意味である。

きびしい（厳しい）［形］
① 自分の子どもや弟子などをしっかりと教育するようす。
「父に厳しく育てられた」「学生を厳しく指導する」
② 自然が人間にとって耐えがたい状態である。
「厳しい寒さが続く」「厳しい環境に耐え，エベレスト登山に成功した」
③ 甘えや妥協を許さない態度や状況である。
「政治家の疑惑を厳しく追及する」「芸の道は厳しい」
④ 物事を進めるのがむずかしい状況である。
「この予算で大会を開催するのは厳しい」「円高で会社の経営が厳しい」
［表記］
仮名書きにすることも多い。

きぶん（気分）［名］
心の状態。気持ち。
「気分を一新して仕事を始める」「だらけた気分を一掃する」「たまっていた仕事が終わったので気分がいい」「気分がすっきりする」「気分が高揚する」「気分転換をはかる」

きょういく（教育）［名・ス他］

Ⅰ［名］

技術や知識，また人間性を高めるためにおこなう指導。

「大学は高度の教育を受けさせる機関である」「息子の教育に金をかける」「各国の教育制度を調査する」「語学教育のあり方を議論する」

Ⅱ［ス他］

技術や知識，人間性を高めるために指導する。

「息子を厳しく教育する」「留年させて教育しなおした方がよい」

きょうそう（競争）［名・ス自］

Ⅰ［名］

勝敗や優劣を争うこと。

「兎と亀の競争」「半導体の売り上げで韓国との競争に敗れる」「激しい競争ののち勝利した」「競争相手の存在が能力を向上させる最大の条件である」

Ⅱ［ス自］

勝敗や優劣を争う。

「校庭で弟と競争して負けた」「貿易に関しては各国が自由に競争することが望ましい」

きょうみ（興味）［名］

おもしろいと思う対象。

「音楽に興味がある」「絵画に興味を示す」「彼は何にでも興味をもつ人だ」「ブータンの文化に興味をいだく」

きょか（許可）［名・ス他］

Ⅰ［名］

人や団体が願い出たことについて，してもよいと認めること。

「道路使用の許可が下りる」「警察にデモ行進の許可を申請する」「なかなか許可がおりない」

Ⅱ［ス他］

人や団体が願い出たことを認める。

「申請を許可する」「許可してもらえるかどうか不明だ」

きょり（距離）［名］

①　地点間の長さ。

「駅までの距離はどのくらいですか」「方言が１年間に動く距離は約１キロと言われています」

②　物と物と間の長さ。

「車間距離を十分にとって運転してください」「昔は距離計で被写体までの距離を測って撮影した」

③親密さの度合い。

「中国とは一定の距離をおいた方がよい」「交際が進むにつれて二人の間の距離は次第に縮まった」

きれ（切れ）［名・接尾］

Ⅰ［名］

① 切れ具合。

「このナイフは切れがいい」「この水道は蛇口がこわれていて，水の切れがわるい」

② 小さく切ったもの。

「たくあんの切れを口にくわえる」

③ 決められた時間や期間が終了すること。

「任期切れを迎える」「そろそろ時間切れですよ」

Ⅱ［接尾］

小さく切ったものを数える単位。

「一切れ100円もするなんて，この魚の切り身は高いね」

キロ（kilo　フランス語）［接尾］

メートル法における長さ・重さ・電力などを表す単位。1メートルの千倍の長さ，1グラムの千倍の重さ，1ワットの千倍の電力。「キロメートル」「キログラム」「キロワット」などの略称。

「10キロの距離を歩いた」「減量は10キロが目標だ」「月に20キロの電力を消費する」

きろく（記録）［名・ス他］

Ⅰ［名］

① のちに必要になると思われる事柄を書き残すこと。また，書き残した文書。

「庶民の日常生活を記録に残す」「日本には方言の記録が多数存在する」「重要な会議の記録を紛失した」

② ある時点での最大の数値。

「過去に50メートルの高さに達した津波の記録がある」「彼が平泳ぎで打ち立てた記録はまだ破られていない」「記録的な豪雨に見舞われた」

Ⅱ［ス他］

① のちに必要になると思われることを書き残す。

「東京大空襲の体験を記録しておこう」「毎日の天気を記録する」

② ある時点での最大の数値に達する。

「新幹線が時速300キロを記録した」「この冬最大の積雪を記録した」

きんにく（筋肉）［名］

筋とそのまわりを包んでいる肉。

「筋肉が盛り上がっている」「筋肉がしまっている」「腕の筋肉を鍛える運動」

く（区）［名・接尾］

Ⅰ［名］

大都市に設けられた行政上の区画の1つ。東京都の23区や政令指定都市の区など。

「区の仕事を請け負う」「さいたま市の北区に住んでいる」「区民の声を聞くような行政を行う」「住民票の写しをもらいに区役所に行く」

Ⅱ［接尾］
区域，区間など。
「駅伝で１区の選手が作ったリードを最後まで守る」

くださる（下さる）［五他］
①「与える」「呉れる」の尊敬語。目下にしか言わない。
「祖父が孫に誕生日のお祝いを下さった」「先生が私に電話を下さった」
②（「ください」の形で）「与える」「呉れる」の丁寧語。
「喉が渇いたので，水を１杯下さい」「お母さん，今月のお小遣いを下さい」
③（「お～下さる」「御（ご）～下さる」「～て下さる」などの形で）「～していただく」という意味を表す。
「おほめくださり，まことに感謝いたします」「ご介抱くださりありがとうございます」「お祝いをして下さってありがとうございました」

くだり（下り）［名］
２つの地点のうち，より中心と考えられる地点から他の地点に行くこと。列車にしか言わない。
「今度の下りの列車が来るまで，後10分ある」「下りの列車に乗るところをまちがえて上りの列車に乗ってしまった」
［語法］
反対語は，「のぼり（上り）」。

くふう（工夫）［名・ス他］
Ⅰ［名］
いろいろと考えて，よい手段や方法を見付けること。また，その手段や方法。
「この家には，設計者のさまざまな工夫が込められている」「制服のデザインに工夫をこらす」
Ⅱ［ス他］
いろいろと考えて，よい手段や方法を見付ける。
「節電の方法をいろいろと工夫する」「あれかこれかと工夫する」

くべつ（区別）［名・ス他］
Ⅰ［名］
あるものと他のものとの違い。差異。
「あの二人は双子で，区別がつかない」「公私の区別をはっきりとさせる」
Ⅱ［ス他］
あるものと他のものとを分けること。分類すること。
「人間は言葉をもっているという点で他の動物と区別される」「リボンの色で学年の違いを区別する」

くやしい（悔しい）［形］
はずかしめを受けたり，自分の無力さを知らされたりして，腹立たしく残念に思うこと。

「バカにされて悔しい」「みんなの前で立たされて悔しい」「試合に負けて悔しい」

グラム（gramme　フランス語）
重さの単位。1 kg の 1000 分の 1。
「この肉屋は牛肉を 100 グラム単位で売っている」「食べ過ぎたのか，先月より体重が 500 グラム増えた」

くるしむ（苦しむ）［五自］
① 痛みや苦しみを感ずる。苦痛を感ずる。
「病気に苦しむ」「持病のぜんそくに苦しむ」「しつこい腰痛に苦しむ」「いじめにあって苦しむ」
② 骨が折れる。困難だ。
「それは理解に苦しむ行為だ」「前任者の後始末に苦しむ」「法廷で弁解に苦しむ」

くれる（呉れる）［下一他］
① 相手が自分に利益になるものを与える。よこす。
「旅行のおみやげをくれた」「小遣いをくれた」「高価な品物をくれる」」
② 利益になるものを相手に与える。やる。
「太郎さんにおみやげをくれた」「おじいさんが孫に 3000 円をくれた」「花に水をくれる」
③ （「～て（で）くれる」の形で）利益になることをする。
「あなたのしてくれたことは沢山ある」「手伝ってくれてありがとう」「大事な試合だから，みんな頑張ってくれると思う」
［慣用句］
張り手をくれる
相撲の技の一つ。相手の横面を平手で打つ。
「立ち上がるなり，張り手をくれた」
目もくれない
見向きもしない。
「周囲の騒ぎに目もくれずに作業を続けた」
目にものを見せてくれる
思い知らせる。ひどい目にあわせる。
「今度という今度は目にものをみせてくれよう」
［表記］
仮名書きが普通。

くん（君）［接尾］
対等もしくは目下の人の姓や名に付けて，軽い敬意や親しみを表す。
「やあ，山田君，久しぶりだなあ。元気かい」「早いもので，吉田君ももう中学生だ」
［語法］
主に男性が使うことば。女性が使うと，生意気に受けとられる。

けいかく（計画）［名・ス他］

Ⅰ［名］

あることを行うために，前もってその方法や手順を考えること。また，その考え。

「夏休みの計画を立てる」「計画どおりに進まない」「計画的にお小遣いを使う」「計画がどこかで狂った」

Ⅱ［ス他］

あることを行うために，前もってその方法や手順を考える。

「今度の旅行は，以前から計画していたものだ」「計画していたとおりに実行する」「計画していたようにうまくやれない」

けいざい（経済）［名］

① 人間の共同生活に必要な物資・財産を生産・分配・消費する活動。

「国の経済を立て直す」「発展途上国に経済援助をする」「経済政策をスムーズに実行する」「経済にゆとりが出る」「経済が上向く（うわむく）」

② 金銭のやりくり。

「家の経済を切り盛りする」「わが家の経済は今や火の車だ」

［語源］

「経国済民（けいこくさいみん）」または「経世済民（けいせいさいみん）」からできたことば。

げしゅく（下宿）［名・ス自］

Ⅰ［名］

部屋代を払って，他人の家の部屋を借りて住むこと。また，その家。

「下宿は大学に近い」「まかない付きの下宿に住む」「下宿代を払う」「6畳一間の下宿生活」

Ⅱ［ス自］

部屋代を払って，他人の家の部屋を借りて住む。

「大学の近くに下宿する」「隣の町に下宿する」「これがわたしたちの下宿している家です」

けしょう（化粧）［名・ス自他］

Ⅰ［名］

① 口紅（くちべに）やファウンデーションなどを使って，顔を美しく見えるようにすること。

「今日は化粧がきつい」「化粧1つでこんなに変われる人も珍しい」「今日はうまく化粧ができた」「念入りに化粧する」

② 美しく飾ること。外観をよくすること。

「山もすっかり雪化粧だ」「化粧瓦を使う」

Ⅱ［ス自他］

① 紅（べに）やファウンデーションなどを使って，顔を美しく見えるようにする。

「今日は大事な会があるので，念入りに化粧した」「成人式なので，娘に化粧した」「化粧してさっぱりした気持になる」

② 美しく飾る。外観をきれいにする。

「壁を白いペンキで化粧する」「山もすっかり雪で化粧された」

けっか（結果）［名］
あることが原因となってもたらされた事柄や状態。
「試験の結果が予想外に悪かった」「悪い結果を招く」「結果で良し悪しを判断する」
［語法］
副詞的にも使う。
「猛勉強の結果，試験に合格した」「話し合いの結果，解決した」
反対語は，「げんいん（原因）」。

けっして（決して）［副］
（後に打ち消し，禁止，「ものか」を伴って）絶対に。どんなことがあっても。断じて。
「彼は体が決して大きいほうではありません」「けっしてもう２度と来るものか」「決して嘘はつきません」

けれども（けれども）［接助・接］
Ⅰ［接助］
（活用語の終止形に付いて，逆接の意味を表す）～であるが，しかし。
「明日だと予定が空いているんですけれども，どうしましょうか」「時間もないけれども，金もない」
Ⅱ［接］
しかし。だが。
「あの子は小さい。けれども，駆け足は速い」「工場の機械化は確かに必要だ。けれども，それには途方もないお金がかかる」
［語法］
「けれど」ともいう。

げんいん（原因）［名・ス自］
Ⅰ［名］
ある状態や物事が起こるもとになること。また，その事柄。
「火災の原因を調べる」「自動車事故の原因を調べる」「原因不明の病気にかかる」
［語法］
反対語は，「けっか（結果）」。
Ⅱ［ス自］
ある状態や物事が起こるもとになる。
「不注意に原因する自動車事故」「地震に原因する放射能汚染」

けんか（喧嘩）［名・ス自］
Ⅰ［名］
言い争いをしたり，なぐりあったりして争うこと。いさかい。
「兄弟喧嘩」「友だちと喧嘩をする」「口喧嘩をする」「喧嘩を売る」「喧嘩を買う」
Ⅱ［ス自］

言い争いをしたり，なぐりあったりして争う。
「喧嘩するなら外でしろ」「子どもを相手にして喧嘩するな」
［慣用句］
喧嘩両成敗
喧嘩をした者は，理由を問わず，同じように処罰するということ。
「喧嘩両成敗だ。2人とも教室から出て廊下に立っていなさい」
夫婦喧嘩は犬も食わない
夫婦喧嘩はたいてい取るに足らないことから起こり，そのうち仲直りするのが落ちだから，他人がはたから口を出したり仲裁をしたりするのはばかばかしいということ。
「夫婦喧嘩は犬も食わないだよ。黙って見ていよう」

げんかん（玄関）［名］
建物の主要な出入り口。
「玄関で立ち話をする」「正面玄関を入ってすぐ右のところに受付がある」「玄関から部屋に上がる」

けんきゅう（研究）［名・ス他］
Ⅰ［名］
物事を深く考えたり調べたりして，真理，事実などを明らかにすること。また，その内容。
「自由研究のテーマを決める」「研究熱心な人」「彼の研究は高く評価されている」
Ⅱ［ス他］
物事を深く考えたり調べたりして，真理，事実などを明らかにする。
「昆虫の生態を研究する」「日本語の文法を研究する」

げんご（言語）［名］
音声や文字を使って，意志や思想や感情を相手に伝えるもの。音声によるものを話し言葉といい，文字によるものを書き言葉という。
「未開社会の言語を研究する」「消滅の危機にある言語を記録する」
［慣用句］
言語に絶する
言葉ではとても表しようがない。
「言語に絶する惨状」「言語に絶する苦難を受ける」

げんだい（現代）［名］
①　現在の時代。現今。当世。
「現代思想の代表者」「映像で現代を記録する」
②　歴史上の時代区分の1つ。日本史では第二次世界大戦後の時代。
「現代史の研究家」「近代と現代」

こう（こう）［副］
このように。

「坂道を歩きながら，こう考えた」「こうやってみるといい」

こうかい（後悔）［名・ス他］
Ⅰ［名］
してしまったこと，またしなかったことについて，しなければよかった，あるいはしておけばよかったと後になって悔やむこと。
「どんな結果になろうと，後悔だけはしないように頑張ろう」
［ス他］
してしまったこと，またしなかったことについて，しなければよかった，あるいはしておけばよかったと後になって悔やむ。
「後悔するくらいなら，はじめからやらないほうがよい」「やっておけばよかったと後悔する」「学生時代に英語の勉強をしなかったことを後悔する」
［慣用句］
後悔先に立たず
してしまったことは，後になって悔やんでも取り返しがつかない。
「後悔先に立たずだ。後になって悔やんでも取り返しがつかない」

こうぎ（講義）［名］
大学の演習，購読，実習以外の，教授者の説明によって行われる授業。
「この講義は必修だけど，つまらない」「集中講義を受ける」「源氏物語の講義をする」

こうじょう（工場）［名］
機械を使って，物品の製造，加工，修理などを行う施設。
「この工場に勤めて10年になる」「工場で働く」「大きな工場」「工場の煙突から煙が出ている」

こうつう（交通）［名］
① 人や車などが道路を行き来すること。
「交通整理をする」「この道路は交通が激しい」「交通事故に巻き込まれる」「交通安全を第一に考える」
② 人・国などの交際。
「隣国との交通が一時途絶えた」

ごかい（誤解）［名・ス他］
Ⅰ［名］
まちがって理解すること。
「誤解を受けるような行動は慎む」「誤解を与える」「それは君の全くの誤解だ」
Ⅱ［ス他］
まちがって理解する。
「わざと誤解したようなふりをする」「これまで君を誤解していた」

こくせき（国籍）［名］
①　ある個人が特定の国家に所属し，その一国民であるという資格。
「帰化して日本の国籍を取得する」「アメリカの国籍を取得したため，日本の国籍を失う」
②　船舶・航空機などが特定の国家に所属しているという資格。
「国籍不明の船舶」「日本国籍の旅客機に搭乗する」

ごちそう（御馳走）［名・ス他］
Ⅰ［名］
豪華な食事。贅沢な料理。
「御馳走をふるまう」「お客が来るので，御馳走をつくった」「今夜は御馳走だね」
Ⅱ［ス他］
食事などをふるまう。
「今日は，わたしが御馳走するよ」「今度は君が御馳走する番だ」
［語法］
「ごちそうさま」は，「いただきます」の対義語。

このあいだ（此の間）［名］
現在より少し前のことを漠然という言い方。先日。先だって。こないだ。
「此の間はありがとう」「此の間のことのようにならなければよいが，今度はどうだろう」
［語法］
副詞的にも使う。
「此の間東京ドームに野球の観戦をしに行ってきた」

このごろ（此の頃）［名］
少し前から現在までの間。近頃。最近。
「此の頃は元気を取り戻したようだ」「此の頃のテレビドラマはつまらない」「彼女の此の頃の様子がおかしい」
［語法］
副詞的にも使う。
「仕事が忙しくて，此の頃寝不足が続いている」「此の頃物価が上がって困る」

こまかい（細かい）［形］
①　ものごとの１つ１つが非常に小さい。
「網の目が細かい」「大豆の粒が細かい」「野菜を細かく切る」「1万円札を細かくする」「細かい字でメモを取る」
②　動きが小さい。
「肩を細かく震わせる」「緊張して手が細かく震える」
③　物事の内容が詳しい。詳細だ。
「細かく事情を調べる」「細かい話は，次回にしよう」「情景を細かく描写する」
④　小さいところまで行き届いているようす。

「芸が細かい」「細かい点にまで気を遣う」
⑤　取るに足りない。些細だ。
「細かいことまでとやかくいう」「細かい過ちをいちいち指摘する」
⑥　金銭に対してうるさい。勘定高い。けちだ。
「あいつは金に細かい」「取引に関しては細かい」

ゴム（gom　オランダ語）［名］
弾力性に富み，絶縁体の性質を持つ物質。ゴムの木の樹液から作る天然のもののほか，化学的に石油から合成したものもある。
「この消しゴムはよく消える」「輪ゴムで留める」

これから（これから）［名］
①　今から後。今後。将来。
「これからの日本を考える」「これからが勝負だ」
②　今から。
「これからすぐ行く」「これから決勝戦が始まる」

ころ（頃）［名］
ある時期の前後を漠然と指す語。
「若い頃は何をするのも楽しかった」「子どもの頃を思い出す」「その頃，私は中学生だった」「頃を見計らって話を切り出す」「頃は丁度よい」
［語法］
「この頃」は「このころ」と読めば話題の時期をいい，「このごろ」と読めば，最近，近頃の意味。
「このころ君は若かった」「このごろの若者は，あいさつもしない」

ころす（殺す）［五他］
①　生きているもの（特に，人や動物）の命を奪い取る。死なせる。
「首を絞めて殺す」「一家３人殺した殺人犯を逮捕する」
②　自分ではどうすることもできないで死に至らせる。死なせる。
「手遅れで親を殺してしまった」「交通事故で息子を殺してしまった」
③　意識して勢いを抑える。
「息を殺してじっとしている」「声を殺して見る」「腹の虫を殺して我慢する」
④　（他の物によって）その物の特色や効果などを発揮できないようにする。
「ショウガを入れて臭みを殺す」「そんなことをしたら，せっかくの彼の才能を殺してしまうようなもんだ」
⑤　相撲で，相手の動きを封じてしまう。
「強い力で相手の上手を殺す」
⑥　野球で，アウトにする。
「牽制球で走者を殺す」
⑦　囲碁で，相手の石を攻めて，目が２つ以上できないようにする。

「大石（たいせき）を殺す」

こわす（壊す）［五他］
①　力を加えて，ある物の形をそこなわせる。だめにする。破壊する。
「ガラス戸をこわす」「家をこわす」「窓をこわす」「おもちゃをこわす」
②　本来の働きをそこなわせる。故障させる。
「腹をこわす」「使いすぎてパソコンをこわす」
③　整っている状態を傷つける。
「それは，せっかくの友好的な雰囲気をこわす行為だ」
④　まとまりかけていた話や計画をだめにする。
「話をこわす」「計画をこわす」

こんな（こんな）［連体］
このような。こういう。
「こんなやり方でよく不満が起きないものだ」「こんなそんなで手が離せない状態だ」

こんや（今夜）［名］
きょうの夜。今晩。
「今夜は空いていますか」「今夜は月が美しい」「今夜７時にうかがいます」

さあ（さあ）［感］
①　人をうながすときに発する語。
「さあ，そろそろ参りましょう」「さあ，いらっしゃい。お安くしときますよ」
②　自分が行為を起こすときに発する語。
「さあ，やるぞ」「さあ，勉強するぞ」
③　驚いたり喜んだときに発する語。
「さあ，大変だ」「さあ，完成したぞ」
④　とまどったり，ためらったり，疑うときなどに発する語。
「さあ，どっちにしようか」「さあ，私にできるかな」

さいそく（催促）［名・ス他］
Ⅰ［名］
早くするように急がせること。
「借金の催促がうるさい」「矢の催促をする」
Ⅱ［ス他］
早くするように急がせる。
「催促してもしなくても同じだ」「君のほうから彼に催促してくれ」

さいばん（裁判）［名・ス他］
Ⅰ［名］

裁判所が法的紛争や訴訟に対して，法律の適用によって解決すること。
「裁判にかける」「裁判に訴える」「裁判を受ける」
Ⅱ［ス他］
裁判所が法的紛争や訴訟に対して，法律の適用によって解決する。
「朝９時から裁判する」「110 日間裁判して，ようやく判決が出た」

さけぶ（叫ぶ）［五自他］
Ⅰ［五自］
大声を出していう。
「大声で叫ぶ」「助けてと叫ぶ」「最初に叫んだのは，君だ 」
Ⅱ［五他］
世間に対して，意見を強く主張する。訴える。
「駅前の広場で戦争反対を叫ぶ」「デモ隊が原発反対を叫んでいる」

さげる（下げる）［下一他］
①　一方を固定して，他方を下に垂れるようにして取り付ける。
「カーテンを下げる」「提灯を下げる」
②　手に握ったり肩につるしたりなどして，物を持つ。
「カバンを肩から下げる」「買い物かごを手に下げる」
③　物の位置を低い所に移す。
「頭を下げる」「目尻を下げる」「段落の初めは，１字下げて書く」
④　今までよりも低い段階に移す。
「男を下げる」「コストを下げる」「エアコンを入れて，部屋の温度を下げる」
⑤　後方に移す。
「机を少し下げる」「イラクとイランから兵を下げる」
［表記］
②は「提げる」とも書く。

さける（避ける）［下一他］
好ましくない物事から，身をよける。
「水たまりを避けて歩く」「いざこざを避ける」「ラッシュ・アワーを避けて通勤する」「君，このごろ私を避けているようだね」

さしあげる（差し上げる）［下一他］
①　手に持って高く上げる。
「彼はトロフィーを高く差し上げた」「バーベルを高々と差し上げる」
②「与える」「やる」の謙譲語。
「この花を一輪差し上げます」「お礼の手紙も差し上げず失礼しました」

さす（射す）［五自］
光が当たる。
「窓から光が射す」「天井から光が射す」「西日が射して暑い」「後光が射す」
［表記］
「差す」とも書く。

さそう（誘う）［五他］
①　いっしょに行動するようにすすめる。
「旅行に誘う」「ボランティア活動に誘う」「映画に誘う」
②　ある物事が原因となって，あることをするような気分にさせる。
「冗談を言ってみんなの笑いを誘う」「料理の匂（にお）いが食欲を誘う」「その少女のけなげさが，みなの涙を誘った」

さっき（さっき）［名］
今よりちょっと前。今しがた。先ほど。
「さっきはあいさつもせずに失礼しました」「さっきから電話が鳴り通しだ」
［語法］
副詞的にも使う。
「ついさっき，手紙が届いた」

さっそく（早速）［副］
すぐさま。すぐに。ただちに。
「電話をかけたら，早速やって来た」「早速仕事に取りかかる」

さらいねん（再来年）［名］
来年の次の年。
「再来年まで予定が詰まっている」「再来年は，なに年だ」

さんか（参加）［名・ス自］
Ⅰ［名］
団体や活動に加わること。
「参加者の名簿を作る」「日本全国に参加を呼びかける」
Ⅱ［ス自］
団体や活動に加わる。
「大会に参加する」「地域活動に参加する」

し（市）［名］
地方公共団体の１つ。人口が５万人以上であることのほか，一定の条件を満たしている必要がある。
「新しい市に生まれ変わる」「住民が住みやすい市を目指す」「市長選挙がある」「市民としての自

覚に欠ける」「さいたま市に生まれる」

しかし（しかし）［接］
①　今まで述べてきた事柄と相反することを述べるときに使う。けれども。だが。
「この会社に20年以上勤めている。しかし，一向にうだつが上がらない」
②　今まで述べてきたこととは関係のないことを言うときに使う。
「ここへ来るまでずいぶん時間がかかったね。しかし，今日は暑いね」

じこ（事故）［名］
不注意が原因で起きた突発的な悪いできごと。
「交通事故にあう」「事故の原因を調べる」

しずむ（沈む）［五自］
①　水中・水底に没する。
「タイタニック号が沈む」「ボートが沈む」「村がダムの底に沈む」
［語法］
反対語は，「浮く」「浮かぶ」。
②　地面や床などが周辺よりも低くなる。
「地震で地盤が沈む」「タンスの重みで床が沈む」
③　太陽・月が地平線の下に隠れる。
「日が沈んだから，家に帰ろう」「ちょうど月が沈むころだ」
④　暗い気持ちになる。
「気持が沈む」「沈んだ声で話す」「悲しみに沈む」
⑤　地味で落ち着いた感じになる。
「全体的に沈んだ色合いの羽織」「沈んだ鐘の音（ね）が鳴る」
［慣用句］
海に沈む
海で水死する。
「海に沈んだ英霊を弔（とむら）う」

しぜん（自然）［名・形動］
Ⅰ［名］
人の手が加わらない状態でこの世に存在するあらゆるもの。
「自然を愛する」「自然を満喫する」「自然の法則」「自然の営み」「自然科学」
Ⅱ［形動］
①　人の手の加えられていない，そのもの本来の状態であるさま。
「この野菜には自然な甘みがある」
②　言動にわざとらしさや無理のないさま。
「自然にプロポーズのことばが出た」「自然に振る舞う」

したしい（親しい）［形］
心がかよいあって仲がよい。
「田中君とは親しい」「親しい間柄」「親しくなる」

しつぎょう（失業）［名・ス自］
Ⅰ［名］
①　生計のための職業を失うこと。失職。
「父の失業で生活が苦しくなり，大学に進学できなかった」
②　職業を得られない状態であること。
「失業者」「失業率」
Ⅱ［ス自］
生計のための職業を失う。
「会社が倒産して失業する」

じつげん（実現）［名・ス自他］
Ⅰ［名］
夢や計画などが現実のものになること。また，現実のものにすること。
「夢の実現までもう1歩のところまで来た」「この計画の実現まで10年かかった」
Ⅱ［ス自他］
夢や計画などが現実のものになる。また，現実のものにする。
「長年の夢が実現した」「私の計画は，実現するはずのない夢想だといわれた」

じっこう（実行）［名・ス他］
Ⅰ［名］
実際に行うこと。
「この計画の実行にはいくつかの難点がある」「実行力のある人」
Ⅱ［ス他］
あることを実際に行う。
「この計画を実行することは断念した」

しどう（指導）［名・ス他］
Ⅰ［名］
ある目的に向かって教え導くこと。
「柔道の指導を受ける」「学習指導」「指導力のない人」「柔道の指導者になる」
Ⅱ［ス他］
ある目的に向かって教え導く。
「国語を指導するのは，林先生だ」「彼には人を指導する資格はない」

しなもの（品物）［名］
なにかの用途にあてるもの。物品。

「彼らは高価な品物を持っていた」「この品物を売って金（かね）に換える」

しま（島）［名］
周囲を水で囲まれた陸地。オーストラリア大陸より小さいものをいう。
「日本は島国だ」「島めぐりをする」

しまう（仕舞う）［五他自］
Ⅰ［五他］
① 続けていた物事を終わりにする。そこでやめにする。
「暗くなってきたので仕事をしまう」「悪ふざけはいいかげんにおしまいにしなさい」
② 使っていたものや散らかっているものを片付けて，一定の場所に収める。
「道具を道具箱にしまう」「タンスにしまっておいたスーツを取り出す」
③ （事業などを）終わりにする。廃業する。
「赤字続きで店をしまう」「今月いっぱいで事務所をしまう」
Ⅱ［五自］
「動詞連用形＋て（で），ずに，ないで」の下に付いて
① その動作を不注意に，または故意に行うことを示す。
「茶碗を落として割ってしまった」「彼とは一生会わずにしまった」「秘密を知ってしまった」
② その動作を強調する。完全に～だ。ひどく～だ。
「彼のすることにはあきれてしまう」「そんなことも知らないとは笑ってしまう」
［表記］
仮名書きが普通。

じむ（事務）［名］
会社や役所などで，主として机の上で書類の作成・整理などを行う仕事。
「事務員に聞く」「会社で事務を執る」

じむしょ（事務所）［名］
事務を執り扱う所。オフィス。
「駅前に事務所を構える」「事務所は２階にある」

しめる（締める）［下一他］
① 力を加えて，ゆるみやあきのないようにする。
「ガスの元栓を締める」「水道の蛇口を締める」「ドアを締める」「窓を締める」「ネクタイを締める」「まわしを締める」「ふんどしを締める」「はちまきを締める」
② あるものに周りから強く力を加える。
「足で相手の胴体を締める」「コルセットで腰を締める」
③ 料理で，塩や酢などで魚の身を引き締める。
「サバを酢で締める」「アマダイを昆布で締める」
④ たるんでいるところをなくす。引き締める。

「最終回だ。気を締めてかかろう」
⑤　出費を切りつめて倹約に努める。
「家計を締める」「出費を締める」
⑥　そこまでで一段落とし，合計を出す。
「帳簿を締める」「締めて２万円です」
⑦　取引や工事の決着を祝って，手打ちをする。
「締めは山田君に頼みました」

しゃかい（社会）［名］
①　人々が集まって共同生活をするその集団。
「社会生活を営む」「地域社会に貢献する」
②　同類の仲間。
「海外の日本人社会を訪れる」「彼の名前は，音楽家の社会では有名です」
③　世の中。世間。
「社会に出て働く」「社会の風が冷たい」

じゆう（自由）［名・形動］
Ⅰ［名］
なんの束縛も受けず，自分の思うとおりにできること。
「言論の自由を守る」「自由のない社会」
Ⅱ［形動］
なんの束縛も受けず，自分の思うとおりにできるさま。
「自由に行動する」「自由な時間を持つ」

しゅうきょう（宗教）［名］
神や仏など人間の力を超えた絶対的なものの存在を信じ，それを信仰すること。また，その教え。
「日本人は無宗教の人が多い」「宗教生活を送る」「宗教活動にいそしむ」

じゅうよう（重要）［名］
きわめて大切であること。
「沖縄はアメリカの東アジアの戦略上，重要な位置を占めている」「事の重要性が分かっていない」

しゅじん（主人）［名］
①　自分の仕えている人。雇い主。
「主人の不興（ふきょう）を買う」
②　家の長。一家のぬし。
「隣の家の主人に道であいさつをする」

しゅだん（手段）［名］
ある目的を達成するためにとる方法。手立て。

「目的のためには手段を選ばない」「強行手段に訴える」

しゅっぱん（出版）［名・ス他］
Ⅰ［名］
書物や雑誌などを印刷して，売ったり配布したりすること。
「出版社に勤めている」「自費出版で本を出す」
Ⅱ［ス他］
書物や雑誌などを印刷して，売ったり配布したりする。
「単行本を1冊出版する」「この雑誌は毎月10日に出版される」

しゅみ（趣味）［名］
①　仕事や職業としてでなく，個人が楽しみとして愛好していることがら。
「趣味は音楽鑑賞です」「趣味と実益を兼ねる」
②　物事の味わいを感じ取る能力。また，それにもとづく好みの傾向。
「趣味のいい人」「それは悪趣味だ」

しゅるい（種類）［名］
なんらかの基準によって物事を分類したそれぞれの集まり。
「この図書館は，さまざまな種類の本を集めている」「ご飯のおかずの種類が多い（少ない）」

じゅんさ（巡査）［名］
警察官の階級の1つ。最下位の階級。
「交番の巡査に道を聞く」

じょうしゃ（乗車）［名・ス自］
Ⅰ［名］
鉄道やバスなどに乗ること。
「乗車券を買う」「整列乗車をする」
［語法］
反対語は，降車，下車。
Ⅱ［ス自］
鉄道やバスなどに乗る。
「東京駅から乗車する」「急いで乗車する」

しょうせつ（小説）［名］
文学の一形態。作者の構想のもとに，人物や事件を通して，人間や社会の姿を描き出そうとする散文体の作品。
「短編小説と長編小説」
［語法］
坪内逍遙による英語のnovelの訳語。

しょうたい（招待）［名・ス他］
Ⅰ［名］
人を客として招いてもてなすこと。
「招待状を出す」
Ⅱ［ス他］
人を客として招いてもてなす。
「夕食に招待する」「クリスマスパーティーの招待を受ける」

しょうち（承知）［名・ス他］
Ⅰ［名］
詳しい事情などを知っていること。分かっていること。
「そのことなら百も承知だ」「無理を承知でお願いをする」
Ⅱ［ス他］
①　依頼・要求などを聞き入れること。承諾。
「その件なら承知している」
②　（「承知しない」の形で）許さない。
「今度やったら承知しないからね」

しょうねん（少年）［名］
①　年が若い人。少年法では，20歳未満の男女を，児童福祉法では，小学校就学から満18歳までの男女を指す。
「少年犯罪がひきもきらない」「少年を保護する」
②　年が若い男子。ふつう，小学，中学ごろの男子をいう。
「少年マンガと少女マンガ」

しょうばい（商売）［名・ス他］
Ⅰ［名］
①　品物を売り買いすること。あきない。
「商売繁盛を祈る」「客商売」「商売をするにはもってこいの場所だ」
②　仕事。職業。
「ものを書くのが商売だ」「因果な商売で困っている」
Ⅱ［ス他］
品物を売り買いする。
「日曜日だけ商売する」「屋台で商売する」

じょうひん（上品）［形動］
品がよいこと。品格のあること。
「彼女は上品に振る舞った」「このスープは上品な味がする」
［語法］
反対語は，「下品」。

しょくどう（食堂）［名］
料理を提供する施設。
「ちょうど昼休みで食堂は混雑していた」「大衆食堂で食事をする」「昼食は社員食堂で済ませた」「大学の学生食堂」

じょせい（女性）［名］
おんな。婦人。
「この職場では男性よりも女性のほうが多い」「女性客でごったがえす」
［語法］
主に成人した女子をいう。反対語は，男性（だんせい）。

しらせる（知らせる）［下一他］
ことばやその他の手段で，他の人に情報を伝える。
「この情報は，みんなに知らせる必要がある」「2週間以内に私の考えを知らせる」「安否を知らせる」
［慣用句］
虫の知らせ
前もって心に感じること。予感がすること。
「虫の知らせか，事故を起こした飛行機には乗らなかった」

しらべる（調べる）［下一他］
① 分からないことや不確かなことを，確かめる。調査する。研究する。
「身元を調べる」「郵便番号をインターネットで調べる」「日本猿の生態を調べる」
② 不正やごまかしがないかどうか，実物に当たって確かめる。検査する。
「経理に不正がないか調べる」「事件の容疑者を調べる」「重要参考人として調べる」

しるし（印）［名］
① 他と紛れないようにするために，形や色などで表したもの。目印。
「危険物の印を付ける」「持ち物に印を付ける」
② 証拠や象徴として形に表れたもの。
「見学した印にスタンプを押す」「鳩は平和の印です」「夫婦の愛の印」「白は純潔の印です」

じんこう（人口）［名］
一定の地域に住んでいる人の数。
「世界の人口が70億人を超えた」「発展途上国の人口が急増している」

しんせき（親戚）［名］
血縁や婚姻によってつながりのある人。親類。
「親戚が多い（少ない）」「親戚だからといって特別の扱いをするわけではない」

しんぞう（心臓）［名］
①　血液を全身に循環させる働きをする器官。人間では左胸下にある。
「心臓の移植手術を行う」「心臓が肥大している」「心臓マッサージをする」
②　物事の中心部。
「東京は日本の心臓だ」「大地震が都市の心臓部を襲った」
③　（俗に）厚かましいこと。図々しいこと。
「彼に借金を頼むとは，君も心臓だね」
［慣用句］
心臓が強い
厚かましい。ずうずうしい。また，ものおじしない。
「彼は見かけとは違い，心臓が強い」
心臓が弱い
心臓が弱くて引っ込み思案だ。
「心臓が弱くて，あいさつは苦手です」
心臓に毛が生えている
まったくものおじしない。
「彼の心臓は毛が生えているのではないか。このピンチに平然とした顔をしている」

しんねん（新年）［名］
新しい年。
「新年，明けましておめでとうございます」

しんぽ（進歩）［名・ス自］
Ⅰ［名］
物事がよい方，望ましい方へと変わっていくこと。
「長足（ちょうそく）の進歩を遂げる」「最近の彼のゴルフの技量は進歩が目覚ましい」
Ⅱ［ス自］
物事がよい方，望ましい方へと変わっていく。
「ゴルフの技術が進歩する」「バッティングの技術が進歩する」
［語法］
反対語は，「退歩」。

しんよう（信用）［名・ス他］
Ⅰ［名］
信じて用いること。
「社長の信用を得る」「店の信用に関わる（かかわる）」「信用を失う」
Ⅱ［ス他］
信じて用いる。
「彼の言葉を信用する」「みんなに信用される」

すいえい（水泳）［名・ス自］
Ⅰ［名］
泳ぐこと。
「学校のプールで水泳をする」「水泳が得意だ」
Ⅱ［ス自］
泳ぐ。
「海で水泳する」「風邪をひいているのに水泳するなんて，頭がおかしいのじゃない」

ずいぶん（随分）［副］
かなり。非常に。だいぶ。
「入院したころと比べると，顔色が随分よくなった」「あのころは母と随分話をしたものです」

すう（吸う）［五他］
① 口や鼻から気体や液体を体内に取り込む。
「高山の新鮮な空気を吸う」「タバコを吸う」「ストローでジュースを吸う」「味噌汁を吸う」
② 口の中に引き入れるようにして含む。
「赤ん坊が指をちゅーちゅー吸う」「口を吸う」（接吻する）
③ 引き入れるようにして中に取り込む。吸引する。
「掃除機がゴミを吸う」「ポンプがものすごい勢いで水を吸う」
④ 水分などを吸収する。
「大地が水を吸う」

すく（空く）［五自］
① 人や物が減って，すき間ができる。
「電車が空く」「道路が空く」
② 空腹になる。
「腹が空く」「おなかが空く」
［慣用句］
胸の空く
つかえていたものがなくなり，すっきりとする。すかっとする。心が晴れる。
「胸の空く思いがする」
手が空く
することがなくなって，ひまができる。
「手が空いたら手伝ってください」

すごす（過ごす）［五他］
① なにかをして時間を費やす。
「日曜日は読書をして過ごした」「1日を自由に過ごす」
② 月日を送る。暮らす。
「その後，いかがお過ごしですか」「年金を頼りに老後を過ごす」「幼年期をアメリカで過ごす」

③　物事の程度を越す。
「冗談も度を過ごすと不愉快になる」

すすめる（勧める）［下一他］
①　あることをするように相手に誘いかける。勧誘する。
「入会を勧める」「辞任を勧める」「休養してはどうかと勧める」
②　物を供して，飲食または使用してもらおうとする。
「お茶を勧める」「ビールを勧める」「風呂を勧める」「座布団を勧める」
③　そのことをよいこととして，実行するように働きかける。奨励する。
「資源の有効利用を勧める」「将来に備えて，貯蓄を勧める」

すすめる（奨める）［下一他］
①　奨励する。
「発展途上国との貿易を奨める」
②　推奨する。
「彼との結婚をそれとなく奨める」「名医が奨める健康法」

すすめる（薦める）［下一他］
美点をほめて，採用するように説く。推薦する。
「後任に彼を薦める」「有望株（ゆうぼうかぶ）を１人薦める」

ずつ（宛）［接尾］
①　数量を等しく割り当てること。
「1 人に 1 枚ずつプリントを配る」「2 人ずつ組になる」
②　同じ分量を繰り返すこと。
「少しずつおかゆを食べる」「1 ページずつ教科書をめくる」

すっかり（すっかり）［副］
①　残るものなくすべて。ことごとく。
「貯金がすっかりなくなる」「宿題がすっかりかたづく」
②　完全にある状態になっているさま。まったく。
「手術をしたので，からだはもうすっかりよい」「景色はもうすっかり秋だ」

ずっと（ずっと）［副］
①　比べてみて，その差が大きいさま。段違いに。はるかに。
「こっちのほうがずっと好きだ」「あっちのほうがずっと大きい」
②　ある状態が長く続いているさま。その間じゅう。
「日曜日はずっと家にいた」「ささいなことでずっと悩んでいる」

すばらしい（素晴らしい）［形］
① 群を抜いてすぐれているさま。見事だ。立派だ。素敵だ。
「山頂からの景色は素晴らしい」「素晴らしい生演奏を聴く」
②（「すばらしく」の形で副詞的に）驚くほど程度がはなはだしい。
「素晴らしく甘いミカン」「素晴らしく面白い小説」

すべて（すべて）［名・副］
Ⅰ［名］
ある物事の全部。いっさい。
「彼女のすべてが好きだ」「事件のすべてを告白する」
Ⅱ［副］
ことごとく。残らず。
「余計な書類はすべて処分する」「この町の出入り口は，すべて封鎖された」

すまい（住まい）［名］
① 住むこと。また，暮らし。生活。
「1人住（ず）まい」「侘（わ）び住（ず）まい」
② 住んでいる家や所。
「閑静な住まい」「高級な趣味人らしい風流な住まいだ」

すむ（済む）［五自］
① 物事がきちんと終わる。
「試験が済んだらスキーに行こう」「運動会が無事に済んだ」「警察の取り調べが済むまで待つ」
② 予想していた範囲以内で収まる。間に合う。それで用が足りる。
「歓迎会は5千円の会費で済んだ」「電話1本で済む話ではない」
③ 他人に対して言い訳が立つ。
「謝って済む話ではない」「あんなことをして，本当に済まなかった」
［慣用句］
気が済む
胸のつかえていたものが取れて，晴れ晴れとした気持ちになる。すっきりする。
「気が済むまで殴りたまえ」「このままでは僕の気が済まない」

すると（すると）［接］
① そうすると。
「突然爆発音がした。すると，会場は真っ暗になった」
② それでは。
「すると，ご主人が在宅していることをご存知だったのですか。」

せいかく（正確）［名・形動］
Ⅰ［名］

正しく確かなこと。
「正確を期する」
Ⅱ［形動］
正しく確かなさま。
「正確な時間を教えてください」「事実を正確に記録する」

ぜいたく（贅沢）［名・形動］
Ⅰ［名］
必要以上に金銭を費やして物事を行うこと。
「贅沢は敵だ」「贅沢を言うときりがない。このぐらいで我慢しなさい」
Ⅱ［形動］
必要以上に金銭を費やして物事を行うさま。
「贅沢に暮らす」「贅沢な雰囲気になじまない」

せきたん（石炭）［名］
古代の植物が地中にうずもれ，地熱や圧力のため炭化してできた黒色の燃料。
「石炭を掘る」「石炭を燃やす」

せきにん（責任）［名］
①　まかされていてしなければならない任務。
「責任を果たす」「指導者としての責任がある」
②　失敗や損失などの責めを負うこと。
「事故の責任を取る」「責任を他人に転嫁する」
③　違法な行為をした者が法律上の制裁を受けること。
「裁判で被告の民事責任を争う」「彼には刑事責任を問う声が上がっている」

せきゆ（石油）［名］
①　地中からわき出る黒くてどろとした油。原油。精製して，軽油，ガソリン，灯油，重油などをつくる。
「石油を掘る」「石油の精製工場」
②　特に，灯油。
「石油ストーブをつける」「石油を燃料とする」

せっけん（石鹸）［名］
よごれを落とすために使う，水に溶ける性質の洗剤。ふつう，油脂に苛性ソーダを加えて作る。
「石けんで手を洗う」「粉石けん」「薬用石けん」

せつめい（説明）［名・ス他］
Ⅰ［名］
あることがらの内容や意味などを説き明かすこと。

「説明を加える」「詳しい説明が必要だ」「説明がていねいだ」「彼には説明責任がある」
Ⅱ［ス他］
あることがらの内容や意味などを説き明かす。
「こちらがわの事情を説明する」「ていねいに説明する」

ぜひ（是非）［名・ス他・副］
Ⅰ［名］
良いこと（＝是）と悪いこと（＝非）。よしあし。
「是非を問う」「是非を論ずる」
Ⅱ［ス他］
ものごとの良し悪しを論ずること。
「教科書の検定制度を是非する」
Ⅲ［副］
あることの実現を強く望むさま。是が非でも。どうしても。
「是非一度お目にかかりたいものだ」「是非お手合わせをお願いしたい」

ゼロ（ze'ro　フランス語）［名］
①　数量がまったくないこと。正数と負数の境目になる数。
「ゼロの発見」「ゼロにどんな数をかけても，答えはゼロだ」
②　（比ゆ的に）ある性質や価値がまったくないこと。
「彼の指導者としての能力はゼロだ」「ゼロからの出発をする」

せんきょ（選挙）［名・ス他］
Ⅰ［名］
組織や集団の中で，代表者や役員などを投票によって選ぶこと。
「市会議員の選挙が間近だ」「まだ10代なので選挙権がない」「あの候補者はものすごい選挙運動をする」
Ⅱ［ス他］
組織や集団の中で，代表者や役員などを投票によって選ぶ。
「議長を選挙する」「衆議院議員を選挙する」

せんげつ（先月）［名］
今月のすぐ前の月。
「先月は年度末で忙しかった」「先月子どもが生まれた」

ぜんこく（全国）［名］
国中。国全体。
「バレーボールの全国大会で優勝する」「日本全国を旅した」「彼の名前は，全国に知られている」

せんしゅう（先週）［名］
今週のすぐ前の週。
「先週の日曜日は，家で１日中本を読んでいた」「先週，アメリカから帰ったばかりです」

ぜんたい（全体）［名］
①　或る物や，地域，組織の全ての部分。
「病気はその地域全体に蔓延した」「その建物全体が耐震基準を満たしていないことが問題です」「皆が自分勝手な行動を取っていたのでは全体のまとまりは期待できません」
②　一体全体の形で，疑念を強調する表現。
「こりゃ一体全体どうなっているのだ」
［語法］
或る集団の構成員としての人間の全てを指す時には「～全員」という言い方をする。「学生全員にアンケート調査を実施した」「倒壊した建物の住民全員が建て直しには反対だった」「その家の家族全員が行方不明になっている」。又，人間以外の場合には，「全部の～」或いは，「～全部」という言い方をする。「その港に停泊していた船全部が沈没してしまった」，「その村の家全部が津波に流され全滅した」

せんたく（選択）［名・ス他］
Ⅰ［名］
幾つかの候補群の中から，正しい，又は適切と思われるもの，或いは事実に合致すると思われるものを取り出すこと。
「職業選択の自由と言っても応募者が希望通りの職業に就けるということを保障しているわけではない」「コースの選択をした後の変更は相当な理由がある場合に限り一回だけ認められます」
Ⅱ［ス他］
幾つかの候補群の中から，正しい，又は適切と思われるもの，或いは事実に合致すると思われるものを取り出す。
「次の問いより一問を選択して解答しなさい」「自由選択教科は何も選ばなくても構いません」

センチ（centi　フランス語）［接・名］
①　メートル法の単位の一つ。100 分の 1 の意を表す語。記号は C。
「センチリットル（cL，竰）は 0.01 リットルのことであり 10 ミリリットルとも言う」「センチグラム（cg，瓩）とは 0.01 グラムのことであり，10 ミリグラムとも言う」
②　センチメートル（糎）の略。
「この板を縦 10 センチ横 30 センチに切って下さい」

そる（剃る）［五他］
①　頭髪，頬髯，顎鬚，口髭，その他の部位の体毛を剃刀や刃物で除去する。
「僕はひげが濃いので日に二回ひげを剃ります」「最近は頭髪をすっかり剃り落してしまうファッションが流行っている」「ひげは剃りますか？」
②　頭から頭髪を，顔からひげ（髭・髯・鬚）をかみそり刃物で除去してきれいにする。

「顔は剃りますか？」「彼は頭を剃って貰って法名（ほうみょう）を授かり修行僧となった」
［語法］
「髭を剃る」「頭を刈る」「頭を洗う」を名詞形で言うと，「ひげ剃り」「調髪」「洗髪」となる。理容店では，この名詞形を使って，「調髪，ひげ（髭・髯・鬚）剃り，それに洗髪をお願いします」の様に言うのが普通である。「頭を刈る」は頭を調髪してもらうことだが，「頭を剃る」は出家する者が，頭髪を剃刀で，全て切り落とすことを言う。力士が相撲取りをやめる時にも，剃髪と言うが，こちらの方は，職業の象徴とも言える髷のみを切り落とすことを意味する。ひげは，その生える部位によって，口髭，頬髯，顎鬚と表記される。

それぞれ（其々）［名］
① グループや集団の構成員の一人一人。
「生徒たちは其々必要な食料を分担して持ち運んだ」「皆夫々の任務を立派に果たすように」
② 列挙した項目にその順序で言及し，情報を追加する時に使う言葉。
「太郎と次郎は其々金メダルと銀メダルを獲った」「逃亡を図った時安寿と厨子王丸は夫々16と13だった」「結婚した時秀吉とねねは夫々25と14であった」

それで（それで）［接続詞］
① 前に述べたことを受けて「それが理由で」，「そういう訳で」の意味で，後半の部分へと続けていく言葉。
「中央線で又人身事故があったんです，それで遅れてしまったんです」「昨日の夜から女房が熱を出しまして，朝病院へ連れていったもんですから，それで遅刻してしまいました」「娘がピアノが欲しいって言うんですよ，それで無理して借金して買ってあげたんです」
② 現在の状態で。そういう考え方で。
「それで満足してるんですか？」
③ 「それでいい」という形で，「他のことはともかく，それだけで十分だ」の意味を表す。
「金さえ儲かればそれでいいって考えですか？」「楽しかったらそれでいいじゃないですか」
④ 相手の発言の続きを述べる様に促す言葉。
「それでどうなったんです？」「それで？」
［語法］
関連する表現として，それでこそ［連語］というのがあるが，これは「そうしてこそ真の～というものだ」の意味で使われる。例えば，次の様な文で。「それでこそプロだ」「それでこそ一家の主よ」

それとも（それとも）［接続詞］
① 二つ以上の選択肢を挙げて，相手に問う場合，「それとも」の意で選択肢の最後の語の前に置かれる語。
「コーヒーは何にします，エスプレッソ，マキャート，それともアメリカン？」
「名古屋までは何で行くのですか，新幹線ですか，それとも飛行機ですか？」
② 相手が選ぶ可能性が低い選択枝を挙げていって最後に本命と思われるものをもってくる際に使う言葉。

「あんたが好きなの美子，玲子，それとも私？」「あなたが欲しいの地位，名誉，それとももしかして金？」「あんたが今一番食べたいの当ててみましょうか，寿司，うなぎ，それともお茶漬け？絶対お茶漬けよ，図星でしょう？」
［語法］
「コーヒー，紅茶，日本茶，どれになさいますか？」と尋ねた場合には，この３つの選択肢間に選ぶ可能性から見た軽重の差は感じられない。一方，「コーヒーになさいますか，紅茶になさいますか，それとも日本茶になさいますか？」という尋ね方をした場合には，尋ねる側に，日本茶は選ばれる可能性が一番低いのではないかという予測が潜んでいる。

そろう（揃う）［五自］
①　必要な人員が決められた場所に集まっている。
「第一班皆揃っていますか？」「全員揃っているようですね，じゃあ出発しましょう」
②　売る品を十分な数量準備してある。
「当店ではカラーリングの商品が各種揃っています」「幻の銘酒と言われるものも多数揃っています」
③　トランプや，麻雀などで，必要な札や牌を手に入れること。
「あと１枚揃えば上がりなんだけど」

そんけい（尊敬）［名・ス他］
Ⅰ［名］
或る人物の行為や業績が普通の人の及ばない域に達している，或いは人格が他の人の模範となるべき類のものであるという理由で，その人物を讃え貴ぶ気持ちが生じること。
「彼はその師を知れば知るほど，尊敬の念が益々募るのであった」「その先生は，親しみやすさと尊敬の念が相互に排除しあうものではないということを示す生きた例であった」
Ⅱ［ス他］
或る人物の性質が普通の人の及ばない域に達している，又は性格が他の人の模範とすべき類であるという理由で，その人物を讃え貴ぶ。
「あなたが尊敬している人物を３人挙げ，又その理由を述べなさい」
［参考］
宗教上の尊敬の対象には，「崇拝」という言葉を使う。例えば，「アメンホテップ４世は古の太陽神アテンの一神崇拝を行った」の様に。又，或る人物に対する尊敬の念が高まり，神格化に近い状態となれば，「崇敬」という言葉が使われる。例えば，「私は黒人の解放運動に身を捧げたキング牧師を崇敬しています」の様に。又，年長の人や師を大事にする儒教的道徳観に根ざす感情は，「敬愛する」や「敬う」という言葉を用いる。例えば，「敬老の日とは，多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し，長寿を祝う日のことです」「長上を敬い道を譲るという精神が薄れてきているのは嘆かわしいことだ」の様に。

そんな［連体］
①　前に述べたことを承けて，「そういう」の意味で後続の名詞句に係ってゆく。
「敗戦直後の日本人は皆が虚無感を懐いていました。私たちはそんな時代に学生生活を送ってい

たのです」「バブルの時代というのは，膨らました風船が限りなく大きくなっていくと思っていた，そんな一億幻想の時代だったのです」
② 相手が言ったことを，軽蔑，不信，期待外れの念を籠めて，否定的に捉える時の言葉。
「そんなばかな」「そんなことをいうものではありません」「そんなことある訳ないじゃないか」「そんな言い方はないでしょう」「そんなこと言った覚えはありませんよ」
③ 相手の言った酷い言葉に対して，非難や怒りを表す間投詞の様に使われて。
「そんな，それじゃあこれまで私がやってきたことはみな徒労だったということですか」「そんな，それじゃ彼女が余りにも可哀そうですよ」
④ 相手の態度を指して，「そうなる位」という意味で。
「先生に会うのがそんなに怖いんですか」「そんなに緊張しないで，もっとリラックスしてくださいよ」
⑤ 後ろに否定の語句を伴って，たいして，「思った程～でない」の意味で使われる。
「そんなに大きな魚ではありませんでした」「ここからはそんなに遠くありません」「彼の本もっと売れると思っていたんだけどそんなに売れなかった」
⑥ 「そんなに」の形で「驚く程・・・」の意を表す。
「彼の演技そんなにすごかったの」「彼の本そんなに売れたの」「彼の本そんなに売れなかったの」(彼の本は驚く程売れなかったの意)
[語法]
接続助詞「ので」「のに」，終助詞「の」の前では，「そんななので」「そんななのに」「そんななの」の様に，更に「な」が付いた形になる。

た（田）[名]
稲を栽培する水田。
「遥かかなたに田を耕す農民の姿がちらほらと見えました」「あちこちで田植えが始まりました」

だい（台）[名・接尾]
Ⅰ [名]
① 作業がし易い高さに固定された支え。
「アイロン台はクローゼットの奥にあります」
「長時間の読書には書見台が欠かせません」
「卓袱台は以前は家族団欒の象徴でした」
② 高い建物。
「その灯台は百年以上の長い歴史に幕を閉じた」「天文台は調布飛行場の近くにあります」「今五輪聖火が点火台に点りました」
③ 人が載って高い所の物を取ったりするために使うもの。
「上の棚の本には届かないから，台を用意しておかないといけない」
④ 上に物を載せて，献上したり，捧げたりするために使うもの。
「神饌を載せるための台は三方と呼ばれる」「通り魔事件の現場には献花台が設けられ多くの人が花を手向けていた」
Ⅱ [接尾]

車，自転車，大型事務機械，建設機械，耕運機を数える助数詞。
「駐輪場には自転車500台が収容できます」「1台のブルドーザーが民家に突っ込み，4人が犠牲となった」「カラーコピー機4台を購入する予定です」

だい（第）［接頭］
数詞と助数詞の前に冠して，最初から数えて何番目のという意味で使われる。
「推古天皇は第33代の天皇で女帝でした」「第二代のアメリカ大統領はジョン・アダムズである」「第35回秋の古本まつりは例年の如く知恩寺で10月29日から開催されます」

だいじ（大事）［名・形動］
Ⅰ［名］
① 重要な事柄，重大な事件。
「天下の一大事ですぞ，悠長な事を言ってる時ではありませぬ」「大事に至らなくて不幸中の幸いだったですね」
② 大規模な事業。
「大事を成す人は面構えからして違う」「大事を成すには天の時，地の利，人の輪が必要だ」
Ⅱ［形動］
① かけがいのないものとして大切に扱うべきだ。
「あなたにとっては仇でも私にとっては大事な人です」「どうぞお大事になさって下さい」「高価なものではありませんが，私にとっては大事な指輪です」
② 重要な。
「大事な任務ですから手抜かりのなき様頼みますよ」「大事なところは赤でマークして繰り返し勉強しました」「大事な話があるのですが，後で又」
［慣用句］
大事の前の小事
① 大事を行う時には小さな犠牲には目を瞑らざるを得ない。
② 大事を行う時には小さなことも疎かにせず油断しないようにしなければならない。
「人質の命を救うには，金の工面が先決だ，大事の前の小事，借金の返済は後回しだ」

たいする（対する）［サ変自］
① スポーツで対戦相手となる。
「対する挑戦者は弱冠19歳の新人です」
② 訴えや抗議の対象をあらわす。
「原告団は国と製薬会社に対して賠償請求を行った」「犠牲者の家族は病院と担当の医師に対して，業務上過失致死の訴えを起こした」
③ 責任を負う相手を表す。
「大臣は国民に対して負託に応える義務を負っている」「この事故に対する責任の所在を明らかにすべきだ」
④ 準備や備えの対象を表す。
「土砂災害に対する備えは十分ですか」「今回売りに出された物件は地震に対する対策も万全です」

⑤　比較の相手を表す。
「今年の引ったくり件数は増加しています。それに対して空き巣の件数は減少しています」「ドルに対する円の相場は，最近のアメリカの景気に対する不安を反映して，高騰した」
⑥　考えや，議論のテーマを表す。
「TTPに対する大臣のお考えをお聞かせ下さい」「その問題に対しては，賛否両論があり，未だ意見の集約がなされていない状況だ」

たいてい（大抵）［名詞・副詞・形動］
Ⅰ［名］
①　殆ど
「大抵の若者が今の日本の政治に不満を持っています」「大抵の路上生活者は職を得ようという希望を失ってしまっています」
②　普通
「あれだけの怪我を克服して優勝するのは並大抵のことではない」「仕事と勉学を両立させるのは並大抵のことではないよ」
Ⅱ［副］
殆どの場合，通常の場合。
「こういう体勢になると大抵横綱が勝つ」「こういうケースだと，大抵虐待する親も幼少のころ虐待を受けていたことが多いようです」「二年ぐらいヒットが出ないと，大抵新人歌手はそのまま忘れられてしまうことが多いですね」
Ⅱ［形動］
大部分の，殆ど全ての。
「その頃は日本の大抵の男は子育ては女の仕事だと考えていた」「大抵の沖縄の人は沖縄からの基地の移転を願っている」「威張る人間は大抵の場合深層に潜む劣等感がそうさせていることが多い」

だいぶ（大分）［副］
（量や程度が）かなり，相当
「下積み時代には，給料は拾万を切っていましたので，大分苦しい生活を強いられました」「最初の作品に比べれば，大分上達してきたね」「彼の容態は，大分良くなってきていて，峠は越したとのことです」
［語法］
「随分」は量や程度が思っていたより多かったり，大きいことを表す表現。「随分」には，発話者の感情が反映されている。具体的な例で説明すると，「暫く見ない中に，随分大きくなったわね」を「暫く見ない中に，大分大きくなったわね」と比較した場合，前者の表現には，相手の成長振りに驚いている様子が感じられる。又，「遅かったわね，随分待ったわよ」の方が，「遅かったわね，大分待ったわよ」よりも，長い間待っていたことでの苛立ちのようなものが文の間に出ている。後者は，待った時間が長かったということを客観的に冷静に述べているように感じられる。

たいら（平ら）［形動］

① 起伏がなく，ほぼ同じ高さの平面が広がっている状態。

「この辺は土地が平らなので，造成がし易いです」「コンクリートを平らに展ばして塗るのは見ているほど簡単ではありません」

② 線に凹凸がなく，同じ高さで推移している。

「カーディオグラフが平らな波形を示したままになってしまった」

③ （人間の性格などが）感情の起伏が少なく穏やかである，平静な。

「あの人は若い頃から，性格が平らで，滅多に声を荒らげることはありませんでした。」

④ 堅苦しくなく，寛いだ様子。

「どうぞお平らになさって下さい」

Ⅱ［接尾］

地名の後ろに付いて，高台の起伏がない土地を意味する。発音は，「だいら」となる。

「日本平は正式には有土丘陵と呼ばれ静岡県にある丘陵の観光地です」「浄土平は，磐梯吾妻スカイラインの観光の中心を成す湿原です」

だから［接］

① 相手の言葉や態度に対する非難や，反抗心を秘めて，自分の予測や，主張の正当性を強調する際に使われる表現。

「だから言ったじゃありませんか，そんな所に財布を入れておくと今に盗まれますよって」

② 相手がなかなか理解してくれないことへの苛立ちを秘めた言葉。

「だから，遅くならない中に戻ってきますって」「だから，帰ればいいんでしょ」「だから，分かりましたから，もうやめてくださいよ」

③ 「そういう理由で」，「それで」という意味の砕けた表現。

「君の無神経な言葉で彼女は傷ついたんだよ。だから，腹を立てて，帰っちゃったんだよ」「今年は，例年より，温度が高いんです。だから，紅葉が遅いんです」

たく（炊く）［五他］

米を水を入れた釜や，鍋などで茹でて，ご飯を作る。

「いい米を使ったって，焚き方がまずけりゃ，台無しだよ」

「今はご飯も機械で炊く時代だからな，便利になったもんだ」

［語法］自動詞は「炊ける」で「もう少しでご飯が炊けます」のように使う。」

たく（焚く）［五他］

① 木や落ち葉を燃やして火を熾す。

「昔は落ち葉で火を焚いて芋などを焼いたものだ」

② 木をくべて風呂を沸かす。

「風呂を焚くのは子供たちの仕事です」

だく（抱く）［五他］

① 子供やペット等を両手で抱える。

「昔は子供を背中に背負ったが，今は胸の前に抱いているお母さんが多い」
「この犬は抱き癖がついているので暴れたりはしません」「赤ちゃんは首が据わってからでないと，抱くことができません」
② 相手の背中に手を回してひき付ける愛情や，親愛の表現。
「戦地に赴く兵士とその妻は長い間抱き合ったままだった」
③ 鳥が卵を温める。
「その鳥は他の鳥の卵が混じっているのも知らず卵を抱いています」「もう雛が孵ってもいい頃なのに，もしかして無性卵かな」
④ 女性と性行為を行うことの婉曲的な表現。
「あいつは女誑しで会社の女の子を何人も抱いたらしいぞ」「どうして彼女を抱いたのか分からないんだ。人間は寂しくて性行為をするものだろうか」
⑤ 周囲を山に囲まれた奥地に位置する（この意味では通常，「いだかれた」という形で使われることが。
「その温泉は山懐に抱かれた知る人ぞ知る秘湯です」「その山小屋は白山の山懐に抱かれた生娘の様に慎ましやかな佇まいの小屋です」

たしかめる（確かめる・慥かめる）［下一他］
① 真偽が定まらない事柄について実地の検分や，検証によって明らかにする。
「湯川秀樹博士は中性子の存在を霧箱を使って確かめるのに成功した」
② 期待どおりの状態になっているかを再度調べる。
「計算が正しいかもう一度確かめてみて下さい」

たす（足す）（五他）
① 計算で，ある数字に別のある数字を加える。
「1足す6は7」
② 不足分を補う
「このカレー濃すぎるから，もう少し水を加えて下さい」「コーヒーの甘さが足りないみたい，砂糖をもう少し加えて下さい」「加湿器の水がもうなくなるから水を加えて下さい」
③ （「用を足す」の形で）排泄行為を行うことの婉曲表現。
「食事の後用を足していたら，こんな時間になってしまいました」「試験の前に用を足しておきなさい」

たたく（叩く）［五他］
① 繰り返し打つ。軽く打つ。
「生徒達は不満を机を叩くことで発散しているようだった」「人ごみの中で突然肩を叩かれて振り返ると，ずっと会っていなかった友人の山本君だった」「暗がりでたばこを吸っていたら，突然警邏中のお巡りさんに肩を叩かれそのまま，交番へ連行されてしまった」「この間部長にもう君もいい年になったねと言われて肩を叩かれたよ」「ちょっと肩が凝ってるから，肩を叩いてくれないかい」
② ぶつ，殴る。

「西洋では懲罰として子供の尻を叩く」「妹を叩いちゃいけませんよ，叩いたらお母さんがお前を叩くからね
③　二つの物を打ち合わせて音を出す。
「最近は女性の方が太鼓をたたくのが上手いみたいだね」「皆が手を叩いてその探査機の快挙を祝った」「自分の行為に対しても手を叩く傾向には聊か違和感を覚えます」
④　風や水が強く当たる時に音を出す。
「嵐が戸を叩く音が煩くて思わず眠りから覚めてしまった」「激しい雨が窓を叩く音も聞き方によってはリズムがあるように聞こえた」
［慣用句］
肩を叩かれる
退職を勧奨される。
「僕は年だから，何時肩を叩かれるか分からない」「彼は部長に肩を叩かれたので最近元気がないんだ」

たたみ（畳）［名］
日本式住居の床を形成するもので，藁と藺草でできている。
「日本のホテルには畳の和室と，ベッドが置かれた洋間が混在しているものがあります」

たたむ（畳む）［五他］
①　用が済んだものを折って小さくする。蝶番の所から折る。
「起きたらすぐに布団を畳みなさい」「このテーブルは畳めるので邪魔な時には仕舞えます」「ナプキンはきちんと畳まないで置いておくのが正しいマナーです」
②　暴力でねじ伏せて懲らしめる。
「あいつは生意気だから畳んじまえ」「下級生のくせに上級生をなめおって，くせになるから畳んじまえ」
［語法］
畳み方が決まっている様な場合には折るを使う。例えば，「折り紙を折る」の様に。予め付けてある折り目に従って畳む場合には，折り畳むという言葉を使う。例えば，「傘を折り畳む」「洗ったワイシャツは仕舞う前にきちんと折り畳みなさい」「礼服の胸にさすハンカチの折り畳み方が分かりません」の様に。

たち（達）［接尾］
人間を表す言葉の後ろに付けて，二人以上の集団を表す。
「その仕事は僕達に任せて下さい」「この仕事は君達だけでできますか」「その言葉を聞いて子供達は歓呼の声を上げた」「作家達は表現の自由の侵害だと言って挙ってその法律に反対の声を上げた」「学費の値上は学生達の反発を招くのは必至だ」

たつ（経つ）［五自］
時が過ぎる。
「あの震災からもう三年が経った」「もう十分も経つのに未だバスが来ない，何かあったのかしら」

「時が経つのは早いもので母が亡くなってからもう二十年になります」「僕達は時が経つのも忘れて思い出話に花を咲かせました」
[語法]
「時が経つのも忘れて」と言う方が普通で,「時が過ぎるのも忘れて」とは余り言わない。又,「時が経つのは早いもので」と言う方が普通で,「時が過ぎるのは早いもので」とは余り言わない。

たてもの（建物）[名]
住居用，営業用，保管用，或いは何らかの事業を行うために必要な場所に造られた外枠としての施設
「殯（もがり）の期間に遺体を安置した建物をあらきのみやという」「津波で海岸近くの建物はほぼ壊滅状態です」「敷地面積に対する建物の建築面積の割合を建蔽率と言う」
[語法]
小さな建物や，俄かつくりの建物，或いは,動物を入れる建物は,「小屋」と言う。例えば,「稲を収穫する頃には,見張り小屋を建てて,寝ずの番をします」「犬小屋」「鶏小屋」。

たな（棚）[名]
① 内部を板や金属板で仕切られた設備，又その仕切りの一つ一つを指す。
「ハエを防ぐ食品戸棚を蝿帳と言う」「この飾り棚は和室にもしっくり合います」「戴いたお人形は飾り棚の家を得て得意げです」「テレビは大きすぎて，その飾り棚の上に置には不釣り合いです」
② 板を吊り具や，金具によって，壁に固定した設（あつら）え物で，物を載せるのに使う。
「その作業場は工具を収納する沢山の棚がまるで壁から生えているようだった」「神棚は人が通る道に設えてはいけません」「ステンレス製の植木棚は風雨に強く頑丈で，100年は持ちます」
③ 土地が階段状になっている場所。
「大陸棚は魚の格好の住処（すみか）です」「夜の棚田（たなだ）は，月が棚田の数だけ現れて，とても風情があります」

たね（種）[名]
① 植物が種族保存の手段として，同種の再生に必要な遺伝形質が凝縮して詰まっているもので，適当な条件が揃えば，発芽によって発条が外れて，種族の再生産に向けて動き出すもの；子供。
「行田市の天然記念物の古代ハスは1400年前から3000年前の種が眠りから覚めて開花したものです」「その地方では,柿の種を飛ばす競技が毎年行われます」「種無しスイカの種はあるんでしょうか」「その男の人は一粒種を残して事故で死んでしまいました」
② 男性の精子。
「豊臣秀吉と秀長は種違いの兄弟です」
③ 危険なものへと発展する萌芽（ほうが）を孕（はら）んでいるもの。
「この親子の確執が戦いの火種となった」

たのむ（頼む）［五他］
① 助力を仰ぐ，或いは願いを聞き入れて貰うために，へりくだった態度で説得に努める。
「彼は嫌いな友人に財政的援助を頼んだ」「彼は海外勤務の間自宅の管理を隣人に頼んだ」
② ある事柄を責任を持って遂行してくれるようある人に託する。
「じゃあ，さっきの件宜しく頼みます」「私の出張中は君が代理だから，粗相の無いようくれぐれも頼みます」「君の実力を見込んで，頼みたいことがあるんだけど」
③ あることの実現を或る人の能力を信じて期待する。
「彼の手腕を頼んで，支店の運営を任せた」

タバコ（tabaco ポルトガル語）［名］
① ナス科タバコ属の一年草の亜熱帯性植物。(Nicotiana tabacum)
「日本では現在タバコの栽培は自由化されている」「彼はこの夏伊江島のタバコ農家でアルバイトをしました」
② タバコの葉を喫煙用に加工したもの。製造タバコ。
「彼は二十年間吸い続けてきたタバコを止める決心をした」
［参考］
葉タバコ以外に，噛みタバコと嗅ぎタバコがある。噛みタバコは小さな袋に入れたタバコを口に入れ唾液で湿らせてニコチンを抽出させ，それを頬，或いは上唇又は下唇と歯茎の間に挟んでニコチンを摂取するもの。，嗅ぎタバコは細かく粉砕されたタバコを鼻から吸い込みニコチンを鼻粘膜から吸収するもの。

たま（たま）［副］
ごく稀に。
「両親は遠いせいもあって，たまにしか東京には出てきません」
「隣の人とはたまに通勤の途次顔を合わせる位です」「たまに，みぞおちの所が痛む時があります」

たまる（溜まる・堪る）［五自］
① 少量ずつ蓄積されたものがその場に留まる。
「この島では甕（かめ」溜った雨水を利用している」
② 好ましくないものが限界になるまで蓄積される。
「こういう職場にいるとストレスが溜ります「彼は溜った鬱憤（うっぷん）を酒の力を借りて一気に晴らした」

ため（為）［名］
① 利益になること；役に立つこと。
「世の為，人の為に，わが身を捧げたいとの一心で，今回立候補致しました」「坊様の話はとても為になりました」
② 目的。
「イタリアに留学するのは音楽を学ぶ為です」「何の為にお前を大学院まで行かせたのか分かりやしない」「僕は君とくだらない冗談を言うために来たんじゃありません」

③　結果。
「急に飛び出してきた鶏に気を取られた為に，運転を誤ってしまったんです」
「難しい問題から手を付けた為に時間が足りなくなってしまいました」
「ドルの価値が上がった為に外貨預金の円建て評価額が上がり，為替差益が生じた」

ちがい（違い）［名］
①　異なる点。区別される点。
「タイフーンと台風の違いは国際基準と日本独自基準の違いです」「熱帯性低気圧は発生する地域の違いにより，タイフーン，ハリケーン，サイクロンに分かれます」
②　等級の区別。
「違いが分かる男のコーヒー」「本物のコーヒーとそうでないものとの違いが分かりますか？」
③　差。
「両選手のタイムの違いは0.03秒という僅かなものだった」

ちしき（知識）［名］
或る分野に於ける現象の理解や分析に必要とされる基本的概念の体系的蓄積。
「彼は大学院では経済学を専攻したので，その面での知識が会社の運営にも役立つことがあると言っていた」「彼は宇宙物理学の知識と経済学の知識を融合させる形で，太陽の黒点と経済活動との関連に就いて研究を行っている」「教育は医学と同じで，知識偏重は厳しく誡められなければならないという点で共通している」「アメリカに行って財政学の知識を更に深めたいと思っています」「彼は天文学に対する知識が卓越している」

ちっとも［副］
締めくくりの否定の語と連関を構成してこれを強め，「これまで全然」という意味になる。
「彼は東京に転勤してからは，ちっとも電話をくれません」「彼女は若くして芸能界入りを果たしたが，出したレコードはちっともヒットしませんでした」「あいつ偉くなってからはちっとも同窓会に顔を出さなくなった」
［語法］
「このコミックはちっとも面白くない」は「このコミックは全然面白くない」と言い換えが可能な場合もあるが，「彼は全然お金を持っていない」は，「彼はちっともお金を持っていない」の様に，言い換えることはできない。

ちほう（地方）［名］
①　ある国の中のある地域。
「関東地方は夕方から天気が崩れ広い範囲で雨がふるでしょう」
②　東京以外の土地。
「この大学は地方出身者が全体の60パーセントを占めています」「大相撲の地方巡業の振興策が必要だ」「地方の大学では定員割れの所も出てきています」

ちゅうし（中止）［名・ス他］

Ⅰ［名］

①　予定されていたことが何らかの理由で取りやめになること。

「予定されていたサイン会は作家の病気のため中止となった」「青空市は雨天の場合は中止となります」「今日の会議は社長の都合で中止となりました」

②　行われなくなること。

「この車種は今月いっぱいで製造が中止となります」「このテレビは，部品が武器への転用が可能だとの理由で共産圏への輸出が中止となった」

Ⅱ［ス他］

①　予定されていたことが何らかの理由で取りやめになる。

「本日の運動会は雨のため中止します」「祭りは被災者の心情を慮（おもんぱか）って中止することになりました」

②　行われなくなる。

「その車はエンジンに不具合が見つかり，直ちに製造が中止された」「その自主映画は人権団体からの反対が強かったため，上映が中止された」「避難勧告が発令されましたので直ちに作業を中止して高台に避難して下さい」

ちょうめ（丁目）［接尾］

①　市や区の下にある区域を区分したもので，地番の上の単位。

「東京スカイツリーの住所は墨田区押上だが，丁目かわからない」

②　市や区の下にある区域を更に区分する時に使う住居表示の単位。

「船橋法典駅は船橋市藤原一丁目にある」「麹町11丁目は現在は四谷一丁目になっています」「その温泉は船橋法典駅の近くにありますが，住居表示は市川市柏井町一丁目です」「東京新聞の所在地は東京都港区港南2丁目3番13号です」

ちり（地理）［名］

①　その地域の道路や主要な建物のある場所に関する情報の総体。

「彼はこの辺の地理に明るい」

②　或る国の位置，気候，民族，産業等に就いて調べる学問。

「私は地理が苦手です」「今日はアメリカの地理について学びます」

ちる（散る）［五自］

①　花や葉が茎や幹から離れて落ちること。

「桜の花が昨夜の嵐で殆ど散ってしまいました」「紅葉の葉が川一面に散って，錦綾なす光景を現出していました」

②　命を落とすことの雅語的表現。

「戦争で多くの若者が若い命を散らした」「大学から桜散る（不合格の意）という文面の電報が届きました，今年も駄目でした」

ついで（序で）［名］

①　別の主たる目的である事を行うのと一緒に。

「洗濯物の回収にいらっしゃる序に，ロンドリーリストを持ってきてくれませんか」「コピーをした序に一部を課長に渡してくれませんか」「駅まで出掛ける序に，キオスクで英字紙を買ってきてくれませんか」「近くまで用があって来た序でについ懐かしくなって寄らせて戴きました」

②　何かをする機会があったらそれと同時に。

「序での時で結構ですから，コーヒーのお替りを戴きたいのですが」「序の折にはどうぞお立ち寄り下さい」

つかむ（摑む・摟む）［五他］

①　指を使って物を取る。

「手で摑んではいけません，箸があるでしょう」「手で摑んで物を食べる習慣をつけてはいけません」「彼は殴ろうとして振り上げた僕の手を摑んで制止した」

②　利益や，幸運を手に入れる。

「やっと摟んだ幸せを逃したくなかった」「彼女は苦労したが，晩年になってやっと幸運を摟んだ」

つかれる（疲れる）［下一自］

①　病気以外の原因によって作業能力が一時的に低下した状態になる。

「最近，ちょっと仕事をしても疲れるんです，病気じゃないかと心配なんです」「偶（たま）に草取りをしたので，いささか疲れました」「根を詰めて細かい字を長時間見ていたので，目が疲れました」

②　人が世話がやける。

「彼は何から何まで面倒見なきゃだめだから，ほんと疲れるよ」「あいつ，風を読むことができないから，意思を伝えるのに疲れるよ」

つく（突く）［五他］

①　先端が尖ったもので刺す。

「猪は角を下げ人を突く体勢に入った」「その凶暴な鮫（さめ）は数本の銛（もり）で突かれてやっとおとなしくなった」

「急に風が強まったかと思うと篠（しの）突く様に雨が降ってきた」

②　（剣道やフェンシングで）木剣や剣で相手の体を強く打つ。

「槍を左脇に引き右足を出しながら小手を突いてきた」「無効面を突くと白いランプが点滅します」

③　大事な点，物事の深奥部に直接に触れる。

「彼の質問は問題の核心を突くものだった」「彼は検事の尋問に虚を突かれしばし沈黙せざるを得なかった」「捜査官の尋問はいきなり護りが弱い部分を突いてきた」

つごう（都合）［名・ス他］

Ⅰ［名］

①　予定や計画の変更ややり繰りの可能性。

「何とか都合をつけて図書館を日曜日も開館してくれませんか」「月曜日は一日仕事が入っていて

都合が付きません」
② 個人的な事情；個人的な予定や約束の変更可能性。
「先生，土曜日の午後はご都合如何ですか」「その日は生憎都合が悪いのですが」「彼女は自分勝手な都合で仕事を休むことがしばしばです」
Ⅱ［ス他］
相手が必要なものを自身が犠牲を払って用立てる。
「母は僕の外国遠征の費用を夜遅くまで働いて都合してくれた」「予算を開発部門に都合してくれと言われ断れなかった」「会社の宣伝のための費用が足りないので何とか都合して貰えないかという相談を受けた」

つたえる（伝える）［下一他］
① 人からの言葉を告げる。
「お母様に宜しくお伝え下さい」「社長にそのように伝えます」「お帰りになりましたら，山田という者から電話がありましたとお伝えください」
② 熱や，電流を移動させる；刺激をパルスの形で届ける。
「銅線は電気を良く伝えます」「この素材は外の熱を体に伝えない性質があります」

つとめる（努める）［下一他］
ある目的の実現の為に努力する。
「社員一丸となって会社の立て直しに努める所存です」「これからは父の遺志を継いで兄弟力を合わせ事業の発展に努めます」「母校のサッカー部の発展のために努める所存ですので，どうぞ宜しくお願い致します」

つむ（積む）［五自他］
① 車，荷車，馬車，船，飛行機に載せる。
「荷車に秣をぎゅうぎゅうに積んで出発した」「キャンプ用の食料も忘れずに積んだか？」「以前はバラストを積んで潜水艦の浮上・沈降の調整をした」
② 物の上に物を重ねる。
「店先には色とりどりの南国の果物が山と積まれている」「石を積んで作られた城壁の築城法の素晴らしさに驚嘆した」
③ 金を貯める。
「毎月千円ずつ積んでいた郵便貯金が20万円近くにもなった」「海外旅行に行くために毎月五千円ずつ積むことにしました」
④ 金を払うべく用意する。
「その政治家は保釈金一億円を積んで保釈された」「金を幾ら積まれてもそれだけは引き受けかねます」
⑤ 経験を重ねる。
「元の会社で営業の経験を積みました」「「イギリスへ留学した暁には研鑽を積まれ，イギリス人くらい英語が上手くなって帰ってくることを期待しております」「その坊さんは，我々に陰徳を積むようにと諭した」「その実業家は，自らの体験を振り返って，日々愚直に積むことが大事だ

と力説した」
⑥　つもる。
「音もなく降り積む雪は想像の世界へと我々を誘います」「二年坂の町屋の屋根に降り積む雪はとても情緒がある」

つゆ（梅雨）［名］
北海道と小笠原諸島を除く日本列島で6月上旬から7月上旬にかけて前線（梅雨前線）が停滞して長雨を降らせる気象現象。
「沖縄は5月9日に梅雨入りしました」「梅雨の終わりは夏の始まりでもあります」「沖縄では梅雨の頃ケーキを作って30分もすると，表面に黴（かび）が一面に生えるという話を聞いたことがあります」「日本の梅雨は東南アジアの人々にとっても堪えがたい季節だということを聞いたことがあります」
［語源］
梅雨（ばいう）という言葉は，この時期が梅の季節でもあることから，この名前が付いたという説と，この時期が黴（かび）の発生する季節であることから，「黴雨」（ばいう）と呼ばれていたものに由来するとする説があります。
［参考］
おもに3月下旬から4月上旬にかけての，連続した降雨を「菜種梅雨」（なたねづゆ）という。菜の花が咲くころに降るためこの名前がある。

つれる（連れる）［下一自他］
人や動物をお伴として誘って一緒に行く。
「犬を連れて川岸を散歩するのが父の日課となりました」「父に連れられて動物園に行ったのがついこの間のことの様に思い出されます」「子供を連れて秋葉原に行きましたが，昔の面影が無い位様変わりしてしまっていて，戸惑ってしまいました」「祖父に連れられて仲見世に行った時のことは今も鮮明に覚えています」

で［接］
①「そういう訳で」の意味のくだけた形。
「皆の冷たい視線が一斉に僕に向けられた，で，僕は一目散にその場から逃げた」「周りには誰もいなかった，で，僕はすばやくその500円玉をポケットに突っ込むとなにくわぬ顔でその場を離れた」
②「それで」の意味で相手に話の続きを促したり，結果を教えてくれる様に催促する言葉。
「で，殴られた友達はどうなったんです？」

ていせい（訂正）［名・ス他］
Ⅰ［名］
間違いや不適切な言葉や文を直すこと。
「問題文に訂正がありますので，後程言います」
Ⅱ［ス他］

間違いや不適切な言葉や文を直す。
「他に訂正すべき箇所はありますか？」「堺ではなく，酒井でした，訂正致します」

テーブル（table）［名］
① 食卓や物を置くための広い台。
「俺の時計テーブルの上にないかな？」「テーブルの上に，テーブルクロスを掛けてくれ」
② 「食事用の」，或いは「食事の際に使う」の意で使われる言葉。
「テーブルナプキンは，きちんと畳まないでおくのがマナーです」「そのホテルでは，週末にテーブルマナーの講習会を開いて好評を博しています」

てつどう（鉄道）［名］
① 2本のレールを使って客や貨物を運ぶ交通手段。
② 2本のレールを使って客や貨物を運ぶ業務を行っている組織。
「JR 東海の正式名称は『東海旅客鉄道 株式会社』である」
② 電車，新幹線，寝台車を利用するの意味。
「そこに行くには，鉄道と飛行機とで時間の上で余り違いはありません」「鉄道旅行には飛行機で行くのとは違う楽しみがあります」

テニス（tennis）［名］
ネット越しにラケットでボールを打ち合う球技。
「テニスは軽いスポーツに見えますが，やってみるとかなりハードなスポーツなんですよ」
［語法］
「テニス」の名称は攻守交代の際のサーバーの掛け声である「トゥネ！」（仏：Tenez!，動詞 tenir の命令形で「（球を落とさないように）取ってみろ」の意）にちなむ。

でも［副助詞・接続助詞・接続詞］
Ⅰ［副助］
「桟敷席でもいいです」「誰でも楽はしたいですよ」「その程度のことだったら子供でもできますよ」「彼は何でも食べる」「いつでも，どこでもインターネットに接続できる方法」「映画でも観に行くか」「お茶でも飲みませんか」
「彼は誰とでもうまくやっていける人間です」「晴れていれば，ここからでも富士山がみえますよ」「昨日は東京でも初雪が降りました」
Ⅱ［接続助詞］
「ても」がガ，ナ，バ，マ行の五段活用の動詞に付く時の形。
「如何に優秀でもこれはできないだろう」「そんなことは死んでも嫌です」
Ⅲ［接続詞］
相手に対する反論を表す言葉。
「でも，僕はアメリカへ行きたいんです」「でも，親父に楯突くなんてできませんよ」「でも，嫌なものは嫌です」

てらす（照らす）［五他］
① 発光体が闇の部分を明るくする。
「満月が夜道を照らしていたので，懐中電灯がいらないほどだった」「電燈で手元を照らしててくれ」
② 正しく導いてくれる。
「あの御坊様は人のゆくべき道を照らしてくれる灯明のような存在です」「イエス様は迷える羊達に正しい道を照らして下さいます」
③ 白い色で辺りの物が明るく見える。
「雪に照らされて本が読める位だ」「降る雪に照らされて全てが穢れなき銀世界となった」

でんとう（電燈）［名］
① 部屋全体の照明として天井に取り付けられる器具。
「急に電燈が消えたので，宿泊客たちはパニックとなり，続々と廊下に出てきた」「電燈が点いたり消えたりしているが，どこかで断線してるんじゃないのか？」
② 乾電池や内蔵充電池を電源として使う，持ち運びできる小型の照明器具。
「帰りが遅くなるようだったら，懐中電燈を持っていく方がいい」
「災害に備えて，手回し充電式の懐中電灯を一つ買っておいた方がいい」
［語法］机の上に置く読書や学習用の電灯は，「デスクライト」。床に置く電燈は「フロア・スタンドライト」。手回し充電式の懐中電燈や，自転車に取り付ける発電式の電燈はダイナモ。道路に夜になると自動的に燈る照明は，防犯燈，或いは，街路燈と呼ばれる。電球の種類から，白熱球，蛍光球，LED 球に分けられる。

と（戸）［名］
住居の入り口の開口部以外の部分を閉ざす主としてスライド方式の建具。
「アルミサッシ戸の開閉が重くなった，戸車が古くなった所為だろう」
「強い降りだから，雨戸を閉めた方がいい」「勝手口の戸は鍵がかかっておりませんので，そこからお入り下さい」
［語法］ガレージの戸はシャッター。ガラス窓やサッシ戸の外側に取り付ける，網が貼ってある戸で，虫の侵入を防ぐもの。

ど（度）［名］
① 常識で考えられる限界。
「彼の酒の飲み方は度を越している」「彼女は競馬に一回で 100 万つぎ込むこともあるらしい，度を越してると思わない」
② メガネのレンズの等級化された強さの程度。
「彼は度の強いメガネを掛けている」「余りレンズの度を上げると地面が浮き上がって見えたりするので，この程度がいいかと存じますが」
③ 温度，湿度，傾斜（角度），高さ（高度），甘さ（糖度），地震の揺れの程度（震度），を表す時に使われる定義された単位。「昔は夏でも 26 度を超す日なんて滅多になかったけどね」「硬度 0 から 50 を超軟水と言います」「イチゴは下半分が上半分よりも糖度が 3 度程高いのです」

とい（問）［名］

① 試験の問題の独立した一単位。

「次のAの問いに答えなさい」「問い3の配点は30点です」

② 質問。

「その女優はファンからの問いにどう答えたものか困惑していた」

［語法］試験問題の全体を指す場合は，「問題」という。例えば，「今度の試験問題は全く歯が立たなかった」

どういたしまして（どう致しまして）［連語］

相手のお礼の言葉に対して，そのようなお礼には及びませんという意味のへりくだった態度の表明。

（先日は結構なお品をどうも有難うございました）「どういたしまして，ほんのお口汚しで」（先日は子供がお世話になりましてどうも有難うございました）「いいえ，どういたしまして，大したこともできませんで」（先日はいろいろお世話になりまして有難うございました）「いいえ，どういたしまして，こちらこそどうも有り難うございました」

どうか［副］

① 相手に懇願したり，丁寧に詫びたりするときに使う言葉。

「先日は，知らぬこととはもうせ，失礼を致しました，どうかお許し下さい」

「事情お汲み取り下さいまして，どうか御寛恕の程お願い申し上げます」「先生からも，どうかお口添えいただけませんでしょうか」「どうか，このことは内聞に願います」

② 相手の為を思って，忠告をしたり，体を思いやったりする時に使う言葉。

「どうか，短気を起こさずに，冷静に話し合って下さい」「どうか，ご無理をなさらずに」

［語法］

別れに際して，元気でいるように祈りますという意味では，「どうぞお元気で」が正しく，＊「どうかお元気で」とは言わない。病人を見舞って別れる時には，体を大事になさるようお祈り致しますという意味では，「どうぞお大事に」が正しく，＊「どうかお大事に」とは言わない。静粛になるように求める時には，「皆様，どうかお静かに」とは言うが，＊「皆様，どうぞお静かに」とは言わない。前者の表現では，静かにしてくれる様に懇願調で頼んでいることが分かる。後者の表現では，どうぞご自由に静かになさって結構ですの様な感じになり，この様な文脈では不適切であると言える。これとは逆に，相手に何かを勧める時には，「どうぞ，お召し上がり下さい」が適切で，「どうかお召し上がり下さい」の方は，食べてくれるように懇願している響きがあって，このような文脈では不適切な表現となる。

どうぐ［名］

作業をしたりする際，何かを作り上げる際，或いは，修理をしたりする際に補助的に使う器具の類。

「類人猿も道具を使う例が報告されている」「何の分野でも，名人と言われる人は，道具の自慢はしないものだ」「天才の作品というものは，本来，道具の良し悪しによって左右されないものだ」

どうしても［副］

① どういう方法を使っても是非。

「首相はどうしても，任期中にその法案を通したいと思っている」「その母は，死ぬ前にどうしても別れた息子に会いたいという思いが募ってきた」

② どんなことをしてもあることの実現が不可能であるということを表す。

「その数学の定理の証明はこれまで，どうしてもできなかった」「何回か党首と会談を持ったが，どうしても，党首にうんと言わせることはできなかった」

どうも［副］

① 詫びたり，謝ったりする，或いは，感謝を表現する際に，それらの表現に添えられて，恐縮している態度を表す言葉。

「先程は，どうも失礼を致しました」「お忙しいところ，どうも有難うございます」「息子が先生に色々とご迷惑をお掛けいたしまして，どうも申し訳ございません」「先生，どうも暫くでございます」「どうも御退院おめでとうございます」「どうも，明けましておめでとうございます」

② 喜びを表明したりする際に，文頭に添えられて，畏まっている態度を表す言葉。「謹んで申し上げますが・・・」というくらいの意味。

「どうも，御退院おめでとうございます」「どうも，明けましておめでとうございます」

③ 確信はないが，そう思われるという意味を表す言葉。「よく分からないが・・・」という意味。

「どうも，母はもう生きていないような気がするんです」「生存を信じたいんですが，どうもそうではない様な気がしてなりません」

とおり（通り）［名・接尾］

Ⅰ［名］

① 信号があり自動車や自転車が通れる道路。

「300メートル位行きますと広い通りに出ます，それが国道14号です」「その通りは近道をしようとする車が多く，小さな道路の割には事故が多いです」「この道をまっすぐ行きますと，大通りに出ますから，そうしたら左に曲がり，300メートル程行きますと，駅に出ます」

② 知名度。

「名前じゃなくて，昔の屋号を言った方が通りがいいんじゃないかと思う」

③ 液体が通路を流れる状態。

「この下水管は通りが悪い，どこかで詰まっているらしい」「風邪を引いたのかしら，鼻の通りが悪い。

Ⅱ［接尾］

ある事をする方法の数。解釈の数。

「そのショッピングモールへ行くには，3通りの方法があります」「この英文は，timeを名詞と取るか，動詞と取るかで，二通りの解釈があります」「金おくれたのむという文章は，切り方によって二通りの解釈を許す」

とかい（都会）［名］

交通の便がよく，沢山のショッピングモールがあり，最新の流行の発信地となっていて，若者が

多く集まり夜遅くまで賑やかな場所。
「彼女は都会にあこがれて東京に出てきたが，人間関係の希薄さに耐えきれなくなってきた」「都会は何でも揃っているが，精神的な飢えは満たされない」「オーチャド通り界隈は瀟洒な店が立ち並び，日本人好みだが，物価は日本よりも高い所です」

とくに（特に）［副詞］
ある特徴を共有するグループの中からその特徴が著しいものを選び出す時の言葉。
「近年若者の文学作品離れが問題となっているが，特に年に一冊も読まない高校生が増えているというのは憂慮すべき事態だ」「現役を退いて数年以内に，認知症を発症する人が多いと言われている。特に，勤務が苛酷な職業に従事していた人にその傾向が著しいという」

どこか（何処か）［副］
① そういう場所をもしかして知っていますかと尋ねる時の言葉；はっきりとは分からないがもしかして何処か具合でも悪いのですかと尋ねる時の言葉。
「自然食品を使った料理を出してくれる店を何処かご存じありませんか？」
「鍵を無くしてしまったんですが，何処かスーツケースの鍵を開けてくれる所ないですかね？」
「元気がありませんけど，何処か具合でも悪いのですか？」
② 何となくある雰囲気や，様子が感じられる様。
「あの人にはどこか高貴な雰囲気が漂っている」「奥さんを亡くしてから，あの人何処か老け込んでしまった感じがします」「

とじる（閉じる）［上一自他］
① 開いた本やノートを元の状態にする。
「では，本を閉じて暗記してきたところをめいめい唱える練習をして下さい」
「父は煩いと言わんばかりに乱暴に本を閉じた」
② 目や，口を開いてない状態にする。
「父は，怒った時はいつもそうする様に，目を閉じたまま何も言わなかった」「煩くて話が聞こえないから，口を閉じなさい」
③ 開きを最少にする。
「足を閉じて姿勢を正しなさい」
④ 生涯を終える。
「彼は外国で人知れず80年の生涯を閉じた」
⑤ 行事やイベントが終わる。
「多くの番狂わせが起こったオリンピックは三か月に及ぶ競技の幕を閉じた」

とだな（戸棚）［名］
仕切りの板で内部が区切られていて，収納や保管の役目を果たすケースで，壁に固定されているもの。
「壁に固定されている戸棚には，食器や調理器具が整然と収納されていた」「戸棚を開けると，彼女が生前履いていた靴が何千足も収納されていた」

とちゅう（途中）［名］
① ある地点から別の地点へ移動している最中。
「彼は名古屋から帰ってくる途中，高山へ立ち寄った」「彼は車で東京から大阪へ行く途中で事故を起こしてしまった」
② ある事が未だ終結していない時点。
「ある事を始めたら，途中で放り出してはいけません」「未だ実験の途中ですから，実用化には時間が掛かると思います」

とどく（届く）［五自］
送った品や書簡が受け取り人のもとへ到着する。
「先日シンガポールからお土産をお送りしましたが届きましたでしょうか」「パリからの異国情緒溢れる絵葉書が昨日届きました」

とにかく［副］
そういうことはあったけれども，何はともあれ，何はさて置き。
「ずいぶん心配したけど，とにかく無事で安心したよ」「とにかく，先方に謝るのが先決だよ」「とにかく，父と母の安否を確かめなければ」「とにかく，先ず大学に受かることが先決だ」

どりょく（努力）［名・ス自］
Ⅰ［名］
目標に向かって，強い意志を持って，日々弛まず勉学や心身の鍛錬に勤しむこと。
「彼は，長年の努力の甲斐あって，第一志望の大学へ合格した」「彼は，努力は必ず報われるということを身を以て証明したのだった」
Ⅱ［ス自］
目標に向かって，強い意志を持って，日々弛まず勉学や心身の鍛錬に勤しむ。
「彼女が若い選手を抜いて優勝できたのは，人知れず努力をしていたからだった」「若くして逝った先輩の遺志を胸に日々努力することが，先輩に対する恩返しだと思っています」

とる（採る）［五他］
① 会社や官公庁が採用試験に合格した者を労働力として受け入れる。
「どの会社でも景気が悪くなると，女子学生を敬遠してあまり採らない傾向がある」「新卒は採る所は沢山あるが，私ぐらいの年齢だとなかなか採ってくれる所はない」
② 食用になる植物を集める。
「茸を採りに行ってクマに襲われることがありますから気を付けて下さい」
「彼は薬草を採りに山に入るとひと月位出て来ないこともあります」
③ 趣味で昆虫を集める。
「その子は，蜻蛉を採りに行くと言って出掛けたが夕方になっても戻ってきません」「その子はカブト虫を採りに行ったのに，虫籠に入っているのはクワガタばかりだ」
④ 検査のために血液や，尿を検体として集める。
「診察の前に血液を採りますので一時間程早く来て下さい」「検査をしますので，尿を採ってきて

下さい」
⑤　理論や説を正しいものとして認める。
「本論に於いては，S理論を前提として採りました」
⑥　評決や挙手によって賛否を決する。
「決を採りたいと思いますので，本案に賛成の方は挙手を願います」「学長の選出のための評決を採りたいと思いますので，二人の候補者の何れかに丸を付けて下さい」

ナイフ（knife）［名］
①　物を切ったり，割ったり，捌いたり，削ったりするための刃が先端に付いている道具。
「これは魚の鱗をそぎ落とすためのスケイリング・ナイフという物です」
「一段階で刃が飛び出すナイフは今は売ってはいけないことになっています」
②　バターなどを塗るための篦状の金属。
「ジャムを塗るためのバターナイフありますか？」

ながさ（長さ）［名］
①　紐状の物や，帯状の物の片方の端から他方の端までの渡り。
「この紐ではちょっと長さがたりない」「この生地でネクタイを作るには中途半端な長さだ」
②　衣服の丈，スカート，ズボンなどの丈。
「ジーパンの長さを詰めてくれませんか」「この服の長さもう少し詰められませんか」
［語法］
地面や海面から上の方向に向かう長さは「高さ」という。例えば，「彼は背が高い」，「このペンションは標高が高い所に立っている」の様に使う。同じ物体の二点間の隔たりではなく，二点が離れている場合には，「距離」という。例えば，「東京と名古屋の距離は

ながめる（眺める）［下一他］
視界に入ってくるものの波に意識を任せている状態。
「スカイツリーから眺める東京はジャングルの様でした」「ふと麓を眺めると最後尾に担任の先生の姿が幽かに認められた」

なくす（五他）［五他］
①　紛失する。
「僕の場合，雨が降る度に傘を無くしていたといっても過言ではありません」「大事なメモをどこかで無くしてしまったらしい」「保険証券は大事なので，無くさないようにして下さい」
②　よからぬことが起こらないようにする。撲滅する。
「セクハラ，アカハラを大学から無くすようにしなければならない」「今月は飲酒運転撲滅月間です，飲酒運転を無くしましょう」
なつかしい（懐かしい）［形］
昔慣れ親しんだ人や，物や，環境を，欺瞞としての甘美さとペーソスが混じった気持ちで反芻する。
「懐かしいな，個と個がギシギシと本音でぶつかり合ったあの青春の日々」「懐かしいな，一枚の

写真が何と雄弁に取り戻せない過去を語ってくれるものなのか」「あの先生のことを思い出すと，野球部の監督だった時の，優しさや厳しさが懐かしく思い出されます」

なな（七）［名］
虹の色の数。七星天道虫の星の数。
「七はラッキーナンバーと良く言われます」
［参考］
「七ツ屋」は質屋のこと。

ななめ（斜め）［名・形動］
Ⅰ［名］
垂直方向に真っ直ぐではなく，左右にずれた方に。
「あの斜め前方に見える光が灯台の光だ」「家の斜め向かいにある大きな家が大家さんの家だ」
Ⅱ［形動］
水平や垂直からずれた角度で。
「ごぼうを角度をつけて斜めに切ります」「地震で柱が斜めになってしまった」「絵が斜めになっているから，真っ直ぐにして下さい」

なにか（何か）［副］
①　正体が不明だが，その存在は認められるもの，デスクリプションに合う不特定の物を指す。
「彼は何かを隠しているに違いない」「彼は何か大きな獣の鋭い爪で一撃を喰らいのびてしまったと言っていた」「腹がペコペコだ，何か食べるものないかな」「何か金属の破片の様なものが歯にがちんと当たった」
②　よくは分からないがそういう感じがする。
「彼女は何か寂しげでした」「その子は何か機嫌が悪く，頻りとぐずっていた」「彼は何か体の具合が悪そうで，いつもの元気がなかった」

なみ（波）［名］
①　月の引力で生じる海水の潮汐現象。
「その子は泳げなかったので，小さな波だったがさらわれて溺れてしまった」
②　電気的な信号としてとらえられる電気や音が空中を進む時の山と谷がある形。

なやむ（悩む）［五自］
気掛かりなことや，どうしていいか分からないことや，何かをしたくてもできないことがあり，それが意識に付き纏い思考の妨げとなる状態が続いていること。
「悩んでないで，勇気を出して，好きだと告白すればいいじゃないか」「彼は兄さんが秀才だったので，常に劣等感に悩んできました」「彼は自分の彼女に，チビといわれてから，自分の容姿のことで悩むようになりました」

ならべる（並べる）［下一他］
①　或る基準に従って置く。
「会議をしますので，椅子を人数分だけ並べて下さい」
②　客に見て貰う，或いは売るために，展示する。
「彼はバザー会場に敷き物を敷き，その上に無造作に自分の作品を並べた」「そこに並べられていた作品はどれも，十数万円の値が付いていて，手が出ないものばかりだった」
［慣用句］
机を並べる
同じ学校，或いは，同じクラスで共に学んだ。
「あの人の奥さんと僕は大学院の時，共に机を並べた間柄です」「彼とは東大で共に机を並べた仲ですが，彼は出世しましたが，私はこの始末です」

なる（鳴る）［五自］
音を出す。
「ピストルが鳴った瞬間，彼の足は地面に張り付いたようになった」
「鳴る釜神事というのは釜が鳴る音で吉凶を卜するものです」「遠くで警報が鳴っている，又何かあったのかな」「雷が鳴っているから，建物の中に入った方がいいよ」
［慣用句］
腹が鳴る
空腹で腹が鳴っている，或いは今にも腹が鳴りそうな状態。
「朝から何も食べてないんだ。腹が鳴ってるよ」

にがい（苦い）［形］
①　ブラック・コーヒーを飲んだ時や，苦瓜を食べた時に感じる感覚。
「ハワイ・コナは苦いですか？」「アロエやゴーヤ等苦い食べ物は胃腸の働きを高める働きがあります」
②　辛くて忘れられないような嫌な。
「友人を信じて金を貸して，返して貰えなかった苦い経験があります」「駆け出しの頃，漢字の読みを間違えて先輩に怒られ，苦い経験をしました」「好きな彼女に告白できないまま別れてしまったほろ苦い恋愛経験を思い出します」

にぎやか（賑やか）［形動］
①　人が沢山居て活気付いている様子。
「この路地は夜になると屋台が沢山出てとても賑やかになります」「この辺は以前は賑やかでしたが，最近は寂れてきて，夜は人通りもなく危ないです」
②　パーティーや宴会等で大勢の人が騒いで雰囲気が盛り上がっている様子。
「賑やかですね，何かのお祝いのパーティーですか？」「今日のパーティはムードメイカーの花子がいるから賑やかなんだ」
③　試合等で，緊張と熱気に包まれてている様子。
「女子サッカーの試合は日米双方のサポーターが多数集まり，賑やかに繰り広げられた」「中国で

最初のモーターショーは，世界中の関心が集まる中賑やかに開会式が行われた」

にこにこ（にこにこ）［副・ス自］

Ⅰ［副］

楽しいことがあったり，相手に親愛の情を感じている時の顔の表情を形容する言葉。

「校長先生はにこにこと笑みを浮かべて表彰状を県大会で優勝した100メートル走の選手たちの一人一人に手渡しました」「にこにこ笑いながら一人の少年が握手を求めてきたが，私には心当たりがなかった」「彼女はいつもにこにこ微笑んでいて，辺りの雰囲気を明るくします」

Ⅱ［ス自］

楽しいことがあったり，相手に親愛の情を感じている時，自然と顔が和んだ表情になる。

「その子はいつもにこにこしているが，負けず嫌いで有名です」「その店員はいつもにこにこしていてとても感じがいい」

にんずう（人数）

① ある場所に集まった人の数。

「未だちょっと人数が足りないので，もう少し待ちます」「何人来ているか，人数を数えてくれませんか」「人数が思ったより集まったので，二チーム作れそうです」

② ある条件で限定される人の数。

「そのイベントは人数制限があるので，早めに出席の連絡をしておいた方がいいよ」「インフルエンザに罹って休んでいる人数はクラス全体で何人ですか？」

ぬく（抜く）［五他］

① 引っ張って取る。

「歯医者に虫歯を抜かれた」「鞘から刀を抜くがはやいか相手に切りかかった」「シャンペンのコルクを抜いてくれ」

② 中に充満している気体を放出する。

「ガスボンベは捨てる前に穴を開けて中のガスを抜かなければなりません」「誰かに自転車のタイヤの空気を抜かれた」

③ 全体から一部を抽出する；多くの中から選び出す。

「定期的に，製品から一部を抜いて検査をします」「任意のカードを一枚選んで私に下さい」「映画のシーンから見せ場となるものを選んで編集しました」「そのベンチャー企業は，様々な分野から優秀な人材を抜いて幹部に据えた」

④ 邪魔な物，不要なものを取り除く。

「このシミは薬品を使わないと抜けませんね」「マグロ二貫さび抜きでお願いします」

⑤ 一部を省略する；それなしで済ませる。

「今日は昼抜きで間に合わせなければならないな」「手を抜いたってすぐ分かるぞ」

⑥ 相手よりも優位に立つ；相手を追い越す；相手を出し抜く。

「彼は自分よりもずっと先輩の名人を抜いて，新しい名人になった」「その記事はＡ社を抜いてスクープとなった」

⑦ 型を使ってある形の物を作る。

「型を使って，餅を菱形に抜く」
⑧　掏る，盗む
「祭りの雑踏の中で財布をぬかれてしまった」
⑨　（接尾語的に）最後までやり遂げるの意を添える。
「やり抜く」「戦い抜く」
⑩　（接尾語的に）すっかり，完全に，全体的にの意を添える。
「困り抜く」「悩みぬく」

ぬるい（温い）［形］
必要とされる温度に達していない。
「風呂が温くて風邪をひいてしまった」「味噌汁が温い，暖めてくれません」

ぬるい（緩い）［形］
①　扱い方が厳しさを欠いている。
「その処置は手緩いと思う」
②　やり方がのろい。
「そんなんじゃ手緩いよ，もっとてきぱきとできないか」

ねがう（願う）
①　自分の心の中で理想や，願望の実現を祈願する。
「被災地の一日も早い復興を願っております」「日本の技術力の底力を世界に示す日が来ることを願っています」
②　相手の希望の実現を祈願する。
「新天地での理想の実現を願っております」「希望の大学に合格なさいますことを願っております」「一日も早く，自由な国家が実現します様に願っております」

ネクタイ（necktie）［名］
男性の洋式の正装で，ワイシャツの襟に巻いて前で留める飾り布。ボウタイ，ダービー・タイ，ループ・タイ，スクエアー・タイ，ワンタッチ・ネック・アクセサリー等の種類がある。

のうぎょう（農業）
野菜，穀物を畑や水田で育て一定期間の後それを収穫して，組合を通して流通に乗せ，得た利益を生産の継続の為に再投資する経済活動。
「今や農業も遺伝子組み換えによる生産が徐々に増えてきている」「日本の農業の自給率の低さは国家の存亡に係わる危機だ」

のせる（載せる）［下一他］
①　荷物を乗物に積む。
「後ろの座席が無理ならば，トランクに乗せたらいい」「食料は忘れずに乗せたか？」
②　人を自分が運転する車で運ぶ。

「子供を一人で後ろの座席に乗せるのは危ない」「郵便局まで乗せてくれませんか」「駅を通りますので，お乗りになりませんか」
のばす（延ばす）［五他］
① 温度を加えると伸展性が増すものに温度を加え，叩いて均すことにより，長さを長くする。
「刀は熱いうちに素早く叩いて延ばさなければならない」「餅を搗く人と，餅を延ばす人の呼吸が合ってないと良い餅はできない」「金箔は一万分の一ミリまで薄く延ばすことができ，向こうの景色が透けて見えます」
② 交通機関の運行経路を更に遠くへと距離を増やす。
「その航空会社は来月からクアラルンプール迄だった路線をサバ州にまで延ばす計画です」「そのバス会社は，四月からＭ駅発の運行時間を深夜まで延ばす予定です」
③ 当初の時期より遅い時期に実施の時期が持ち越される。
「今月は労使の交渉がなかなか決着せず，給料の支給が５日延びてしまった」
「術後の病状が安定しなかったので，退院が今日まで延びてしまった」
④ 締め切りの時期を当初の予定より，先に設定し直す。
「貸し付けの申し込みの期限は一月延ばして４月末までとします」「論文の締め切りを一か月延ばしますのであと少しという方は頑張って是非出して下さい」

のせる（乗せる）［下一他］
① 自転車や自動車で運んであげる。
「今朝山田君に途中で会い，車に乗せてもらって大学に来ました」「スーパーマーケットまで乗せてくれませんか」
② 甘い言葉であおられたり，釣ったりする。
「花子は勧誘員の巧みな話術に乗せられて，本当は要らなかったものを買わされてしまった」「太郎は皆の煽てに乗せられて，歌を歌わせられた」
［慣用句］
口車に乗せられる
巧みな言葉に釣られて相手の言うなりになってしまうこと。

のばす（伸ばす）［五他］
① 関節と関節の間の筋肉を広げる。
「試合の前，彼は背筋を伸ばして深呼吸をした」「膝を屈めたり伸ばしたりして十分に準備運動を行った」「猫は人間並みに手足を伸ばして起き上がった」
② 髪，鬚，爪を生えるがままにする。
「あいつ鬚を伸ばしたら，社長より貫禄あるな」「シンガポールでは，髪を襟に掛かる程伸ばしていると，入国を拒否される」「格闘技をする人は爪を伸ばしていると試合ができません」
③ 持っている才能を開花させる。
「音楽の才能を伸ばすには幼児期から始めるのが理想的だ」
④ 権勢を拡大する。
「田虫はナポレオンの征服のスピードよりも早くその版図を伸ばしていった」「チンギスハーンは東ヨーロッパにまでその版図を伸ばした」

のびる（延びる）［上一自］

①　暑さ等で膨張し長さが長くなる。

「暑さでレールが伸びたことが脱線の原因だと考えられる」

②　麺類が中心部まで水分を吸収してしこしこした食感が失われること。

「早く蕎麦を食べないと延びてしまいますよ」

③　意図しない理由で当初の予定が遅れる。

「雨で折角の遠足が延びてしまって子供達はがっかりしている」「暴動の影響で父の帰国の日が延びてしまった」

④　気を失って倒れる，又はひどく疲労困憊した様。

「炎天下での訓練で多くの隊員が延びてしまった」「疲労と緊張でさすがの彼も延びちゃってます」

のびる（伸びる）［上一自］

①　髪，鬚，爪が成長する。

「栄養が行き届いている時程爪が伸びるのが早い」

②　才能や能力が開花する。

「あの子はここにきて急に数学の能力が伸びてきた」「運動能力は生れつきのものだから，鍛えても伸びない子は伸びないと思う」「英語も程度が高くなると，基礎的な文法知識の支えが無いとある程度以上は伸びなくなると彼は言っている」

のぼり（昇り）［名］

エスカレーターやエレベーターに乗って上に向かうこと。

「荷物が多くても，昇りの人の為にエレベーターがあるから便利だ」

のぼり（上り）［名］

①　電車や列車が走る路線毎に決められている始点に向かう電車や列車。

「今度の上り列車は御茶ノ水行の上り最終列車です」「今度の列車は御茶ノ水発千葉行きの下り列車です」「和歌山駅発の阪和線は上りですが，紀勢線では下りになります」「下りの列車番号は奇数で上りの列車番号は偶数というのが原則です」

②　川を上流へと向かう。

「それは，カヌーで川上りをする勇壮な競技だが，危険と隣り合わせでもある」

③　値段の高騰。

「シラスウナギが不漁でウナギの値段はここへきてまさに鰻上りの天井知らずです」

④　上へと向かう。

「左側は上りの人の為に空けておいて下さい」

［語法］①の「上り」の逆は「下り」で，「一番線に到着の電車は御茶ノ水駅始発の下り千葉行です」の様に使う。

［参考］東京から離れるのが下りではなく，飽くまでも，各路線毎に決められた始点と終点を基準にして，上りと下りが決まります。例えば，北陸本線の起点は米原なので，東京から離れていく西行きは，上りとなります。

のぼり（登り）［名］
木や山の頂上を目指して上に進む。
「これから先は勾配が急なので，登りはかなりきつくなるぞ」

のりもの（乗り物）［名］
① 人を乗せて，或いは人が乗って移動するための機器や道具。
「シンガポールでは人力車は今は観光のための乗物になっている」「観光地には，観光用の乗物として，駕籠が使われている所がある」
② 輸送を目的としない，遊具で，人がそれに乗って遊ぶ。
「子供達は馬の乗物に乗って大はしゃぎだった」「それは高速で回転するスリル満点の，子供達には大人気の乗物だった」「シンガポール・フライヤーは，インドネシアやマレーシアも眺められる子供達に人気の乗物です」
［語法］
「軌陸車」「クレーン車」「ショベルカー」「解体機」のように，人が乗って，作業を行う車も広い意味で乗物と言われることもある。

はい（灰）［名］
① 薪や炭，或いは，生物が燃えた後でできるもうそれ以上燃えない粉末上の物。
「火事でその立派なお屋敷は灰と消えた」
② 灰の様な微粒子状の物。
「俺が死んだら，灰にしてインドネシアの海に流してくれ」
③ 核爆弾の爆発や原子炉内の核分裂によって生じた，放射性微粒子の降下物。
「第五福竜丸の乗組員は死の灰を浴びて全員が被爆し，無線長が死んだ」

はい（杯）［名・接尾］
Ⅰ［名］
トロフィーのこと，後援者の名前を関して使われる。
「今回も白鳳が優勝し賜杯を手にした」「大相撲では賜杯はかって菊花大銀杯と呼ばれた」「高松宮賜杯全日本軟式野球大会は10月12日から行われます」
Ⅱ［接尾］
グラスやカップで飲む飲み物の量を数える助数詞。
「コーヒーもう一杯下さい」「焼酎三杯飲んだだけなのにかなり酔ってしまった」「ビールをもう一杯いかがですか」
［語法］
接尾辞の「杯」の読み方は，先行する数詞によって次の三通りある。
①「ぱい」となるもの：一杯，六杯，八杯，十杯。②「はい」となるもの：二杯，四杯，五杯，七杯，九杯。③「ばい」となるもの：三杯。この助数詞の「杯」と同じように，「敗」も先行する数詞によって，「杯」と同様，三種類の読まれ方をする。但し三敗は，「さんばい」と読むことはなく，「さんぱい」となる。もう一つの相違点は，「杯」は下降アクセントを取るのに対して，「敗」は平坦アクセントを取る。

ばい（倍）［名・接尾］

① ある数量を２つ分加えた数。

「その金貸しは，返す時は倍にして返してくれと言った」「池田内閣は1961年から10年間で国民の所得を倍にすると説明した」

② m，nが自然数である場合，mのn個分。

「その金貸しは，返す時は二倍にして返してくれと言った」「正方形の一辺の長さが二倍になれば，面積は四倍となります」（複利７パーセントで運用した場合，10年で元金が二倍になります」

はえる（生える）［下一自］

① 髪，鬚，鼻毛，歯が出てくる。

「鮫は歯が生え変わるので，常に鋭い歯をしている」「僕は鬚が濃いので，夕方にも鬚を剃らないといけないんです」

② 雑草や，黴の様な役に立たない植物が育つ。

「主の居ない庭には，雑草が生え，荒涼とした感じがした」「海外旅行から帰ってくると，畳一面に白い黴の花が咲いているのでした」

はか（墓）［名］

無くなった人の遺体や，骨を安置し，命日，彼岸，盆に花，線香，供物を供え，故人の供養をする場所。

「生前に自分の墓を造っておく人が増えているらしい」「そこには，二葉亭四迷の墓を始め，著名な作家の墓が幾つかあるそうです」「イスラム教徒のための墓は日本全体で，62程あります」「染井霊園には，二葉亭四迷，高村光雲，高村光太郎，岡倉天心，水原秋桜子等の著名人の墓がある」

はくしゅ（拍手）［名・ス自］

Ⅰ［名］

立派な行為を讃えたり，快挙や勝利を讃えたりする意を表するために，或いは，期待したことが実現した様な場合その喜びを表現して，両手を叩くこと。

「彼女のオリンピックでの快挙のニュースが流れると，そこにいた人々から期せずして拍手が沸いた」「ローザンヌ国際バレリーナコンテストで優勝した日本人を讃える拍手は鳴りやまなかった」「金環日食が起こった時，それを待ち焦がれていた人々から拍手が起こった」「『はやぶさ』が無事帰還した時には，JAXAのメンバーから拍手が起こった」

Ⅱ［ス自］

立派な行為を讃えたり，快挙や勝利を讃えたりする意を表するために，或いは，期待したことが実現した様な場合その喜びを表現して，両手を叩く。

「彼女の素晴らしい演技に，敵のチームも思わず拍手した」「そのチンパンジーは人間の様に拍手できる」

はげしい（激しい・△烈しい）［形］

① 感情の発露が直截的で抑制が効かず，その程度も甚だしい様。

「監督は審判に対して激しい怒りを露わにした」「彼がクラスで一番の成績だったと先生が告げた

時，僕の心に烈しい嫉妬心が頭を擡げた」「完膚なきまでの敗北を喫した後，反動で，持ち前の不撓不屈の精神が頭を擡げた」
「負傷しても休場しないで戦う横綱の顔には激しい闘志が感じられた」
② 戦争や試合が双方勢力伯仲していて，お互いに相譲らない様相を呈している状態。
「沖縄での激しい白兵戦で新田中尉，伊藤少尉が戦死した」「女子サッカーチームは激しい攻防戦の末，一対ゼロで韓国に勝って，オリンピック出場の権利を手にした」

はじ（恥）［名］
面子や名誉が損なわれ心に深い傷を負うこと。
「人間に卑劣なことをさせないのは，恥をかくことに対する懼れがあることによる」「電車の中で飯を食べる若者が増えたのは，貧乏は恥だという意識が失せた所為なのだろう」「お釣りの小銭を残らずさらっていく日本人が，相当貧乏だと思われているということを知れば，そうする行為を恥だと思って止めるだろう」

はじめ（初め・始め）［名］
① はじめること。
「はじめは厳しい人かと思っていたのですが，実はとても気さくな人だったのです」「はじめのうちは随分気を遣って疲れましたが，今は大分馴れてきました」「その討論会には教育問題に造詣の深い宮崎氏を始め各界の錚々たる面々が名を連ねていました」「はじめに神は天と地を創造した」「初めまして，吉田茂と申します」
② 早い時期。
「四月の初めは新学期の準備で教師も結構忙しいです」「その計画の初めの頃は全てが順調でした」「子供の躾は初めが大事だから，甘やかしてはいけない」「五月の初め頃は精神的にダウンする大学生が多いと言われている」
③ 物事の起こり。起源。
「この世のはじめ神の命を受け碧海の中から興るブリタニア」「天地のはじめは混沌とした一つのものであった」

はじめて（初めて・始めて）［副］
一番最初の時に。
「初めて外国に行った時にはレストランでの支払いの仕方も分かりませんでした」「ドリアンをバリで初めて食べた時にはこんなものが果物なのかと思いました」「初めてのど自慢に出た時は，何を歌っているのかも分からないまま鐘が一つ鳴ったのを覚えています」

ばしょ（場所）［名］
① 何かが在る，何かがあった，或いは何かが起こった空間の所在地。
「家が建っていた場所は確かこの辺だっただろうと思います」「ここが飛行機の墜落した場所です」「ここが衝突事故が起こった場所です」「ここが最初に彼女に会った思い出の場所です」
② ある活動をする為に必要な空間。
「こんなに物が散らかっているんじゃ，寝る場所もないじゃないか」「だんだん喫煙の場所が狭め

られていくような気がする」
③　相撲の興行が行われる土地，又その期間。
「相撲界の不祥事で，今年の名古屋場所は取りやめになった」「五月場所14日目の取組の結果は映像配信をご覧下さい」「初場所は一月に国技館で行われる場所で，春場所は名古屋で行われる場所のことである」「各場所の初日は，原則として，日曜日に設定される」
④　自身が取り巻かれている周囲の状況。
「そんな大きな声で上司の悪口を言うなんて，場所柄を弁えろよ」「いくら酔ってるったって交番の前で，警察の悪口を言うなんて，ちっとは場所を弁えろよ」

はしら（柱）［名・接尾］
Ⅰ［名］
①　木造建築で，材を垂直に立て，建築物の支えとするもの。
「五十の塔では心の柱は下を固定せず振り子の様になっている」
②　電柱や御柱の様に，垂直に立てた構築物。
「御柱祭りの柱はミシャグジの依り代と考えられている」
Ⅱ［接尾］
神や霊を数える助数詞。
「靖国神社には二百数十万柱の英霊が祀られています」「別天津神とは『古事記』において，天地創発の時に現れた五柱の神を指す」

はた（旗）［名］
①　或る団体や機関を象徴するロゴを布に染めたもので，これを綱に固定して掲揚したり，棒や支柱に取り付けてこれを掲げたり，手で振ったりするもの。
「復興のシンボルである新しい大漁旗が船に翩翻と翻った」
②　合図に使う布に棒を付けた器具。
「手旗を使って信号を送る練習をする」「手旗信号は海軍で考案された」

バター（butter）［名］
①　乳（特に牛乳）中の脂肪分を凝固させて作る食用油脂で，パンに塗ったり，熱を加えて溶かして，料理に使う。
「トースターで三分程焼いたらそれにバターを塗り，蜂蜜を塗れば，ハニートーストの出来上がり」
②　バターの様に脂肪が豊富なスプレッド。
「ピーナッツバターは固いのでパンに伸ばすのに苦労します」

はたち（二十歳）［名］
二十歳のことを普通，はたちと言い，二十歳と言うことは稀である。
「今年の11月13日ではたちになります」「酒ははたちになってからですが，運転免許は18になれば，取得できます」「成人の日に二十歳になる人は来年成人式です」

はっけん（発見）［名］

① この世界に存在していたが，今まで誰もその存在に気が付かなかった場所や，物質を見つけ出す。

「アメリカ大陸を発見したのはアメリゴ・ベスプッチです」「パナジウムを発見したのは誰ですか？」

② 災難の発生に最初に気が付く。

「厨房の火事を最初に発見したのは妻でした」「堤防の決壊を最初に発見したのは少年でした」

③ 犯罪や事件に絡む場所，物，人，死体を見つけ出す。

「警察はその過激派のアジトを遂に発見しました」「被害者が乗っていた車が群馬県の山中で発見されました」「行方不明となっていた会社社長が，手足を縛られた状態で発見されました」「容疑者のマンションからは死後一年以上経っていると思われる死体が発見された」

［語法］事故や災難の発生，身体の異常には，気付くも用いられる。「ガス漏れに最初に気付いたのは飼っていた鸚鵡でした」「これらの脳梗塞の前兆に気付いたら，すぐに医者に行って下さい」「厨房の火事に気が付いた時にはもう手遅れで，手の施しようがありませんでした」「堤防の異常に気が付いたことで，大参事を免れました」

はっぴょう（発表）［名・ス他］

Ⅰ［名］

① 試験や籤の当落を知らせること。

「試験結果の発表は明後日の予定です」「年末ジャンボ宝籤の当選発表は12月31日です」

② コンテストや，優劣を競うテレビ・ラジオ番組で入賞者を知らせること。

「ミス日本には高校生のAさんが選ばれたとの発表があった」「予選通過者の中から選考を行い優勝者の発表をします」

③ ピアノやエレクトーン教室で習っている子供が腕前を披露すること。

「来週の土曜日に当音楽学院の発表会を開きます」「来週の発表会に来ていく服を揃えないとね」

④ 会社等で新機種の製品の紹介をイベントを開催して行うこと。

「その会社は幕張メッセで新機種の発表を兼ねたイベントを開催する予定だ」

「その発表会で新しい機種を売り込むキャンペーンを展開する心算です」

Ⅱ［ス他］

① 試験や籤の当落を知らせる。

「試験結果は明後日発表します」「年末ジャンボ宝籤の当選番号は12月31日に発表されます」

② コンテストや，優劣を競うテレビ・ラジオ番組で入賞者を知らせる。

「今年度のミス日本の発表を致します」「予選通過者の中から選考を行い入賞者を発表します」

③ 会社等で新機種の製品の紹介をする。

「その会社は幕張メッセで新機種を発表する予定だ」

はで（派手）［形動］

① 色や柄が目を惹くこと。

「この服は私にはちょっと派手みたい」「彼女は派手な色が好きなんです」

② 目立つ行動を取るのが好きな。

「あいつのいつもの派手なスタンドプレイには辟易とするよ」「あの人は小さい頃から派手なことが好きでした」
③　破壊したり汚したりする程度が大きくて注目される。
「わー，こらまた随分派手に汚したもんだな」「随分派手に壊したもんだな，反対派の仕業だろう」

はね（羽）［名］
①　鳥のからだ一面に生えている毛。羽毛（うもう）。
「羽のはえそろった鳥」
②　鳥や昆虫が飛ぶときに広げる部分。つばさ
「鳥が羽を広げた」「羽をたたむ」
③　飛行機のつばさ。
「飛行機が羽を輝かせて大空を飛ぶ」
［慣用句］
羽が生えたように（羽が生えて飛ぶように）
どんどん勢いよく。
「羽が生えたように売れる」
羽を伸ばす
束縛から解放されて，自分の好きなように，のびのびと振る舞う。
「早く家に帰って，羽を伸ばしたいものだ」

はね（羽根）［名］
①　一枚一枚の鳥の羽。まんなかに軸がある。
「くじゃくの羽根をかざる」「羽根のついた帽子」
②　機械などの，羽②の形をしたもの。
「扇風機の羽根がまわる」「プロペラの羽根」「タービンの羽根」
③　羽子板で，ついて遊ぶ羽子（はご）。
「羽根をつく」
④　バトミントンで用いる羽。
⑤　矢がまっすぐに飛ぶように矢の軸につけた羽毛。矢ばね。

はやし（林）［名］
①　木の群がって生えている所。森よりも木々の密生度が小さく，範囲が狭い。
「雑木林（ぞうきばやし）」「松林（まつばやし）」「海岸の松の林」
②　棒状の物体が，多く立ち並んでいる状態。
「煙突の林」「アンテナの林」
③　物事を考えるための材料が多く集まっている状態。
「知識の林に分け入る」「言葉の林」

ばんぐみ（番組）［名］
①　演芸，映画，相撲などの演目や組み合わせを書いたもの。プログラム。番付表。

「受付で番組をもらう」
② テレビ，ラジオなどの放送を編成する単位となるもの。番組を構成する出し物の一つ一つ。
「新聞のスポーツ番組を見る」「放送の番組編成に苦労する」「音楽番組」

ばんち（番地）［名］
居住地を明示するためにつける番号。地域を区分した区画につけた番号。住所。アドレス。
「新番地を記す」「ここは一町目の一番地です」「この手紙は番地が間違っている」

ピアノ（piano　イタリア語）［名］
① 楽器の一つ。グランド（平型）とアップライト（竪型）とがある。ピヤノ。洋琴。
「ピアノを弾く」「彼女はピアノが上手だ」「ピアノ三重奏（ピアノ，バイオリン，チェロの三重奏）」
② 音楽の強弱を示す標語で，「弱く」を示す。記号 P。
［語源］
楽器ピアノは，イタリア語 pianoforte の略語。ピアノ（弱音）とフォルテ（強音）とを自在に出せることから。

ビール（bier　オランダ語）［名］
酒の一つ。オオムギの麦芽を原料として，ホップを加え，発酵させて造る。泡が立ち，すこし，にがい味がする。ビヤ。麦酒。
「ビールで乾杯しよう」「ビールを一杯いかがですか」「ビールの泡がコップからあふれた」「生ビール」「缶ビール」「瓶ビール」

びっくり（びっくり）［副・ス他］
Ⅰ［副］
突然のことや，予想外のことに，おどろくさま。
「あの大会社が倒産とは，本当にびっくりだ」「びっくり仰天する」（非常に，おどろくこと）
Ⅱ［ス他］
① 予測できない思わぬ出来事に，一瞬のあいだおどろく。
「ああ，びっくりした」「大きな音にびっくりして目を覚ました」
② （「びっくりするほど」「びっくりするような」の形で）程度の高さにおどろく。
「彼女はびっくりするほど，流暢に中国語を話した」「この商品はびっくりするような高値です」

ひづけ（日付）［名］
① 書類を書いて，提出した年月日。
「文書は日付が記入していないと無効だ」「申請書に日付を書く」「領収書に日付をいれる」
② 手紙に記入した年月日。
「この手紙は 11 月 8 日の日付だ」
③ 暦やカレンダーに記されている，その日を示す数字。
「日付の表示される時計がある」「零時を過ぎると日付が変わる」

ひっぱる（引っ張る）［五他］
① 二つの地点の間に，ゴム，ひも，テープなどを引いて，ぴんとはる。
「綱を引っ張る」「太い線をノートに引っ張る（書く）」「ゴールのテープを引っ張ってください」「電話線を引っ張る（延長する）」
② （人や物を）力を入れて引く。
「リヤカーを引っ張る」「袖を引っ張って合図する」「子どもの手を引っ張る」
③ 検挙する。ある場所に強制的につれて行く。
「容疑者を警察に引っ張る」「選挙違反で引っ張られる」
④ 自分の方へ強く誘う。
「彼を私の会社に引っ張ろう」「仲間に引っ張る」
⑤ 魅力や指導力によって，人をひきつける。
「キャプテンとしてチームを引っ張る」「おもしろさに引っ張られて徹夜で読んでしまった」
⑥ 野球で，打者がボールを意図的にある方向に打つ。
「外角球を強引に引っ張る」

ひてい（否定）［名・ス他］
Ⅰ［名］
そうではないと，打消すこと。
「これは否定ができない事実だ」
Ⅱ［ス他］
① 事実に反するといって，その発言を打消す。
「うわさを否定する」「彼女は，そんなことは言わなかったと否定した」
② よくないこととして，その存在を認めない。容認しない。
「暴力を否定する」「霊魂の存在を否定する」

ひふ（皮膚）［名］
動物の体の表面を，おおっているもの。
「彼女は皮膚の色が白い」「彼はやけどの治療に皮膚を移植した」「日光浴をして皮膚を焼こう」

ひやす（冷やす）［五他］
① 冷たい状態にする。
「ビールを冷やす」「すいかを冷して，みんなで食べよう」
② 心の状態を冷静にする。平静にする。
「頭を冷やしてこい」「興奮した頭を冷やす」
③ 恐ろしさで，ぞっとする。
「この事件では肝（きも）を冷やした」
④ 経済状態が悪くなる。
「景気を冷やしては大変だ」

ひよう（費用）［名］
何かをするために必要な金銭。必要な金額。
「旅行の費用を積み立てる」「生活の費用を切り詰める」「費用を出し合ってパーティを開く」「増築の費用がかさんで（お金がかかる）困っている」「親の入院費用を兄弟で負担する」「むだな費用をはぶく」

ひょう（表）［名］
① 事項や数値の関係が，一目でわかるように書き表したもの。一覧表，年表，予定表など。
「今月の予定を表に書く」「物価の変動を表にする」「この本は，学習した漢字の表が巻末にある」
② 臣下から君主へ差し出す文書。
「出師（すいし）の表」

びょう（秒）［名］
① 時間の単位の一つ。一分（いっぷん）の六十分の一。記号（s）。
「100メートルを11秒8で走った」「光の速さは，1秒間約30万キロメートルである」
② 角度の単位の一つ。一分（いっぷん）の六十分の一。記号（”）。
「西経十八度六分三十五秒」
［参考］
経度・緯度を表すにも用いる。

びょうにん（病人）［名］
病気にかかっている人。病気の人。
「病人の世話をする」「家族に病人がでる」「病人を見舞う」「あの人はいつも病人のような顔色をしている」
［備考］
医者が病人をさして言うときは「患者」という。

ひょうばん（評判）［名］
① よい，わるいについて，世の中の人がする批評。世評。
「彼は友人の間で評判がよい」「彼女は，事件を起こして評判を落した」
② 世の中に知られて，話題になること。人気があること。
「彼女の活躍は，地元で評判だ」「近所でも評判のおしどり夫婦です」「ここは新聞の記事で花見の名所として評判になった」

ひるま（昼間）［名］
日の出から日の入りまでの間。日中（にっちゅう）。日のある明るい間。
「昼間のうちに仕事はやってしまおう」「彼は，昼間は働いて，夜は夜学に通っている」
［語法］
「昼（ひる）」は，朝・昼・晩で区分され，「昼間」は「夜」と区分されるので，午前・午後にあたる時間は，朝と昼で対応する。「昼の3時」とは言うが，「昼間の3時」とは言わない。

ひろう（拾う）［五他］

① 落ちているものや捨ててあるものを，取りあげる。手に入れる。拾得する。

「廊下のごみを拾う」「浜辺で貝殻を拾う」「公園のぎんなんを拾った」「通りで財布を拾い，交番へとどけた」

② 思いがけなく運を手に入れる。

「彼女は，危ないところで命を拾った」「思わぬ勝ちを拾う」

③ 多くの中から，自分に必要なものを選び取る。

「作品の中から，気に入った表現や語句を拾う」「新聞から話題を拾う」「活字を拾う」

④ 苦境から救い出す。不遇な人を取り立てる。

「困っていたときに，社長が私を拾ってくれた」

⑤ 車などに人を乗せる。

「駅前で友人を拾って目的地に向かった」「流しの車が客を拾う」

⑥ 流しの車などを，つかまえる。呼びとめて乗る。

「駅でタクシーを拾う」「通りで車を拾って帰る」

⑦ マイクロフォンで，音を収録する。とらえる。感じとる。

「マイクで靴音を拾う」「受信機が電波を拾う」

⑧ テニスやバレーボールなどで，打ち返すのが難しい球を，受ける。受け止める。打ち返す。

「彼のサーブは拾いにくい」「テニス・コートに出ると，彼女は拾って，拾って，拾いまくる」

ひろう（疲労）［名・ス自］

Ⅰ［名］

① 体がつかれること。筋力や神経などを使いすぎたために，本来の機能が低下すること。つかれ。

「残業続きで疲労が蓄積している」「彼には疲労の色が見える」「疲労がとれる／回復する」「疲労がたまる／重なる」

② 金属製品をくり返し使った結果，金属の材料がもろくなって，こわれやすくなること。

「故障の原因は金属疲労による破損だ」

Ⅱ［ス自］

体がつかれ，本来の機能が低下する。

「心身ともに疲労する」「彼は過労で極度に疲労している」

［慣用句］

ひろうこんぱい（疲労困憊）

つかれはてること。

「今日は山道を20キロも歩いて疲労困憊（こんぱい）した。」

ひろげる（広げる）［下一他］

① 動物が手足を大きく開く。

「両手を広げて友を迎える」「股（また）を広げて座る」「鳥が羽を広げる」

② 人が包んだり，巻いたり，折りたたんだりしたものを開く。

「風呂敷の包みを広げる」「巻物の絵を広げる」「傘を広げる」「地図を広げて見る」「新聞を広げ

て読む」「弁当を広げて食べる」
③　面積や幅を大きくする。
「領土を広げる」「運動場を広げる」「川幅を広げる」「家の敷地を広げる」
④　行動範囲を広くする。
「付き合いの範囲を広げる」「舞踊の芸域を広げる」「世界を旅して視野を広げる」
⑤　活動の規模を大きくする。
「事業の手を広げる」「経済活動の規模を広げた」
⑥　あたり一面に置き並べる。
「所持品を机の上に広げる」「路上に商品を広げて売る」「海草を広げて干す」
⑦　植物が枝や根をあたりに伸ばす。
「ケヤキの木が大空に枝を広げている」「雑草が根を広げている」

びんぼう（貧乏）［名・ス自・形動］
Ⅰ［名］
①　お金（かね）がなくて生活が苦しいこと。収入や財産が少なくて，まずしいこと。
「貧乏はこりごりだ」「貧乏を味わう」「彼は貧乏にあえいでいる」
②　そのことが原因で，かえって成功しなかったり，収入が減少したりすること。
「彼は器用貧乏（なんでもできるが一事に集中しないので大成しない）と呼ばれている」「今年は豊作貧乏（農作物が多くできすぎて，市場の値段が下がる状態）だ」
Ⅱ［ス自］
収入がなくて苦労する。
「職がなくて貧乏する」「彼女は生まれたときから貧乏したことがない」「あのころは仕事がなくて貧乏していたよ」
Ⅲ［形動］
生活に必要な物資や金銭がなくて，生活が苦しいようす。
「貧乏な暮らしは二度としたくない」「仕事がなくて貧乏になった」「彼は貧乏な生まれだった」
［慣用句］
びんぼうひまなし（貧乏暇無し）
毎日の生活に追われてゆっくりできないこと。時間のゆとりがない。
「彼は貧乏暇なしで働いている」

ふあん（不安）［名・形動］
Ⅰ［名］
①　気がかりで落ち着かない気持。
「老後の生活に不安を抱く」「地震に対する不安に襲われる」
②　社会的動揺。不安定。
「政界の不安が株の大暴落を起こした」
Ⅱ［形動］
安心できないようす。心配。
「台風で不安な一夜を過ごした」「暗い夜道は不安だ」「彼はいま，会社で不安な立場にいる」

ふうふ（夫婦）［名］
結婚している一組の男女。夫と妻。
「二人は晴れて夫婦になった」「あの夫婦は別姓である」「実に似合いの夫婦だ」「夫婦で仲良く出かける」
［慣用句］
夫婦げんかは犬も食わない
夫婦のけんかは一時的ですぐ和解するから，他人が仲裁するものではない。または，仲裁するのは，ばからしい，というたとえ。

ふくざつ（複雑）［形動］
①　ものごとが，いろいろにからみあって，簡単，単純でないさま。
「あの会社は組織が複雑でわかりにくい」「この事件には複雑な人間関係がからんでいる」「最近の携帯は機能が複雑で使いにくい」
②　さまざまな思いにかられて，気持ちがすっきりしないようす。
「彼は複雑な表情を浮かべた」「いまの気持はとても複雑だ」

ふくそう（服装）［名］
衣服や装飾品を身につけたようす。身なり。
「彼女は派手な服装が好きだ」「服装の乱れを気にする」「服装を整える」
［慣用句］
服装を改める
正式な衣服に着替える。
「服装を改めて卒業式に出席する」

ふせぐ（防ぐ）［五他］
①　敵をくいとめ，味方をまもる。
「敵の攻撃を防ぐ」「外敵の侵攻を防ぐ」
②　好ましくないものを中に入れないようにする。さえぎる。
「二重窓にして寒さを防ぐ」「カーテンで西日の光を防ぐ」「水害を防ぐために堤防を改修した」
③　好ましくない事態が生じないようにする。止める。予防する。防止する。
「食品の腐敗を防ぐ」「病院の二次感染は防がなくてはならない」「害虫の発生を防ぐ」「少年の非行を未然に防ぐ」「パソコンは入力ミスを防ぐことが基本だ」「外交交渉には誤解を防ぐことが大切だ」

ふそく（不足）［名・ス自・形動］
Ⅰ［名］
①　数量や程度がある基準に対して足りないこと。十分でないこと。不十分。
「人手の不足が深刻です」「商品の不足を補う」「不足の料金は1000円です」「準備の不足は不合格の理由にならない」
②　自分が他人に対して満足でないこと。不満。不平。

「相手にとって不足はない」「もう，あの世へ行っても年に不足はない（十分に生きた）」
Ⅱ［ス自］
足りない。十分でない。不十分だ。
「人手が不足する」「食糧が不足している」「彼はそれをする力が不足している」「100円不足した」
Ⅲ［形動］
① 足りない。十分でない。
「学力が不足だ」「不足なのは何か」「料金が100円不足です」「商品の不足な数を補った」「不足なら早く買ってこい」
② 不満だ。不平だ。
「思いどおりにならず，不足な顔をする」「何が不足で，そんなことを言うのか」「まだ不足なのか」

ふた（蓋）［名］
① 箱や鍋などの入れ物をふさぐもの。
「鍋（なべ）のふたをとる」「みそのつぼにふたをする」「箱にふたをした」
② びんの口をふさぐもの。
「ビールびんのふたをあける」
③ さざえ・たにしなどの巻き貝の口をおおうもの。
「サザエのふたを取る」
④ 穴のあいたものの口をおおい，ふさぐもの。
「マンホールのふたをあける」
［慣用句］
ふたをあける（蓋を開ける）
① 物事を始める。
「春場所が初日のふたを開ける」
② 物事の結果をみる。
「選挙はふたを開けてみないいと結果はわからない」
みもふたもない（身も蓋もない）
ことばが露骨すぎて，潤いも含蓄もない。
「そう言っては身も蓋もない」
［慣用句］
くさいものにふたをする（臭い物に蓋をする）
悪事や悪いうわさが広がらないように，一時しのぎに隠すことのたとえ。
「くさいものにふたをするような政治はやめよう」

ふだん（不断）［名］
① 絶え間なく続くこと。
「不断の努力を怠らない」「昼も夜も不断の看病に疲れる」
② 決断力に乏しいこと。
「彼は優柔不断であって困る」

ふだん（普段）［名・副］
Ⅰ［名］
日常のこと。平生。平素。
「普段から健康に注意している」「普段のままの服装で出席した」「ふだんの通り散歩に出た」「普段は，午前５時に起きる」「普段なら，上手にできるのに残念だ」
Ⅱ［副］
日常。平生。いつも。
「ふだん，テレビは見ない」「彼は，ふだん，笑顔を見せない」「それはふだん，よくある間違いだ」

ふつう（普通）［名・副］
Ⅰ［名］
①　特別ではなく，ありふれたものであること。一般。並み。通常。
「彼の学業成績は普通以下です」「普通の成績だ」「普通の状態」「彼女は普通の女優ではない」「普通とは違った印象だ」「世間で普通にやっていることだ」「普通ならあきらめるところだ」「普通は，これで済むだろう」
②　普通列車（各駅に停車する列車）の略語。
「次の列車は普通です」
Ⅱ［副］
通常。たいてい。一般に。
「ふつう，そういう言い方はしません」「葬式には，ふつう，黒を用いる」

ぶぶん（部分）［名］
全体を小分けにした一つ一つ。一部分。ところ。
「土地を四つの部分に分ける」「彼の意見には賛成できない部分がある」「必要な部分を書き写す」「塔の上の部分はかすんで見えない」

ふべん（不便）［名・形動・ス自］
Ⅰ［名］
何かをするのに便利でないこと。都合の悪いこと。不都合。
「ここは交通の不便を感じる」「改装中のためご不便をおかけします」「不便を忍んで練習にはげむ」
Ⅱ［形動］
快適でないさま。便利でないと感じるようす。不都合だ。
「この家は古くて不便な造りだ」「ここは買物に不便な所です」「このトランクは大きすぎて持ち運びに不便だ」「交通が不便なら，下宿を変えよう」
Ⅲ［ス自］
何かと支障が生じる。
「停電で電気釜が使えず不便した」「自転車がパンクして買物に不便する」

ふむ（踏む）［五他］
①　足で立って，何かを押さえる。

「大地を踏んで立つ」「石畳を踏んで歩く」
② 足で，下の平面（地面や床など）の上にある物を押さえて，つぶしたり，こわしたり，苦痛を与えたりする。
「足で箱を踏んでつぶす」「足を踏まれる」「バナナの皮を踏んですべった」
③ 足で押さえて，何かを動かす。
「自転車のペダルを踏む」「自動車のアクセルを踏むと車は進む」「ミシンを踏んで雑巾を縫う」
④ その場所を訪れる。現場に行く。
「故郷の土を踏む」「甲子園の土を踏む」「イギリスの地を踏む」「現場を踏んでみないと，本当のことはわからない」
⑤ 自分で経験する。
「晴れ舞台を踏む」「場数（ばかず）を踏むことが大切だ」
⑥ 評価する。値段をつける。
「これをいくらにふむか」「これはどう安くふんでも10万円はする」
⑦ 見当をつける。
「実現は難しいと踏む」「常習犯の仕業と踏む」
⑧ 一定の順序に従って行う。手続きをとる。
「正規の課程を踏んで卒業する」「所定の手続きを踏んでください」「正しい手順を踏んで申込む」
⑨ 人の道を守り行う。
「人の道を踏む」「天下の正道を踏む」
⑩ 韻をそろえる。
「(漢詩で) 脚韻を踏む」「韻を踏んで調子を整える」
[慣用句]
お百度を踏む
ものを頼むとき，同じ人や同じ場所を，繰り返し訪ねること。
「お役所にお百度を踏む」「安産祈願のためお稲荷様にお百度を踏む」
地団駄（じだんだ）を踏む
くやしがって，両足を交互に大きく踏みならす。
「地団駄を踏んで悔しがる」
二の足を踏む
ためらう。思いきって物事を進められないさま。
「事業の拡大に二の足を踏む」
無駄足を踏む
おこなっても目的を果たすことができないこと。
「無駄足を踏むかもしれないが，行ってみよう」

ぶんがく（文学）[名]
① 言語で表現する芸術作品。
読者の読解力と想像力と感性によってテーマが感得されることをねらいとする言語芸術。文芸。ふつう，詩歌，戯曲，小説をさし，広くは随筆，評論を含む。
「現代の文学は芥川賞作品に代表されるこの用例も問題」「明治文学は夏目漱石と森鴎外に代表さ

れよう」
② ①を研究対象とする学問。文芸学。日本文学・英文学・ドイツ文学・フランス文学・中国文学などなど。
「日本文学を専攻する」
③ 自然科学，社会科学以外の学問。人文科学。大学の文学部で学べる学問の総称。
「文学部に入学して日本語学を専攻した」

ぶんぽう（文法）［名］
言語学の対象の一つ。その言語が構成されている文や語の形態や機能を支配する法則を考える学問。たとえば，世界の言語は主語・述語・目的語などが，どんな順序でつながって文を作るか，その種類はいくつあるかなど。
「英文法」「国文法」「学校文法」「古典文法」「日本語の文法を研究しよう」

へい（塀）［名］
家や庭の境界に，目隠しや用心のために立てた，背の高い仕切り。土塀，板塀，ブロック塀などがある。
「家のまわりに塀をめぐらす」「塀を建てる」「塀を乗り越える」

へいき（平気）［名・形動］
Ⅰ［名］
どんなことに出会っても，落着いているさま。ふだんと変わらないこと。
「痛さをこらえて平気をよそおっている」
Ⅱ［形動］
① 恐れたり，驚いたりせず，心が平静であるようす。
「人前で話すのも平気になった」「彼は平気で嘘をつく」「道ばたに平気でツバを吐く」「案内者は，山道を平気な顔で登っていく」「平気なふりをする」
② 困ったり，苦しいことに出会っても，大丈夫だ。
「暑いのは平気だ」「何が起きても平気だ」「送って行こうか。平気，平気，ひとりで帰れるよ」
［慣用句］
平気の平左（へいきのへいざ）
平気の平左衛門（へいざえもん）の略。平気であることを人名のようにいう。
「こんな暑さは平気の平左さ」「親方の気持はわかっているが平気の平左で酒を飲んだ」

へいきん（平均）［名・ス自他］
Ⅰ［名］
① 釣合いがとれていること。バランス。
「平均台で体の平均を失う」「片足で平均をとる」「彼女は平均のとれた体をしている」
② いくつかの数や量のうちの中間の数値。
「子どもたちの身長の平均を計算してみる」「彼の成績は平均に達している」「今年の雨量は例年の平均２倍である」

Ⅱ［ス自］
ふぞろいがない。ほどよくつりあっている。
「品質が平均している」「年間の売り上げが平均している」「一日の乗降客数が平均すれば経営は安心だ」
Ⅲ［ス他］
ふぞろいをなくす。ならす。
「品質を平均させる」「平均して１日３時間練習する」「毎日の労働量を平均する」

へいわ（平和）［名］
Ⅰ［名］
①　戦争や災害がなくて，世の中がおだやかな状態であること。
「世界の平和を守る」「平和を取り戻す」「平和が維持される」「平和維持活動に力を入れる」
②　心配やもめごとのない状態であること。
「心の平和がなにより大切だ」「家庭の平和を守ろう」
Ⅱ［形動］
おだやかで，やすらいだようす。
「平和な暮らしを求めて働く」「問題は平和に解決した」

べつ（別）［名・形動］
Ⅰ［名］
①　二つ以上の物事のあいだに認められる違い。区別。けじめ。
「昼夜の別なく働いた」「公私の別を守れ」「男女の別なく採用する」
②　そのものと同じでないこと。他のもの。ほか。
「別のホテルへ移る」「別の家を探す」「だれか別の人に尋ねよう」「本給とは別の手当がつく」「別のペンを見せてください」
③　（「別として」の形で）除外して。例外として。問題外として。
「冗談は別として眞面目に話し合おう」「例外は別として正道を進もう」「腐ったリンゴは別として平等に分ける」
Ⅱ［形動］
同じ状態ではないようす。
「私は兄とは別な道を進む」「これとそれとは話が別だ」「食費は宿泊代とは別にする」「見ると聞くとは別だ」「先生の会費は別にする」「これを一つ一つ別に包んでください」
［語法］
「年令別・男女別・職業別」などのように，分類する（区別する）意味で接尾語的にも用いる。

ベッド（bed）［名］
寝台。洋式の寝床。
「ベッドから出る」「ベッドに入る」「ベッドを整える」「シングルベッド」「ダブルベッド」「二段ベッド」

へんか（変化）［名・ス自］

Ⅰ［名］

ある状態から別の状態に，また，ある位置から別の位置に変わること。

「変化が生じる」「転職は家族に大きな変化をもたらした」「変化に富む景色にみとれる」

Ⅱ［ス自］

状態や位置が変化する。

「第一球は，バッターの近くで変化した」「光線の具合で彼女の洋服は色が変化する」「女心は微妙に変化する」

へんしゅう（編集）［名・ス他］

Ⅰ［名］

著書・編者として，特定の目的で集めた原稿や材料を，取捨選択して一つの単行本・雑誌・新聞などの出版物や，映像・音楽などの作品にまとめること。

「私が責任編集の役割をになった」「雑誌の編集は容易な仕事ではない」「ビデオの編集にかかわる」

Ⅱ［ス他］

特定の目的で集めた原稿やデータを取捨選択し，整理してまとめる。

「コンピュータに入力したデータの一部を削除したり並びかえて編集した」「この講座は５人の編者が共同で編集したものだ」「辞書を編集するのは楽しいが大変だ」

ぼう（棒）［名］

①　手で握ったり，肩にかついだりできる細長いまっすぐな木。竹や金属のものもいう。

「棒を振り回して，けんかした」「棒を使って栗の実を落とす」「相手を棒でたたく」

②　音楽の指揮棒。

「舞台で棒を振る」

③　棒のように一直線であること。

「棒を引いて削除する」「棒グラフ」「たて棒」「よこ棒」

④　棒のように硬くなるたとえ。

「歩き疲れて足が棒になる」

［慣用句］

棒に振る

それまでの努力や，これから得られるはずの価値あるものを，ちょっとした失敗などでだめにする。

「せっかくの休日を棒に振る」「遅刻してせっかくのチャンスを棒に振った」

ほうこう（方向）［名］

①　ものが向いたり，進んだりする方。進む向き。向いている方。

「風の方向が定まらない」「船が急に方向を変えた」「彼は駅の方向を指さした」「壁面に天井から斜め下の方向に亀裂が入った」

②　人や団体が進むべき道。基本方針。目標。

「人生の方向を誤った」「事態解決の方向へ第一歩を踏み出す」「まだ将来の方向が定まらないのか，

困ったもんだ」

ほうりつ（法律）［名］
社会秩序を守るために，国家によって定められた規則。国民は従わなければならない，その国のきまり。法。立憲国家では，憲法に次いで優先した効力をもつ。
「法律を守る」「法律に触れる」「法律を犯す」「その行為は法律で禁じられている」

ボールペン（ball-point pen）［名］
先端に小さい回転球（ボール）をはめこみ，軸に入れたインキをにじみ出させて書く筆記用具。
「ボールペンを一本ください」

ほこり（ほこり）［名］
軽くて，粉のようなごみ。飛び散ったり，物にたまったりする。
「ほこりがたまる」「ほこりが舞う」「大掃除でほこりまみれになる」
［慣用句］
叩けば埃（ほこり）が出る
一見無難に見えても，細かく見ていくとどんな人でも他人に知られたくない弱点があるものだ。
「彼もたたけばほこりが出る体だ」

ほぞん（保存）［名・ス他］
Ⅰ［名］
のちの必要を考えていまの状態を保つようにして，とっておくこと。
「缶詰は長く保存がきく」「伝統芸能の保存に力をつくす」「フロッピー一枚で大量データの保存が可能だ」「冷凍保存」「保存食」
Ⅱ［ス他］
そのままの状態を保つようにして，とっておく。
「冷蔵庫に保存すれば1週間はもつ」「きゅうりを塩水に漬けて保存する」「この遺跡はよく保存されている」「文化財を保存する」

ほど（程）［名・副助］
Ⅰ［名］
① 行動の許される限度。限界。適当と考えられる度合い。
「程を守る」「何事も程を過ごさないように注意する」「ふざけるにも程がある」「身の程を知れ」
② 物事のおよその程度。様子。
「年の程は五〇か六〇か」「真偽の程はわからない」「覚悟の程を見せろ」
③ ある長さの時間や距離。
「待つ程もなく彼女は出社してきた」「程を経て連絡が入った」
④ およその時間。ころあい。時分。
「程を見て帰る」「手のあいた程をみて連絡します」
⑤（「…のほど」の形で）断定を避け，表現をやわらげるのに用いる。

「御自愛のほどを祈ります」「どうかお許しのほど願い上げます」「引きつづき御愛顧のほどお願い申し上げます」
Ⅱ［副助］
①　ある事柄を例示することによって，動作や状態などの程度を表す。
「山ほどある仕事を片付けた」「驚くほど大きい「彼ほどの人なら必ず成功する」「ガラスの割れるほど強い風が吹いた」「生命ほど不思議なものはない」「取引きは，互いの信用ほど大切なものはない」「彼の実力は口で言うほどの力はない」
②　数量を表す語に付いて，およその程度を示す。
「一キロほどの道のりを歩く」「一時間ほど待たされた」「一週間ほど旅行してきた」
③　（「いかほど」「どれほど」の形で）およその値段や面積を聞くときに用いる。
「これはいかほどでしょうか」（値段を聞く）「ここはどれほどの広さがありますか」（面積をきく）
④　ある状態が進行するにつれて，ある結果があらわれることを表す。
「考えれば考えるほど分からなくなる」「早ければ早いほどよい」「酔うほどに気分が高揚する」「飲むほどに（につれて）彼はよくしゃべる」

ほとけ（仏）［名］
①　仏教の信仰の対象となる存在。釈迦（しゃか）など。
「仏の慈悲にすがる」「仏にすがる」
②　仏像。
「仏を刻む」
③　死者。故人。
「この仏は酒が好きだったなあ」「仏になる」「遺産のとりあいでは仏が浮かばれない」
④　お人よし。気のよい人。
「仏の○○さん」「あの所長は仏様だ」
［慣用句］
仏の顔も三度
どんなにやさしく情深い人でも，たびたび無法なことをされれば四度目には怒ること。
「仏の顔も三度とやらで，彼もとうとう怒った」
仏作って魂入れず
九分どおり仕上げながら，一番大切なことをしない。
「そこでやめては仏作って魂入れず，といったところだ」
地獄で仏
非常に困っているときに，助けてもらうことのたとえ。
「嬉しいことのたとえに地獄で仏ということがある」

ほとんど（ほとんど）［名・副］
Ⅰ［名］
大多数。大部分。
「出席者のほとんどが賛成だ」「商品はほとんどを売り切った」「ほとんどの人が知らない」
Ⅱ［副］

① そう言ってさしつかえない状態であるさま。おおかた。
「ほとんど一言も口をきかない」「決定を覆すことはほとんど不可能だ」「彼女の入れこみようはほとんど病気だ」「ほとんど雨はあがった」
② すんでのところで。
「ほとんど殺されるところだった」「小屋はほとんど倒れそうだった」

ほめる（褒める）［下一他］
すぐれている点を認めて，良くいう。
「子どもの絵をほめる」「彼の献身はどんなに褒めても褒め切れない」「それは褒められた話ではない」「部長のゴルフの腕をほめる」「ネクタイの柄をほめられる」

ほる（掘る）［五他］
① 地面に穴をあける。
「トンネルを掘る」「土面を掘って池をつくる」「井戸を掘る」「海辺で砂を掘って遊ぶ」
② 土中に埋まっているものを取り出す。
「芋を掘る」「石炭を掘る」

まいる（参る）［五自］
① 神仏をまつってある所へ，拝みに行く。今日では，「お参りする」がふつうの言い方。
「お寺に参る」「先祖のお墓に参る」「神社へ参る」
② 尊い人・目上の人がいる所と感じる場所へ移動する。「行く」「来る」にあたる。
「宮中に参る」（行く）「お車が参りました」（来る）「すぐ参りますのでお待ちください」（来る）「さあ，早く参りましょう」（行く）
③ 相手の力や勢いに負ける。降参する。閉口する。
「一本取られて参った」「彼の演説には参った参った」「この暑さには参る」（閉口する）「精神的に参った」「彼は彼女の魅力に参っている」（すっかり，ほれている）
④ 女性が，手紙の脇付（わきづけ＝あて名）に添えて用いる語。「あなたさまに差し上げます」の意を表す。
「太郎様参る」「母上様参る」
［語法］
「行く」「来る」の意味の「参る」は，その動作をする人を低めて，相手に丁重にいうときに使う。今日では「参ります」と「ます」を添えて使うことが多い。自分の動作については「これから参ります」でよいが，相手の動作には「あなたもいらっしゃいますか」「あなたもおいでになりますか」というのが適切である。

まげる（曲げる）［下一他］
① 人が自分の体を曲がった状態にする。
「腰を曲げる」「口をまげて，あざ笑う」「へそを曲げる（心の状態を悪い方に変える）」「体をくの字に曲げる」「首を曲げて歩く」
② 力を加えて，まっすぐなものを曲がった状態にする。折り曲げる。

「針金を曲げる」「鉄の棒を曲げる」
③　正常な位置からずらす。傾ける。
「帽子を斜めに曲げてかぶる」
④　道理や本心などを変える。ゆがめる。
「自説を曲げて発表するなんて，とんでもないことだ」「事実を曲げて報道する」「筆を曲げて書く（うそを書く）」「自分の信念を曲げてはならない」「曲げてお引受け下さい（あなたの本心には合わないでしょうが，そこを無理でも）」
⑤　質入れする。質に入れる。質（しち）と七（しち）とが同音で，「七」の字は，その第二画の下部が曲がっていることからいう。俗な言い方。
「晴着を曲げて，用立てた」「金時計を曲げる」

まじめ（〈真面目〉）［形動］
①　真剣であるようす。うそやいいかげんなところがないさま。本気。
「真面目な顔をする」「もっと真面目にやれ」「真面目に話す」「どこまで真面目なんだかわからない」
②　誠実であるようす。真心がこもっているさま。
「真面目な人です」「真面目に働いている」「これから真面目になります」

まじる（交じる）［自五］
種類のちがったものが中にはいる。まざる。
「別の糸が交じる」「髪の毛に白いものが交っている」「漢字仮名交り文に，ところどころローマ字が交じる」「男の中に女が一人交じっている」「現地人に交じって暮らす」

まじる（混じる）［自五］
ほかのものの中に入って，いっしょになる。くわわる。一体となる。
「ラジオに雑音が混じる」「不安と期待が混じった目だ」「あの子には，日本人と白人の血が混じっている」「何も混じっていない水がほしい」
［表記］
「交じる」は，とけあわないまじり方，「混じる」はとけあったまじり方に使う。

まず（まず）［副］
①　ほかのものより先に。最初に。
「まず論戦の口火を切ったのは彼だ」「まずこの問題から考えることにしよう」
②　ともかく。いちおう。十分ではないが。
「これでまず安心だ」「このくらいならまず上出来だ」「まず一休みしませんか」
③　おそらく。多分。だいたい。
「この分だとまずあすは雨だろう」「まずそんなところだ」「彼のことだ，まず間違いはない」

まずしい（貧しい）［形］
①　貧乏である。収入が少なくて生活が苦しい。

「家が貧しくて進学をあきらめる」「一家は貧しい食卓に向う」「貧しい暮らしをする」
② 質，量，内容が少ない。中身が乏しい。
「知識が貧しい」「想像力が貧しい人だ」「資源の貧しい国はどうすべきか考えよう」「心の貧しい人は哀れだ」

ますます（ますます）［副］
程度が前よりも甚だしくなるようす。いっそう。
「雨がますます激しくなる」「彼は老いてますます盛んだ」「子ども甘やかすとますます増長する」「見れば見るほどますますほしくなった」

まちがう（間違う）［五自他］
Ⅰ［五自］
① 正しくない状態になる。ちがう。
「間違った字を書く」「私の考えは間違っていた」「この手紙は住所が間違っている」「彼女の答えは間違っている」
② 失敗する。やりそこなう。
「間違ってコップを落とした」「一歩間違えば，谷底へ転落するぞ」
③ （「まちがっても」の形で）どんなことがあっても。決して。絶対に。
「まちがっても振り返ってはならない」「まちがっても，人を殺してはいけない」
Ⅱ［五他］
まちがえる。取り違える。
「ホテルで部屋を間違った」「漢字を間違う」「約束の日時を間違った」「駅への道を間違うとは何ごとだ」

まもる（守る）［五他］
① 大切なものが害を受けないようにする。敵から国家や人間の安全を保つ。
「国を守る」「敵から城を守る」「災害から身を守る」「一人で留守を守る」「組織から人権を守る」
② 決めたことや規則に背かないようにする。
「法律を守る」「友人との約束を守る」「親の言いつけを守る」「先生の注意を忠実に守る」
③ ある状態をかたく保つ。維持する。
「学校の伝統を守る」「故郷の自然を守ろう」「都会の環境を守る」

まわる（回る）［五自］
① 物が軸を中心にして輪を描くように動く。回転する。
「こまが回る」「目が回る（めまいがする）」「車輪が回る」「首が回らない（借金が多くてやりくりがつかない）」「時計の針が回る」
② 物の周囲に沿って移動する。
「湖の周囲を回る」「敵の背後へ回る」「月が地球を回る」「建物の後ろに回る」「遊覧船で島を回る」
③ 順を追って，同じことを繰り返して進む。ひとまわりしてもとにもどる。
「得意先を回る」「かくし芸のお鉢が回ってくる」「宴会で杯が回ってきた」「開店の挨拶に回る」「回

覧板が回ってくる」「構内を回って火の元を点検する」
④　途中で，予測される道筋をそれて，他の方向へ進む。寄り道をする。回り道をする。
「玄関から庭先へ回る」「帰りに会計課へ回る」「急がば回れ（急ぐときは近道を行かず，遠回りでも確実な本道を行け)」
⑤　それまでと別の立場や位置に変わる。身をおく。
「敵に回る」「守勢に回る」「反対に回る」「対応策が後手（ごて）に後手に回る」「係長が支店勤務に回った」
⑥　予測される範囲に広く行き渡る。
「酔いが体中に回る」「いっぺんに火の手が回る」「警察の手配が全国に回る」「そこまでは手が回らない」
⑦　期待される機能や能力が発揮される。
「あいつはよく知恵が―」「あの子はまだ口が回らない」「試験で頭が回るように，よく寝ておけ」
⑧　資金の運用で利子がつく。金利がつく。
「年利２パーセントで回る」
⑨　その時刻を過ぎる。時計の針が時を示す文字の上を過ぎることからいう。
「いま，８時を回ったところだ」

まんいん（満員）［名］
①　規定の定員数に達すること。
「座席は満員です」「満員で座席がない」「ホテルは満員でした」
②　乗り物や会場などに，人がそれ以上入れないほどいっぱい入っていること。
「列車は超満員である」「押すな押すなの満員電車」「講堂は満員の聴衆であふれていた」

まんぞく（満足）［名・ス自・形動］
Ⅰ［名］
自分の思うとおりになって，心がみちたりた状態であること。
「この論文は満足が行く」「満足のいく作品ができた」「彼は満足の表情を浮かべていた」「五体満足が何よりの幸せだ」
Ⅱ［ス自］
心が満ち足りて不平不満がない。
「今の境遇に満足している」「好奇心を満足させる」「現状に満足するな」
Ⅲ［形動］
十分であるようす。完全なさま。欠点や不足のないさま。
「彼は満足な答案も書けない」「彼女は満足な料理も作れない」「計算も満足に出来ないとは何事だ」

みずうみ（湖）［名］
まわりを陸にかこまれ，水をたたえた所。池や沼より大きく深い。
「湖で泳ぐ」「私の別荘は湖のほとりにある」「湖でボートをこぐ」

みつかる（見付かる）［五自］
①　隠れている自分が他人に発見される。
「先生に見付かってしまった」「見付かるとひどい目にあうぞ」「敵に見付からずにすんだ」
②　さがしていたものが発見される。見いだされる。
「迷子が見付かった」「落とした財布が見付かる」「うまい表現が見付からない」「すばらしい結論が見付かった」「胃にポリープが見付かる」

みらい（未来）［名］
①　現在より先。これからくる時。将来。
「過去・現在・未来」「未来を予測する」「明るい未来を作ろう」「彼女は女優として大きな未来がある」「人類の未来に夢を描く」「未来のある少年だ」「未来の交通機関はどうあるべきか考える」
②　仏教で，死後の世界。来世。
「未来を信じて功徳を積む」「未来を信じて修行にはげむ」

ミリ（milli　フランス語）［名］
①　メートル法の基本単位で，千分の一を表す。記号 m。「ミリメートル」「ミリアンペア」「ミリリットル」「ミリグラム」
②　ミリメートルの略。記号 mm。「粍」とも書く。
「1 ミリ方眼紙」

むぎ（麦）［名］
オオムギ，コムギなど畑に作る穀物。食用，飼料用，ビールの原料として用いる。5 月ごろ，みのる。いね科の植物。
「麦を刈る」「麦は世界的に重要な食糧である」「麦畑（むぎばたけ）でヒバリが上がる」

むく（剥く）［五他］
①　表面をおおっているものを取り去る。
「みかんの皮をむく」「チョコレートの銀紙をむく」「ゆで卵の殻をむく」
②　目や歯をむき出しにする。
「狼が牙（きば）をむく」「歯をむいて，にやりと笑う」「目をむいて怒った」

むしあつい（蒸し暑い）［形］
風がなく湿度が高くて暑い。蒸されるように暑い。
「蒸し暑くて寝られない」「この部屋は風通しが悪く，蒸し暑い」

むだ（無駄）［名・形動］
Ⅰ［名］
①　役に立たない使い方をすること。
「出費の無駄をはぶく」「時間の無駄が多い」「無駄のない文章を書く」
Ⅱ［形動］

何かをしても，それだけのかいがないさま。余計なさま。効果のないさま。
「無駄な金は使うな」「無駄に時間を使う」

むちゅう（夢中）［名］［形動］
Ⅰ［名］
夢の中。
「夢中で，亡き妻と合う」
Ⅱ［形動］
① 一つの物事に熱中するようす。
「ゲームに夢中になる」「彼はいまサッカーに夢中だ」「昼も夜も夢中で働いた」「子どもたちは話に夢中だった」
② 何かに興奮してなんだかわからなくなった状態である。
「子どもがけがしたというので夢中で病院へ飛んで行った」「夢中で火の中に飛び込む」「夢中でシャッターを切る」「無我夢中だ」

めいれい（命令）［名・ス他］
Ⅰ［名］
上位の人が下位の人に，あることをするように言いつけること。また，その内容。
「上司から命令が下る」「当局の命令により休業します」「社長の命令に背く」「命令に従う」「市場調査の命令を受けて私は出発した」「委員長はスト中止の命令を出す」
Ⅱ［ス他］
上位の人が下位の人に，あることをするように言いつける。
「課長は部下にすぐ実行せよと命令した」「小学生は校庭に整列するように命令された」「村長は村民に緊急避難を命令する」
［参考］
「命令」には国の行政機関が出すものがあり（1）政令・省令・規則などと，（2）特定の人や団体に対して課す処分，処分命令がある。さらに，（3）裁判官がその権限事項について行う略式の裁判，などもある。

めいわく（迷惑）［名・ス自・形動］
Ⅰ［名］
その人のしたことがもとになって，相手やまわりの人が，いやな思いをしたり，不利益を受けること。
「皆さまに迷惑をかけ申しわけありません」「彼にはいつも迷惑を受けている」
Ⅱ［ス自］
その人のしたことで，いやな思いをしたり，不利益になる。
「交通事故のため多くの人が迷惑した」「不注意による火事で，近所は大変迷惑する」
Ⅲ［形動］
その人のしたことで，相手やまわりの人が不快に感じたり困ったりするようす。
「この忙しいのに全く迷惑な話だ」「こっちはいい迷惑だ（たいへんめいわくしている）」「御迷惑

でなければ明日お伺いしたい」「近所迷惑ですね」「建設現場の音が近くの住民の迷惑になっている」

メートル（metre　フランス語）［名］
①　メートル法で，長さの基本単位。記号 m。尺貫法では約 3 尺 3 寸。「米」とも書く。
キロメートル　kilo　metre　1000 メートル　記号 km　粁
センチメートル　centimetre　百分の一メートル　記号 cm　糎
ミリメートル　milli　metre　千分の一メートル　記号 mm　粍
「1 センチメートルは 10 ミリメートルに等しい」
②　自動式の計器。メーター。
「ガスのメートル」「電気のメートル」
③　メートルではかった長さ。
「メートルが足りない」「あと 10 メートル」
④　風速を示す。一秒あたりの風速。
「風速 15 メートル」
［慣用句］
メートルを上げる
酒をいつもより大量に飲んで，平常より元気になる。気炎を上げる。
「居酒屋で，あいつメートルを上げてやがる」

もうす（申す）［五他］
①「言う」「語る」「告げる」などのけんそんした言い方。謙譲語。目上の人に対して語を発する場合に用いる。話し相手に敬意を表す。
「わたくし飛田と申します」「社長もそう申しております」「父がよろしくと申しておりました」「申すまでもなく，事態は緊迫しております」「先日申しましたように」「昔からよく申しますが」
②「言う」を改まって，丁重に表現する言い方。
「この地を桂浜と申します」「知り合いだと申す少年が来ております」
③（「お（ご）‥‥申す」の形で）「する」のけんそんした言い方。動作の対象に対して敬意を表す。
「お見送り申しましょう」「この件について，いずれご連絡申します」「御招待申します」「お願い申します」「御案内申します」
④（「申し‥‥」と複合語の形で）立場の上の人に，何かを願う意味を表す。
「希望者は早めに申し出ること」「兄の子を養子に申し受ける」

もくてき（目的）［名］
実現しようとしてめざすことがら。めあて。目標。
「人生の目的はなんですか」「研究の目的を達成した」「それは目的に反する行動だ」「目的のためには手段を選ばない」「目的の地はもうすぐだ」「何の目的もなく歩く」「金が目的で仲間に入る」

もしもし［感］
①　相手に呼びかけることば。
「もしもし，ハンカチが落ちましたよ」「もしもし，駅はどこですか」
②　電話をかけて，話しはじめるときや，聞こえているかどうか確かめるときに使うことば。
「もしもし，島村さんのお宅ですか」「ハイ，そうです」「もしもし，もしもし，聞こえますか」

もちいる（用いる）［上一他］
①　何かをするために，使う。使用する。
「調味料に，蜂蜜を用いる」「下剤を用いる」「原稿の執筆には万年筆を用いる」「工業用に新しい方法を用いた」
②　意見や提案を採用する。取り上げる。
「部下の意見を用いる」「彼の提案は会議で用いられずに終った」
③　能力を認めて，人をある地位に任用する。
「人材を選んで教授に用いる」「今度の仕事には新人を用いてみよう」
④　気を使う。配慮する。
「人員の配置に意を用いる」「料理に心を用いて，客をもてなす」

もちろん（勿論）［副］
言うまでもなく。むろん。結果を考える必要がないほど明らかなようす。
「委員会にはもちろん出席します」「彼は勉強はもちろん，運動もよくする」「タバコが体によくないことは，もちろんだ」

もとめる（求める）［下一他］
①　ある物を手に入れたいと望む。ほしがる。さがす。
「安住の地を求める」「職を求めてハローワークに通っている」「真実を求めて日夜努力する」
②　相手に要求する。してほしいと頼む。
「会社側に賃金の値上げを求める」「執行部に退陣を求める」「援助を求めて文部科学省と交渉する」
③　手に入れる。購入する。
「古書店で珍しい本を求めることができた」「これは近くの店で求めた私の自転車だ」

もどる（戻る）［五自］
①　引き返す。進んできたのと逆の方向に移動する。
「忘れものをして家に戻る」「行き過ぎて戻った」
②　元の場所に帰る。
「出張先から戻る」「会社に戻ってから家に帰った」「教室の席に戻る」
③　元の持主に返る。
「貸した金が戻る」「税金が戻る」「落とし物が戻る」
④　元の状態になる。
「やっと，いつもの自分に戻った」「別れた夫婦のよりが戻った」「この交渉は振り出しに戻ってしまった」「ゴムがのびて元に戻らない」「明けたはずの梅雨が戻った」

もよう（模様）［名］
① 衣服や工芸品に，飾りとしてつける絵や図形。図案。
「ハンカチに花の模様が画かれている」「この木目の模様は実にすばらしい」「この絵の模様は幾何学的だ」「水玉模様のカーペット」
② 物事のありさま。様子。
「会議の模様はどうなっているかね」「事故の模様を放送する」「現場から火災の模様をお伝えします」「試合の模様はどうなっていますか」
③ 現時点で，推測される状況。
「列車は十分ほど遅れる模様です」「どうも彼は来ない模様だ」「火星には生物はいない模様である」

やおや（八百屋）［名］
野菜類を売る店。また，その人。
「彼は表通りに八百屋を開店した」「八百屋には，キャベツ，ニンジン，キュウリ，ジャガイモなどを売っている」「八百屋さん，これいくらですか」

やかましい［形］
① 声や音が，うるさい。
「工事の音がやかましい」「彼女らのおしゃべりは，やかましいことだ」「深夜までやかましい繁華街だ」
② いつも文句をつけて，きびしい。
「子どもにやかましいおやじだ」「この町は警察がやかましいそうだ」「師匠は礼儀作法にやかましい」
③ 注目をあびて，みんなに騒がれている。話題とされる。
「これが，やかましく噂されているニュー・スタイルです」「口やかましい世間には閉口するよ」
④ 自分の好みのものに，うるさい。好みを通す。
「彼は食べ物にはやかましい」「彼女は着る物にやかましいぞ」

やける（焼ける）［下一自］
① 火がついて燃える。
「火事で家が焼けた」「失火で工場が焼ける」「空襲で町の半分が焼けた」「山が焼ける（山火事・噴火にいう）」
② 火にあぶられて，熱が中まで通る。食べられるようになる。
「魚が焼けた」「餅が焼けた」「パンがちょうどよく焼けた」「肉が焼けるまで待ちなさい」
③ 熱が加えられて，品物や商品ができあがる。
「炭が焼けた」「これはよく焼けた茶碗だ」
④ 熱せられて高温になる。
「真赤に焼けた鉄を鍛える」「アスファルトの道は焼けるような暑さだ」「海岸の焼けた砂が足に熱い」
⑤ 日光などで皮膚の色が赤くなったり黒くなる。
「肌が日に焼けて健康そうだ」「鼻の先が日に焼けて赤いぞ」「彼女は小麦色に焼けた肌をしている」

⑥　日光や薬品で，物の色が変わる。変色する。
「白いカーテンが焼けて色が変わった」「直射日光で畳が焼けた」
⑦　日の光が映って空や雲が赤くなる。
「真赤に焼けた西の空が美しい」
⑧　（「…が焼けるようだ」の形で）身体の部分が，熱い，痛いなどの強い刺激を感じる。
「高熱で体が焼けるように熱い」「のどが焼けるように痛い。カゼかな」「唐辛子が辛（から）くて舌が焼けるようだ」
⑨　（「胸がやける」の形で）食物が胃にたまって，胸のあたりが詰まるように感じる。
「食べすぎて胸が焼ける」
⑩　（「世話がやける」「手がやける」などの形で）あれこれ気を使い，手間がかかる。手がかかる。やっかいだ。
「いたずら小僧には手が焼けるよ」「どら息子には世話が焼ける」「いくつになっても手が焼けることだ」
⑪　ねたましさを感じる。
「彼だけもてるのでやける」「あの二人は，あまり仲が良いのでやけてくる」
［表記］
⑪は「妬ける」とも書く。

やしなう（養う）［五他］
①　自分の収入で，家族が生活できるようにする。
「妻子を養う」「女手一つで，一家を養う」「私は養父母に養われて成長した」
②　動物を飼う。
「ニワトリ100羽を養う」「豚を養う」「捨て犬を拾って養う」
③　病気の手当てをする。
「病身を養う」「転地して病を養う」
④　経験を積んで，すぐれた能力を身につける。
「人を見る目を養う」「公正な判断力を養うことが大切だ」
⑤　気力を回復する。
「英気を養う」

やっと［副］
①　苦労して。とうとう。ようやく。精一杯努力して，そのことを，なんとか達成するようす。
「やっとのことで彼女を説き伏せた」「やっとのことで原稿が完成した」「苦い薬をやっと飲み込んだ」「やっと私にも幸せがめぐってきた」
②　かろうじて。どうにかこうにか。待ち望んだことが予想以上の時間がかかった後で実現するようす。
「背伸びしてやっと棚に手がとどいた」「やっと発車時刻に間に合った」「少ない給料でやっと暮らしている」

やぶれる（敗れる）［下一自］
戦い・勝負・試合に負ける。相手に負ける。
「決勝戦で敗れる」「販売競争に敗れる」「強敵に敗れる」

ゆうき（勇気）［名］
危険や苦難に立ち向かう気力。自分が正しいと思った通りに行動する心。
「勇気を失ってはならない」「先輩にほめられ勇気百倍だ」「勇気をもって困難に立ち向かう」

ゆうじょう（友情）［名］
友人としてのまごころ。相手をわが身同様に思いやる心。
「彼は友情に厚い人だ」「友情がめばえた」

ゆうしょく（夕食）［名］
夕方の食事。晩ごはん。
「恩師と夕食をともにする」「夕食をとりながらテレビを見る」

ゆうびん（郵便）［名］
手紙・葉書・小包などを取り集めたり，配達したりする事業。
「郵便屋さんが郵便（ユービーン）と小包を配達してきた」「郵便番号を書き忘れないように」

ゆうめい（有名）［形動］
名前が多くの人に知られているようす。高名。著名。
「彼はこの小説で，一躍，有名になった」「あの温泉は皮膚病にきくことで有名だ」「このあたりでは有名な病院です」

ゆびわ（指輪）［名］
飾りとして指にはめる輪。リング。
「中指に指輪をはめる」「婚約者に指輪を贈る」

ゆめ（夢）［名］
① 眠っている間に，いろいろなものごとを経験しているように感じる現象。
「恩師の姿を夢に見る」「夢から覚める」「夢一つ見ずに，よく眠った」「夢を見て，うなされる」
② 将来，実現したいと思っている希望。理想。
「彼の夢は大きい」「A 社は夢のある会社だ」「夢多き 19 歳」「宇宙旅行が子どものときからの夢だ」
③ 厳しい現実から離れて，甘くて楽しい状態。
「新婚の夢が破れる」「太平の夢をむさぼる」
④ はかないこと。たよりにならないこと。
「人生は夢だ」でしかない「この世は夢まぼろしの世界だ」
［慣用句］
夢を結ぶ

眠りにつく。
「安らかに夢を結ぶ」

よける（よける）［下一他］
①　さける。のぞましくないものに近づかない。
「水たまりをよけて通る」「オートバイをよける」「戦闘地域をよける」「じゃまだからそこをよけてくれないか」
②　努力してのがれる。防ぐ。
「雷をよける」「霜をよける」「囲いをして風をよける」
③　取り除いて別にする。のける。
「不良品をよける」

よさん（予算）［名］
①　ある目的のために使用する，前もって決めた金額。
「遠足の予算を立てる」「買物は予算をオーバーした」「予算がない」
②　国や地方公共団体における一会計年度の収支の見積もり。
「町の予算編成を行う」「政府と予算折衝をする」

よなか（夜中）［名］
夜の中ごろ。たいていの人が寝静まった時分。夜半。
「昨夜は夜中まで頭がさえて寝られなかった」「夜中に子どもが熱を出す」「夜中から雨が降り出した」

よぼう（予防）［名・ス他］
Ⅰ［名］
病気や災害などを前もつて防ぐこと。
「伝染病の予防には予防接種が一番です」「この川の洪水は予防ができる」
Ⅱ［ス他］
病気や災害などを前もって防ぐ。
「風邪をひかないように予防する」「火災を予防する」

よる（寄る）［五自］
①　動いて一方に近づく。近寄る。接近する。
「彼は彼女のそばへ寄る」「たき火のそばに寄る」「部屋のすみに寄る」「波が岸辺に寄る」「脇へ寄れ」
②　一方の側にかたよる。
「都心から東の方に寄った地域の土地を買った」
③　何かによりかかる。もたれかかる。
「柱に寄る」「壁に寄る」「手すりに寄って考えにふける」
④　どこかへ行く途中で，立寄る。訪問する。訪ねる。

「近くへお越しの節は，お寄りください」「後で，お宅へ寄るよ」「これから京都へ寄って博多へ行く」「出社前に得意先に寄る」「帰りに飲みに寄る」
⑤　一か所に集まる。むらがる。
「寒いのでみなストーブのまわりに寄ってきた」「三人寄れば文殊（もんじゅ）の智恵（三人集まって智恵を出し合えば，いい考えが出るものだ。文殊は知恵をつかさどる菩薩。）」
⑥　何かの数（かず）が多くなる。増える。
「年が寄る（老人になる）」「笑うと目じりにしわが寄る」「寄る年波には勝てない」
⑦　すもうで，相手の両まわしを取って進み出る。押し進む。
「正面土俵へ寄る」「激しく寄り立てる」
［慣用句］
寄ってたかって
おおぜいで寄り集まって。みんなで。
「職員は寄ったかって係長の悪口をいう」
寄るとさわると
いっしょになるたびに。折りさえあればいつも。
「寄るとさわると，そのうわさでもちきりだ」
寄らば大樹（たいじゅ）の陰（かげ）
（雨宿りをするなら大木の下の方がぬれずにすむことから）助けを求めるなら，勢力のある人の方がよい。

らしい（らしい）［助動・接尾］
Ⅰ［助動］
…ようだ。根拠や理由のある推量の気持を表す。
「台風が接近しているらしい」「彼はよく勉強するらしい」「今朝の母は気分が悪いらしい」「入学試験は思ったより簡単だったらしい」「外は暑いらしい」「雨が降りはじめたらしい」
Ⅱ［接尾］
…と呼ぶにふさわしい。そのものの本質を備えている様子を表す。
「彼は男らしい男だ」「今日は春らしい陽気だ」「この町には劇場らしい劇場はない」「彼女は淑女らしい態度で振る舞っている」
［語法］
「それは本当らしい」「会うのがいやらしい」のような場合，助動詞か接尾語かの区別はむつかしい。「本当であるらしい」「いやであるらしい」のように「である」を挿入できるときは学校文法では助動詞として扱っている。

りかい（理解）［名・ス他］
Ⅰ［名］
①　正しい知識を持つこと。筋道やわけを正しく知ること。
「彼は音楽に理解がある」「キリスト教への理解を深める」「物事の理解が早い」「なぜそのような態度をとるのか理解に苦しむ」
②　その言語を習得すること。読み・書き・話し・聞くの場合に使う。

「英語の理解が早い」「彼は日本古典の理解がおそい」
③　他人の気持や立場を正しく，くみとること。
「生徒に理解のある先生だ」「社長は社員に理解ある態度を示している」「労使相互の理解をはかることが交渉妥結への近道だ」
④　相手に負担をかけるとき，あらかじめ承諾をえようとすること。手紙・文書に使う。
「会費は，御欠席でも返却いたしませんので，あらかじめ御理解をお願い申し上げます」
Ⅱ［ス他］
筋道やわけを正しく考える。正しく知る。
「相手の主張を理解する」「反論は論文の主旨を正しく理解してからでなければならない」「古典の文章を理解して，日本人の考え方を知る」「この辞典は，とても理解しやすい」

りっぱ（立派）［形動］
①　尊敬の気持をおこさせるほど，すぐれているようす。
「彼は堂々たる体格の立派な人だ」「彼女は立派な家柄の生れだ」「彼女は二人の子を立派に育て上げた」「あの人はノーベル賞を受けるほどの立派な業績をあげた」
②　その対象が見事であるさま。申し分のないようす。
「彼は日本料理の立派な腕前を持っている」「立派な家に住んでいる」「彼のひげは立派だ」「あの子はもう立派に大人だ」
③　反対の余地がないようす。完全であるさま。
「無実であることを立派に証明した」「それは立派な犯罪だ」「列車の遅延は立派な遅刻の理由になる」

りゆう（理由）［名］
①　なぜそうしたか，なぜそうするか，ということ。根拠。わけ。
「この会社に就職したい理由は何ですか」「健康上の理由で定年前に退職した」「授業に欠席した理由を説明する」「経済上の理由で進学を断念する」「計画中止の理由を明らかにする」
②　その時の行為を正当化するいいわけの材料。口実。
「風邪を理由に欠勤した」「何かと理由をつけて小遣いをせびる」

りゅうがく（留学）［名・ス自］
Ⅰ［名］
外国など，よその土地へ行って，一定の期間とどまって，専門の知識を学ぶこと。
「三年間，アメリカのカリフォルニア大学に留学を希望している」「内地留学の願いがかなった」
Ⅱ［ス自］
外国など，よその土地へ行って，一定の期間とどまって，専門の知識を学ぶ。
「中国文化を学ぶため北京大学へ留学した」「国際基督教大学へ入学すると，アメリカの大学へ留学したのと同じカルチャーショックを経験する」

りょう（寮）［名］
①　同じ組織や団体に属する人が，日常生活をする所として建てられた建物。寄宿舎。学校，会

社，寺院などにある。
「全寮制の高校に入学した」「大学の寮に入る」「独身寮」「母子寮」
② 会社が社員の慰労のために建てた宿泊施設。
「海辺の寮で一週間家族で過した」

れい（例）［名］
① 昔からのしきたり。習慣。ならわし。
「市長はこれまでの例を破る」「村では，これが例になっている」「世間の例にならう」
② いつもと同じ。ふだん通り。
「例によって朝の散歩に出かける」「彼は酒が入ると例の話をはじめた」「例になく元気がない」「例になく今朝は寒い」
③ 見本。たとえ。よりどころ。
「具体的な例をあげて説明する」「例をあげればきりのない話だ」「自分の経験を例に引いて講義を始める」「この辞書を例にとると，日本語の習得は必ず成功する」
［慣用句］
例によって例のごとし
いつも決まりきっていて，変わりばえがないこと。
「校長の訓示は例によって例のごとしだ（いつも同じだ）」

れい（零）［名］
① これより大きければ正数，小さければ負数となる，正と負との境目の数。これを他の数に加えても値が変わらないという性質を持つ。ふつう［0］であらわす。
「零下十度」「午前零時」「視力は零コンマ八（0．8で表す）」
② 物が全くないこと。ゼロ
「試合は1対零（1対0で表す）」
［慣用句］
零が一つ多い
数字の0が一つ多いため，10進法の桁（けた）が多い。ひとけた大きい。10のつもりが100になっていれば零が一つ多いことになる。

れきし（歴史）［名］
① 国家，民族，文明などの，過去から現在までの歩みとその記録。
「帝王の歴史は悲惨の歴史である〈倫郭塔〉」「歴史は繰り返される」「日本の歴史を読んでみよう」「宇宙の歴史を考えてみよう」
② ある人，ある品物，ある団体などの誕生から現在までの時間的経過で，心に残る記憶。来歴。沿革。その記録。
「私の母校は100年の歴史がある」「300年の歴史を誇る和菓子屋に行く」「ボールペンの歴史が知りたい」「日本における洋装の歴史はおもしろい」「愛車の歴史を書いた」
③ 歴史学の略。将来を考えるために，過去の出来事を調べ，分析する学問。また，その教科。
「大学で歴史を専攻する」「高校で日本や世界の歴史を教える」

ろうか（廊下）［名］
① 木造建築の家で，部屋と部屋をつなぐ板敷きの細長い通路。
「廊下のぞうきんがけをする」
② 西洋建築の建物で，部屋と部屋をつなぐ細長い通路。
「都庁の廊下をコツコツと音をたてて歩く」

ローマじ（ローマ字）［名］
① 古代ローマで，ラテン語を書き記すために成立した表音文字。現在は，英語やフランス語など，多くの言語の表記に用いられている。ラテン文字。
② ラテン文字を用いて，日本語を書記すること。その表記法。
「ローマ字で書くと，私の名はHIDA　YOSHIFUMIとなる」

ろくおん（録音）［名・ス他］
Ⅰ［名］
レコードや磁気テープ，デイスク，フイルムなどに音を記録すること。そして，その音をいつでも再生できるようにすること。またその音。
「録音を取る」「録音がいい」
Ⅱ［ス他］
記録媒体に音を記録して，その音をいつでも再生できるようにする。
「首相の演説を録音した」「小鳥の声を録音する」

わがまま（わがまま）［名・形動］
Ⅰ［名］
他人のことは考えないで，自分のしたいように振る舞うこと。自分勝手。気まま。
「わがままを言うな（上の立場から下の立場の人にいう）」「わがままを通す」「わがままは許さないぞ」「ここは一つ，わがままを聞いていただけませんか」
Ⅱ［形動］
自分勝手に行動するさま。気まま。
「あの子はわがままに育てられている」「わがままな子供は，将来，苦労するぞ」「あいつはわがままだ」

わく（沸く）［五自］
① 水が熱せられて，湯気が出たり，泡が出たりする状態になる。煮立つ。
「湯が沸いたらめんを入れる」「お風呂が沸きました（入浴できる適当な温度になる）から，どうぞお入りください」
② 観客や聴衆が，興奮してさわぐ。心をおどらせて，さわぐ。
「ホームランに観客はいっせいに沸いた」「主役の登場に場内が沸く」「年金の問題で議論は大いに沸いた」「町ぢゅうが高校野球の優勝に沸いた」

わく（湧く）［五自］

① 地面などの中から，水などがたえず出てくる。

「畠から温泉がわいた」「岩の間から清水がこんこんとわいている」「石油がわく」「涙がとめどなくわいてくる」

② 小さい虫が，一面に発生する。

「うじがわく」「水たまりにぼうふらがわいた」

③ 予想しなかったことが，突然あらわれる。

「西の空に黒空が湧いてきた」「これは降ってわいた災難だ」

④ 心の中に，自然に生じてくる。起こる。現れる。

「講演を聞いて希望がわいてきた」「どうも実感がわかない」「興味がわかない」「新しい疑問がわいた」「幽霊の話に，恐怖心がわいた」

わけ（訳）［名］

① 物の筋道や道理。

「君はわけのわからない人だ」「わけを説明するから聞けよ」

② 物事の理由。事情。

「どういうわけで休んだのか」「これには深いわけがある」「彼は，どういうわけか機嫌が悪い」

③ その言葉の表わす意味。なかみ。

「言うことのわけがわからない」「私のようなお転婆とはわけが違う」

④ 当然のこととして，そうなること。そうすること。

「それなら泣くわけだ」「それなら笑うわけだ」

⑤ 上に述べたことをまとめる役割をする。‥‥とのこと。‥‥次第。

「彼は知らなかったわけです」「お願いに上がったようなわけでして」

⑥ 面倒なこと。造作。手間。

「タクシーで行けばわけはない（簡単だ）」「それはわけもない事だ」

⑦ 男女の関係。

「あの二人はわけがありそうだ」

［慣用句］

わけがない

そんなことは考えられない。

「データのなくなるわけがない」

わけにはいかない

そうすることは，できない。

「外出するわけにはいかない」「彼を許すわけにはいかない」「仕事をやらないわけにはいかない」「調査しないわけにはいかない」

わけではない

否定や断定をやわらげた言い方。

「君が憎いわけではない」「根拠がないわけではない」「別に反対するわけではない」

［表記］

「訳」は「訣（ケツ）」に似ていることから流用された用字で，「訳」は「やく」と読まれるので，

仮名で書くことが多い。

わける（分ける）［下一他］

① 全体を二つ以上にする。

「生徒を二つのチームに分ける」「代金を三回に分けて支拂う」「髪の毛を七三に分ける」「一杯のラーメンを兄弟で分けて食べた」

② 押して両側へ寄せる。

「のれんを分けて店に入る」「船が波を分けて進む」「雪を分けて冬山を登る」「草の根を分けて探がす」

③ 種類によって分類する。区別する。仕分けする。

「和書と洋書を分けて配列する」「ジャンル別に分ける」「収穫したりんごを大きさで分ける」「仕事と遊びは，分けて考えなさい」

④ ひとまとまりのものを，いくつかの部分にして，それぞれに与える。分配する。

「バースデーケーキをみんなで仲良く分ける」「社長は利益を社員に分けた」「みかんを兄弟に分けてあげた」「財産を5人の息子に分けた」「花の種を分けてもらう」「飲み水を少し分けてください」

⑤ 「売る」の遠まわしな言い方。

「知り合いに，安く分けてもらいましょう」「農家でお米を安く分けてもらう」

⑥ 勝負事で，引き分ける。引き分けになる。

「一勝一敗で星を分ける」「この試合を分ければ，彼女の優勝が決まる」「將棋（しょうぎ）の強敵と分ける」

⑦ 仲裁して，やめさせる。

「喧嘩（けんか）を分ける」

⑧ 違いを明らかにする。

「選挙で100票の差が当落を分けた」「投手力の差が勝敗を分けた」「この事件の対応が二人の人生を分けた」

⑨ 共有する。いっしょに持つ。

「血を分けた兄弟だ，がんばれ！」「優勝を分ける（両者優勝となる）」

わたる（渡る）［五自］

① 向こう側に移動する。

「横断歩道を渡る」「川を泳いで渡る」「川を舟で渡る」「橋を渡る」

② 海を越えて移動する。

「大陸から日本に渡ってきた中国文化の影響は大きい」「一家はブラジルに渡った」「シベリアから鳥が渡ってくる」

③ 上を通り過ぎて行く。

「木々を渡る風は心地よい」「湖面を渡る風に心がなごんだ」

④ 暮らしていく。生きる。

「腕一本で世の中を渡る」「あちらこちらと渡って歩く」

⑤ 他人の所有となる。

「家が人手に渡る」「営業権がＡ社に渡った」「資料が全員に渡っていない」
⑥　ゆきわたる。広くおよぶ。
「再三にわたる警告を無視する」「会議は八時間にわたって続いた」「多岐にわたって考察を加える」
［慣用句］
渡る世間に鬼はない
世の中には，鬼のように無情な人ばかりではなく，慈悲深い人が必ずいるものだ。

わりあい（割合）［名・副］
Ⅰ［名］
①　全体に対するその部分の比率。
「クラスで風邪をひいたのは二人に一人の割合だ」「会場の男と女の割合は３対２であった」
②　（「…の割合に」の形で）…にしては。‥‥の割りに。
「年の割合に元気な老人だ」「今日は冬の割合には暖かいよ」
Ⅱ［副］
比較的。案外。思いのほか。
「彼女は割合背が高い」「裏通りの，割合静かなアパートに住んでいる」

日本語基本語辞典—基本 1001 位～1500 位—

平成 25 年 1 月 20 日

編　集　国立国語研究所日本語教育研究・情報センター
　　島村　直己

発行者　東京都立川市緑町 10－2
　　国立国語研究所日本語教育研究・情報センター
　　迫田久美子

印刷所　株式会社外為印刷